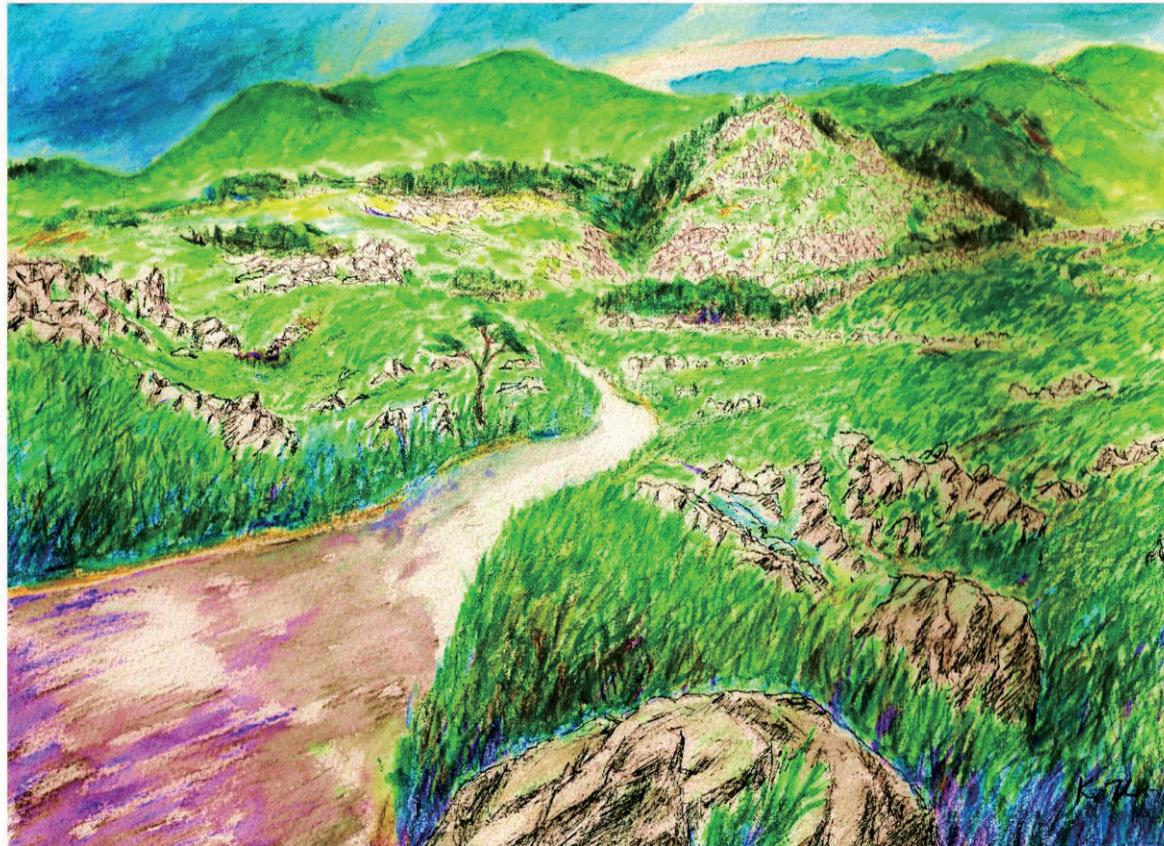


20周年記念誌

東谷地区まちづくり

20年のあゆみ



令和4年3月
東谷地区まちづくり協議会

20th



東谷地区まちづくり協議会と同じ年の
東谷の未来を担う若者たち

令和4年1月9日（東谷地区成人祭にて撮影）

【 目 次 】

◆ 挨 捭	1
東谷地区まちづくり協議会会长 内尾 正憲	
◆ 祝 辞	2
北九州市長 北橋 健治	
北九州市小倉南区長 丹田 健二	
◆ 東谷地区まちづくり協議会 20周年によせて	4
◆ 東谷地区まちづくり協議会のあゆみ	19
◆ 東谷地区まちづくり協議会の活動	32
◆ 市民センターの活動	43
◆ 東谷地区の現況	51
◆ 東谷の将来像	70
◆ 編集後記	74
◆ 20周年事業趣意書・寄付広告一覧	75



挨拶

東谷まちづくり20周年にあたり



東谷地区まちづくり協議会
会長 内尾 正憲

東谷地区まちづくり協議会発足20周年を迎えることができました。

当協議会は諸先輩方の熱い思いとご苦労のお蔭で平成13年8月29日発足し現在に至っています。これは地域の皆様方や企業・各種団体様をはじめ多くの関係者のご理解ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

私が会長という重責を担い4年目になります。在任中に、この記念すべき年に当たりましたことをたいへん光栄に思っています。

みなさまご存知のように東谷地区では平尾台観光祭、東谷地区区民体育祭、それに当初は別々に行われてきた文化祭、農業祭、チャリティコンサートに加え秋はなびを2日間にわたり行われる東谷フェスティバル等いろんな行事がありますが新型コロナウイルス感染症により全て昨年（令和2年）に続き今年も開催を断念しました。本来であれば20周年記念事業を東谷フェスティバルで行う予定でしたが、残念ながらこの記念誌に留まりました。

緊急事態宣言が発出されコロナウイルス感染症の蔓延下、平尾台病院並びにやまびこ学園様から職域接種のお話があり緊急町内会長会を開催し、東谷地区の皆様の為になるならという想いでいち早く取り組み924名の方が接種されました。

また、西鉄バス筑豊㈱が運行してきた田川～中谷線が令和3年9月末をもって廃止となることを踏まえ西鉄バス北九州㈱に路線の運行を要望しました。議員の皆様のご尽力と行政からの助成もあり令和3年10月1日から小型バスによる新路線での運行が始まりました。

只、これも恒久的なものではなく一年の試行期間です。これを維持していく為には西鉄バス北九州を利用するしかありません。みんなの為、自分の為に”乗って残そう新バス路線”にご協力をお願いします。

その他、当協議会では新しく東谷防災委員会を立ち上げ、民生委員さん方にもご協力頂き、災害時における要支援者の助成をする体制を構築しました。

20周年を機に、より一層“住みたい地区・住んでよかった地区 東谷”と誰もが感じるまちづくりを進めて参ります。今後共、皆様方のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。併せて記念事業を行うにあたりご協賛・ご協力頂きました企業・各種団体の皆様本当にありがとうございました。

終わりに皆様方のご健勝と東谷地区の発展そして新型コロナウイルス感染症の終息を祈念いたします。



祝 辞



北九州市長
北橋 健治

東谷地区まちづくり協議会の設立20周年を心からお祝い申し上げます。長年にわたり、地域を支えてこられた本協議会の皆様のご尽力に深く感謝いたします。

東谷地区では、令和3年10月1日から西鉄バスの新路線が開通しました。

これは、まちづくり協議会の内尾会長を始め、地域の皆様の強い願いが実を結んだものです。この新路線は、他の路線バスやモノレールに乗り継ぐことができるため、とても利便性が高いものです。今のところ1年間の期間限定の試行運行ですが、路線定着のために、引き続き皆様の積極的なご利用をお願いいたします。

さて、東谷地区では、井手浦の「尻振り祭」や呼野の「お糸まつり」など、伝統行事が地域文化として受け継がれています。また、地域の融和と活性化を図るために、「東谷地区成人祭」や「東谷フェスティバル」、「平尾台観光まつり」など、地区独自の盛大なイベントも実施されています。これらのイベントは、地域の絆を育み、校区の魅力を活かしたまちづくりにつながっています。

このように、地域が主体となった様々な活動は、まさに本市が推進しているSDGsの行動目標に合致したものです。今後も「SDGsのトップランナー」を目指し、誰もが安心して住み続けられるまちづくりを進め、「日本一住みよいまち・北九州市」の実現に向けて取り組んでまいります。引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

残念ながら、昨年からの新型コロナウイルスの影響で、様々なイベント等が延期・中止になりました。皆様には感染防止対策を十分に取った上で、活動していただきますようお願いします。

結びに、東谷地区まちづくり協議会の今後ますますのご発展と地域の皆様のご健勝を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞



北九州市小倉南区長
丹田 健二

東谷地区まちづくり協議会設立20周年、誠におめでとうございます。また、平素より内尾会長をはじめ、地区の皆様には、区政にご協力にいただき、厚くお礼申し上げます。

東谷地区まちづくり協議会は、「人にやさしい 緑豊かな 住みよい東谷をめざして」をキャッチフレーズに、地域活動を行い、まちづくりを進めています。

地域活動として、地元の企業、病院、施設等と、地域の方々が一体となって行っている「東谷フェスティバル」、町内対抗で競い合う「東谷地区体育祭」、地域主催の「東谷地区成人祭」など、地域の独自性が感じられる多くのイベントや行事があります。

これらの活動を通して、人と人とのつながりが深まるとともに、地域に対する誇りと愛着が育まれています。

また、東谷地区には、日本有数のカルスト台地である平尾台があり、そこでは、冬の風物詩である「野焼き」や「クロスカントリー」「トレイルランニング」などの雄大な自然を感じられるスポーツイベントが開催され、全国から多くの方が訪れます。

とはいって、昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントや行事の中止・延期など、地域活動も制限されてきました。

そんな中、今年6月に、地区内の医療機関や施設との連携・協力により、本市の中でも、いち早く、地域住民を対象とした新型コロナワクチンの職域接種が実施されました。まさに、皆様の迅速な行動力と団結力を示したものです。

ワクチン接種が進み、10月時点では、新規感染者も減少傾向にありますが、引き続き、感染防止対策を行った上で、地域活動をしていただきたいと思います。

結びに、設立20周年にあたり、これまでご尽力くださいました関係者の皆様にお礼を申し上げるとともに、地域の皆様の一層のご活躍とご健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



東谷地区まちづくり協議会 20周年によせて



東谷市民センター
館長 馬場 純子



東谷地区協議会
会長 前田 康典
東谷地区まちづくり協議会第四代会長

東谷地区まちづくり協議会20周年おめでとうございます。このような記念すべき年に館長として、3年目を迎えるなかで、地域の温かさに包まれ、記念事業に携わることができ、皆様と共に祝いできることを、心から大変うれしく光栄に思います。

ご縁があり東谷へ着任して、最初に取り組んだ平尾台観光まつり、熱く燃えた東谷フェスティバル、300年の歴史お糸まつり、身近に綺麗な花火を見る事ができる事に感動しました。東谷地区の素晴らしいしさに触れ、また、伝統ある行事の多さに驚くと同時に、皆様の取り組む姿に感銘を受けました。地域の絆や結束力、熱いパワーを肌で感じてきました。

特に、他にはない平尾台の野焼きでは広報班として、消防ヘリに搭乗、点火しながら写真を撮る貴重な体験をさせて頂き、感慨深いものがありました。活力ある東谷地区で、さまざまな事を学び、日々勉強で、楽しく勤めています。

元気いっぱい、地域の皆様と一緒に、地域づくり、人づくりに関わらせていただき、東谷ならではの活動で、多種多様な経験ができるこに感謝しています。

これからも、いろいろな出会いや、発見を通して、地域と繋がっていき「地域の宝子どもたち」を見守り、地域を愛する種をまき、郷土愛の花が咲くことを願っております。

そして、住み慣れた場所で、誰もが安心して住み続けることができる、まちづくり推進のため、地域の皆様の活動の拠点として、地域に寄り添い地域に密着した市民センターづくりに努めてまいります。

今後とも、東谷地区まちづくり協議会発展のため、微力ではございますが、一翼を担えるよう職員と連携しながらチーム東谷の絆で邁進してまいります。

東谷まちづくり協議会発足20周年、おめでとうございます。この10年間の前半、3期6年会長をつとめさせていただきました。皆様には御協力、御支援をいただきました。改めてお礼申し上げます。

一年間の行事は成人式に始まり、新年祝賀会、野焼き、総会、平尾台観光祭、敬老会、体育大会、そして東谷フェスティバルと続き各部会の活動も充実した展開で本当に多忙な日々でした。地域の課題であった東谷川の改修、猪猿対策は行政の支援もあり成果をあげています。只、少子高齢化に伴なう人口減少は、地域の足でもあるバス路線の存続問題となっています。『乗って残そう新バス路線』運動が定着し、発展することを願っています。

60年前の東谷はセメント大手2社を中心とした企業城下町でした。人口は9000人程でした。以来、産業構造の変化で現在の姿になっていますが、企業と地域の共存共栄の精神は続いております。まちづくり協議会の事業に理解を示され、企業の協賛金は諸活動の原資として生かされています。他の地域にはない恵まれた状況です。住みよい東谷をめざして地域の力を維持していくには、まち協の積極的な活動が必要です。組織の再編を含めてこれからの時代を考える時期だと思われます。

市街化調整地域の指定も地域の活力減の一つです。他所から住みやすい東谷に移住、移転してくるシステムの構築も必要です。又、小中一貫校の創設によって教育の街東谷を目指すのも有効な手段と思われます。皆様の英知で東谷を盛り上げていきたいものです。



市丸町内会長
東谷地区まちづくり協議会
副会長 有吉 和美
(市民センター運営部会長)

私が最初に、地域の安全パトロールに参加したのは、かれこれ三十年前のこと。町内の自治会長の大江会長からパトロールに行くから付いて来いでした。最初に行ったのが石原町駅で少年達がたむろしてタバコを吸って騒いでいました。その光景を見て、どう思うかと聞かれ、無人駅ではと答えた記憶があります。それで大江会長が東谷地区の各種団体に呼びかけ、石原町駅を有人化しようと、東谷地区の各種団体合同で国鉄や北九州市に陳情や要望され実現して今年でちょうど二十年になります。

その次に現地に行った山ヶ迫と合馬の境にある合馬トンネルでは、一台の車がとまっていて、中でビニール袋に液体を入れ吸っている姿が見えました。シンナー常習者で注意するなどと言われ、センターに帰り、早々東谷駐在所の警察官に報告し事なきを得ました。色々思い出はあります。

現在私は、まちづくり協議会で、生活安全部会に所属して、青パトに乗り見回りをし、市民センターの運営部会では、馬場館長の指示にて文化祭の実行委員長に携わっています。安全部会では、松井八朗君の指示により青少協や学校関係の方々と一緒にパトロールを行い、安全・安心の東谷地区を作るため微力ではありますが、皆で頑張っています。ご協力をお願い致します。



石原町町内会長
東谷地区まちづくり協議会
副会長 田村 章憲

「東谷地区まちづくり協議会 20周年」おめでとうございます。

令和2年、3年度もコロナ禍により地域の季節ごとの年中行事や催しが、中止又は縮小となり東谷地域の皆様も心なしか元気がないように感じていました。それでもまち協は動いています。

新バス路線開通、新型コロナワクチン接種では全国でも先駆けての職域接種を行いました。いざとなればひとつにまとまり皆で協力するこれこそが東谷地区のまちづくり協議会のあり方だと思います。

ところで、我が町内には「石原町東谷川をきれいにする会」という団体があり、年3回程河川清掃を行い、毎年県への報告も行っています。4年ほど前からモクズカニの放流を有志が実施しており、昔のように沢山のカニや魚がすみづくきれいな川にしたいと考えております。

東谷地区まちづくり協議会のより一層の発展を心より願っております。





東谷地区まちづくり協議会
事務局長 橋木 秀徳



東谷出張所
所長 内中 京子

東谷地区まちづくり協議会発足20周年、誠におめでとうございます。

平成19年に木下町内会長を務め平成22年から東谷地区まちづくり協議会事務局長として携わるようになって早いもので15年が経ちます。その間連合会長は、松崎会長、島藤会長、前田会長、内尾会長と4名の会長さんの元、事務局長として仕えてまいりました。

10年前の東谷まちづくり協議会10周年の折に10周年記念誌として「東谷まちづくり10年のあゆみ」を発刊し、またご存じの方も多いと思いますが「東谷10年構想」も同時に発行致しました。これから10年東谷がどのようになるか、またどのようにしていくかというような冊子でした。その「10年構想」ですが、10年たった今振り返ってみると実際に実現できた事また実現できなかった事様々ありますが、これから10年も新たな10年構想をかけ、今以上にこの東谷が発展し、繁栄していくことを祈念しています。

この東谷も高齢化が進み世帯数（自治会に加入している世帯数）は、平成23年には1,674世帯でしたが、令和3年の現在は1,436世帯とこの10年間で238世帯減少しています。これからも世帯数と人口も減少していくと思われますが、若い世代の方々がからの東谷を支え、引っ張っていき盛り上げてくれる事を願っています。

私も微力ではありますが、陰ながら応援していきたいと思っていますので、これからも住みよい東谷を目指して、みんなで頑張っていきましょう。



東谷地区まちづくり協議会の設立20周年、誠におめでとうございます。

この20年に渡る数々の功績は、地域の皆様の弛まぬ努力とあふれる地域愛、そして強い絆やチームワークの賜物であり、心から敬意を表します。

近年の大規模な自然災害やコロナ禍を生き抜くためには、「地域の力」がとても重要な鍵と言われ、これを高めていくと多くの関係者が悩んでおられます。東谷地区には、地域でのコロナワクチン職域接種の取組み等、「高い地域力」という素晴らしいお宝があると感じています。地域の皆様には、この脈々と続くお宝を次の世代へ引き継いでいただきたいと切に願っております。

本市では、昨年から続く新型コロナウイルス感染症への対応等により、行政手続のデジタル化が急速に進められています。デジタル化で出張所の業務がどんなに変化しても、懇切丁寧な対応や気軽に相談できる雰囲気等、市民の皆様に寄り添う出張所の役割は変わらないと思います。

東谷出張所は、併設の市民センターと連携し、身近で役立つ行政機関を目指しています。所長がまちづくり協議会の相談役を拝命する等、地域の一員として認めていただいていることに感謝し、これからも地域の皆様とともに日々精進してまいります。





(一社) 東谷興農会
会長 田中 弘實

東谷まちづくり協議会創設 20 周年を迎え、
誠におめでとうございます。

本格的な人口減少、少子高齢化が進む中、地域住民の相互の連帯感の向上を図るため多くのイベント開催、最近では、新バス路線の開通、新型コロナウイルスの拡大防止のため東谷住民の方々にワクチン接種を推進する等、福祉活動に多大なご尽力を賜り、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、一般社団法人東谷興農会では、これまでの会館・体育館の老朽化に伴い、各方面から新築のご助言を頂き、令和 2 年 10 月から着工し、この度、令和 3 年 11 月より使用開始の運びとなりました。これもひとえに関係者の皆様の深いご理解とご支援のおかげと心より御礼申し上げます。

この新しい会館・体育館が新たな東谷地域の一つのシンボルとなり、地域住民の交流の場、健康づくりの場として更に活用されることを願っています。

東谷興農会理事会といたしましても、気持ちを新たにして、これから新しい事業、環境を東谷地域が明るく、住みやすい元気のある地域となるように、東谷まちづくり協議会等関係団体と更なる連携を深め、共に新たな道のりを歩んでいただきますよう強く願うものです。

最後になりましたが、東谷まちづくり協議会の役員一同のご苦労に感謝申し上げると共に、今後の更なる活躍を願っております。



東谷地区老人クラブ連合会
会長 山下 一則



東谷まちづくり 10 周年記念誌の寄稿の時は、東谷地区民生委員児童委員協議会の会長としてお祝いの言葉を述べさせて戴きましたが、時の移ろいは早いもので、あれから 10 年過ぎました。

今回の 20 周年記念誌には東谷地区老人クラブ連合会の会長としてお祝いの言葉を述べさせて戴きます。当時を振り返ってみると東谷まち協の設立記念として平成 23 年 9 月 19 日に東谷地区社会福祉協議会の会長に就任して第 44 回東谷地区敬老祝賀会を盛大にとり行いました。その翌年の 1 月には東谷地区成人祭を開催いたしました。東谷地区の年長者の皆さんのがんばり、生きがいづくりや青年の輝かしき人生の門出を祝福した事など、なつかしく思い出されます。

東谷地区体育委員会の会長として東谷地区的諸行事にかかわりはじめて 50 年になりました。その間、東谷中学校 P T A 、東谷地区青少年育成協議会、東谷地区社会福祉協議会のお世話をさせて戴き、現在は小倉南区民生委員児童委員協議会、小倉南区老人クラブ連合会のお世話をさせて戴いていますが、今日まで多くの諸先輩やその時々の役員や友人に恵まれましたことは忘れられない思い出でもあります。これまで皆さんに支えられてやって来られた事は私の人生の心の記念誌です。これからもこよなく愛する我が東谷、心のふるさと東谷の為、また東谷を担う後継者の為、微力ですが務めてまいります。

結びに、昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大は私たちの日々の暮らしの制限や地域の活動が中止や延期を余儀なくされました。こうした中、人と人との直接会って話し合うことの大切さに気付き、知恵や経験を出し合い

“つながり”を継続する活動が出来ませんでした。これまで地域の中で取り組まれてきた活動への思いや意味を改めて見つめ直し、身近な地域で寄り添い支え合うために何ができるか皆さんと一緒に考えていくたいと思っております。東谷まち協のさらなるご活躍、ご発展を祈念いたします。



呼野町内会長
河野 秀春



小森町内会長
高住 一夫

平尾台だけじゃないぞ！東谷！

「平尾台・東谷！満喫スタンプラリー！」の提案

東谷の良さを魅力を知ってもらい、東谷に来てもらい、自然を観光を体験をスポーツを食事を楽しんでもらいましょう。そして、近い将来に東谷に住んでもらいましょう。「東谷スタンプラリー」を提案します。ご検討のテーブルに上げて頂ければ幸いです。

「平尾台・東谷！満喫スタンプラリー！」試案
※以下、敬称略。各社名など無断掲載をお許しください。

※各団体と提供内容の概要を以下に記します。

A 「健康と自然満喫ラリー」

平尾台・千仏他各鍾乳洞・平尾台自然の郷・東谷興農会他…駐車場利用・入場・体験工房・イベント参加・グラウンド体育館利用など

B 「食とお酒満喫ラリー」

ケンちゃんの村・無法松酒造・各食事店・各商店他…小倉牛他食品購入・お酒購入・食事利用・商品購入など

C 「人と自然満喫ラリー」

三菱マテリアル東谷鉱山・住友大阪セメント小倉事業所・ワキノアートファクトリー・東大野八幡神社など…鉱山採掘現場バス見学・花火試験打ち見学・お祓い・祈願など

※利用回数、購入金額などで食品、購入割引券・利用割引券などを提供します。

※各団体の現役員は多忙です。意欲のある地区的のメンバーを募り、無理の無い範囲で定期的に会合を開き、適宜各団体にもご参加頂いて、実現に向けて検討のテーブルに上げませんか。

東谷の将来に向け何卒ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

東谷地区まちづくり協議会発足二十周年、おめでとうございます。

小森町内会長就任二年目となります、丁度新型コロナウイルス感染症が発生し、町内会、東谷地区も、イベント等は開催出来ないまま終わろうとしています。

小森町内最大のお祭りであります、「豊前坊祭」について触れてみます。

豊前坊祭（牛ごもり）の開催日は、毎年九月第二丑の日となっており、由緒不詳なれども古者の伝言によると、およそ七百年前、小森住民の祖先が靈験顯著なる大神の御靈を彦山の靈地に鎮座せる、高住神社より御勧請し、小森山の聖地に泰祀すと、その後豊前坊と尊宗し農業の守護神として村人の信仰厚く、登山詣し豊作を祈れりと書かれています。

豊前坊山社で神事を行ない、山から子ども神輿を下ろし、町内の順路を周り約二時間かけて公民館に到着します。以前神輿は肩に担いでいましたが、子ども達も減少し、現在は神輿を台車に乗せて綱で引き、後方で押しながら大人も一緒に祭りを楽しんでいます。夏休みには小学四年生以上が道囃子を縦笛と太鼓とジャンガラで練習をします。大人も一緒になって練習をしますが、やはり子どもの覚えの早さにはついていけません。しかし、この二年間コロナ禍で祭りが中止となり、子ども達の想い出もなくとても残念です。

来年こそはと思いながら、早くコロナウイルス感染症の「終息」願っています。





木下町内会長
奥村 英喜



新道寺二町内会長
大下 数行

東谷地区まちづくり協議会は 2001 年にスタートしました。立ち上げ当初は大変なご苦労があったことでしょう。発足当時の東谷町内連合会の役員様、又各地区の町内会長様、本当にありがとうございました。現在に至る 20 年の歩みの中で、先輩方々が理想的なコミュニティを形成しながら、一つ一つ積み重ねてきたおかげだと感謝申し上げます。

私も現在、町内会長 3 年目となり専門部会では生活安全部会の担当をしています。月に 2 回、生活安全パトロールを実施、令和元年度は参加していましたが、令和 2 年度からは、コロナウイルス感染症の影響で参加出来ていない状況です。部会長の松井さんにはご迷惑をおかけしております。

令和 3 年度も、例年行われていたイベントが中止になり、活動できない状況です。しかし、平尾台病院様・やまびこ学園様のご協力で、木下地区希望者 129 人へのワクチン接種が実施できたことは、大きな成果だったと思います。

又、令和 2 年 8 月に西鉄バス筑豊社から、利用者の減少に伴い、令和 3 年 9 月 30 日をもって路線バスの廃止の正式通知がありました。しかし、令和元年度から東谷地区まちづくり協議会では、西鉄北九州社へ新規路線運行の要望書提出等を行い、備えをしてまいりました。

市議会議員吉村様、北九州市都市交通政策課のご支援もあり、バス運行が一日も止まることなく令和 3 年 10 月 1 日より、新路線で開始されました。今後も長きにわたり新路線バスを残す為、ご利用の程よろしくお願い致します。

最後に、コロナウイルス感染症の影響で、出口が見えない状況がまだまだ続くと思われます。しかし、今後も地域の絆を大切にし、伝統を守りながら東谷地区の地域力がますます向上するよう頑張りたいと思います。

東谷まちづくり協議会 20 周年誠におめでとうございます。

東谷まちづくり協議会発足 20 周年を迎え、誠におめでとうございます。

私は、いま流行の仕事と町内会長の二刀流でありまして、各種行事に参加出来ない事もあり、会長はじめ、役員、委員、事務局の皆さんにご迷惑をおかけしています。

私達、新道寺二町内は、令和 2 年東大野神社の秋季例大祭の当前として、準備をしておりましたが、新型コロナウイルス蔓延の為、祭典は神社及び総代等により神事のみ行うこととなり、令和 3 年度に繰り越し、再度準備を進めていましたが、コロナ感染のリスク等を、東大野神社宮司さん、氏子総代会等の皆様の御考慮により昨年同様、神事のみとなり、ここでもコロナに翻弄された令和 3 年だと思います。

この様な中でも東谷まちづくり協議会の活動は多岐にわたり、コロナウイルス感染防止対策を徹底し、新型コロナウイルスワクチン職域接種や路線バスの各機関との折衝、各行事開催可否の決定など役員、委員、事務局等関係者の皆様のご苦労は、私には想像すら出来ません。

まさに、東谷まちづくり協議会の設立目的に記されている相互の連帯感と自治意識の高揚をはかるとともに、地域共通の課題の解決に努め、地域の発展と福祉の向上に資することに沿った素晴らしい組織であり、発足より現在に至るまでの、役員、関係者、諸先輩方の東谷愛を強く感じています。

コロナウイルス感染症が、一日でも早く収束し、東谷まちづくり協議会が通常の活動に戻る事と、地域の誇りと、皆様のご健康を願って、東谷まちづくり協議会発足 20 周年記念の挨拶とします。





新道寺南町内会長
山下 明博



母原町内会長
獅峰 孝弘

新道寺南町内会の会長の任務に当たらせて頂きました。山下明博です。皆の協力に支えられ会長をさせて頂いてますが、コロナ禍の中でイベント催事がありやれてないのが現状で、変わってワクチン接種が飛び込みで開催され少しは貢献できたのかな？未だ何もわからない状態です。今後も皆様のご指導の下ご協力させて頂きたく思います。

この地に産まれ左の山から日が昇り右の山へと消えてゆく、南の平尾台を眺め日々を過ごしていました。毎日何となく眺めていた姿に気づかず名古屋での学生生活の時に平尾台の変貌にさみしさを感じ、「ここも変わらのだな～」と、初めて感じた記憶を今でも覚えています。

今ではここに居てもその変貌がわかります。田んぼに挟まれた道をかつて通った小学校に昨年から孫も通っていて、こんな山々に挟まれたこの地でもあれだけいた私の新道寺小学校の同級生の数に比べ孫の同級生は14人、隣の小学校は半分の7人（私たちの頃とは反転・・平尾小学校も無い）。

せっかく縁があって私の選んだ居場所だから、とても居心地の良い馴染んだ土地なので寛容に時と共に過ごしてゆきたいです。でも北九州市の抱える人口の減少、この東谷でも人口の減少、空き家が増えるばかりの中で今年7月にちっちゃな可愛い女の子（私達の孫）が新道寺南町に誕生しました。そうでした、今年は興農会館関連が新しく生まれ変わったのも可愛い西鉄バスが走り出したのも大きな出来事でした。

非力ではありますが今後とも皆様のご協力のもと歩んでまいりますので宜しくお願ひ致します。

東谷地区まちづくり協議会20周年誠におめでとうございます。

コロナ禍のなか、いろいろな行事・祭典が実施できないこの1・2年ですが、本年度においてはコロナワクチン接種の申込み支援、西鉄バス新路線開設等はいろんな苦情や意見はありました、大きな実績ではないかと思っています。

20周年の原稿依頼を受けて、どんな事を書こうかと考えましたが、今までどこの町内でも問題になっていることでしょうが、町内3役員の選出問題と町内会員の高齢化問題です。前者については年金の繰り上げ支給に伴い、60代後半から70代まで仕事をしなければいけない状況にあります。町内会長・副会長・会計等の業務は平日の業務も必要で仕事をしながらでは難しい状況です。ある程度パソコンやネット等にも精通が必要で人選も限られてきます。3役の選出はやってくれる者がいない状況が予想されます。

また、町内会員高齢化問題ですが母原町内の半数近くが75歳以上の一人住まい夫婦ふたり生活の家庭です。当番制の組長の職や市報の配布、会費の徴収も困難な状況です。また、各団体が市民センターや興農会館等で実施するイベントにも自動車免許の返納等で参加出来ない現状です。以上のような事から町内会を脱退したいという家庭が増えています。

高齢化等については結論のない難しい問題ですが、各団体で協議し対策を考えていく必要があるのではないでしょうか。





紫水町内会長
力武 重雄



平尾町内会長
森山 博美

「町内会活動の将来展望」

東谷地区まちづくり協議会は、発足以来20周年を迎える間には組織体制や各部会の活動内容も充実し、今後共さらなる発展が期待されていくことだと思います。

一方、紫水町内会の活動としては、東谷地区における伝統行事や各種イベントに参加すると共に町内会独自の行事も企画し実行してきました。特に盆踊り大会や餅つき大会などは町内あげて準備から本番に至るまで大勢参加のもとで楽しめる行事として定着していました。しかしながら、近年になって、町内会員の高齢化に伴い準備作業や資材調達費用の負担などが課題となり、中断せざるを得ない事態となりました。

また、コロナ禍が続いている現在では、多くの人が集まる町内行事の自粛が続いています。

このような状況下においても唯一継続されているのが春と秋の町内草刈り作業です。参加者は大勢ですが広範囲の作業で密集をさけねばコロナ感染対策ができますので日頃のコミュニケーション不足解消の場としても作業をしながらふれあいの時間を楽しめる有効なイベントとなっています。

今後は、これまでの経験を生かした活動方針のもと、快適な生活環境づくりと、町内の人達の潜在的な希望であるコミュニケーションの機会を多く作ることをまちづくりの基本目標としていきたいと思っています。



「町内の未来」

私は、平尾町内会長をしています、森山と申します。私が町内会長になったのは、令和2年4月からです。町内会長になった当初から、新型コロナウイルスが流行していて、緊急事態宣言が発令され、町内の会議や行事がまったく出来ない状態でした。

令和3年度になり、ワクチン接種が始まり、平尾町内も約80%の人が、ワクチン接種が終わり、少しほっとしているところです。

平尾町内につきましては、少子高齢化が進み、一人住まいの高齢の方が多くおられます。民生委員さんに相談して、時々訪問してもらっています。

今でも、空き家が数多く有り、これから10年、20年後になりますと、平尾町内の戸数も半分近くに減少していくのではないかと心配しています。

平尾台に住みたいと言う人を時々耳にしますが、宅地が少ないという事で断念されます。新しい方が移住しやすい様に、住み良い町内にしたいと、微力ではありますが、協力ていきたいと思います。





小倉南署東谷駐在所
所長 井野 佑紀



小倉南消防団第9分団
分団長 村上 誠司

東谷まちづくり協議会創立20周年おめでとうございます！東谷地区の記念すべき節目のときに駐在所員として勤務できることを光栄に思っております。

私が着任してまだ1年目ではありますが、徐々に東谷の方々との交流・団結が深まっているものと勝手ながら実感しています。先日も、市民センターの草刈清掃に家族一同で出席させて頂きました。その時には大勢の東谷の方が集まり、作業前は一帯に雑草が茂っていたにも関わらず、ものの1時間で辺り一面がスッキリとなった様子を見て、皆さんの作業効率の良さに驚かされました。

東谷まちづくり協議会創立20周年にちなんで、本日はまちづくり協議会とも馴染みが深い、防犯パトロール隊員の桂口春男さんについてお話しします。先月をもって桂口春男さんが、30年間続けた朝の子供の見守り活動を引退されることになりました。

皆さんは長年習慣にしていることはありますでしょうか？私が長く続けていることは歯磨きくらいです（笑）（歯科衛生士だった妻からは磨き方が足りないなどとケチをつけられますが…）。例え好きなことであっても、ひとつのことを継続するのは簡単ではありません。30年間という長い期間を人のために無償で尽くすということは、言葉では言い表すことの出来ないような偉業であると思います。そんな信念と真心を貫いた桂口さんに、皆さんもどうか感謝の気持ちをお持ちいただければと思います。

私も任期までではありますが、その思いを引き継ぎ、朝の見守り活動に従事していく所存です。

東谷まちづくり協議会につきましても、桂口さんの防犯パトロールのように、30周年、40周年と長く継続していくことを心からお祈りしています。これからもどうぞよろしくお願ひします。

東谷地区まちづくり協議会発足20周年を迎えるにあたりお慶びを申し上げます。

会長をはじめ関係者の皆様におかれましては東谷地区の活性化を図るためご尽力賜り心より感謝申し上げます。

私たち第9分団におきましては、新型コロナの感染予防対策で、南消防団長の指示により、活動自粛を余儀なくされていましたが、10月からの非常事態宣言解除後、やっと活動を再開しているところであります。

私は消防団に32歳で入団し30年が経過しました。この間色々な事がありましたが、活動を通じて自分の住んでいる地区だけでなく、他の東谷地区の先輩方や後輩と交流ができ、横の繋がりが持てたことは本当に良かったと思っています。

全国的に消防団員の減少が云われております。第9分団も他人事では無く、定員36名のところ、現在31名の在籍となっております。さらに団員年齢も50歳以上が2割と高齢化が進んでおり、歴史のある第9分団を維持していくには団員の増員が必須であり、厳しい状態であります。

入団促進活動に対しまして、皆様のご協力をお願い致します。

特に若い方の入団をお待ちしています。一緒に活動していきましょう！

今後も第9分団は有事に備えるため訓練を重ね、東谷地区の安全・安心を守れるよう第10分団と力を合わせて活動していきたいと思っております。

最後に、まちづくり協議会の益々の発展を祈念申し上げます。



小倉南消防団第 10 分団
分団長 中村 重信

小倉南消防団第 10 分団分団長の中村です。
日頃より消防団活動にご支援、ご協力頂き感謝申し上げます。

この度、東谷地区まちづくり協議会 20 周年を迎える、この長い道のりを受継いだ全ての皆様に敬意を評すると共に感謝申し上げます。

私の東谷地区まちづくり協議会のデビューは市丸小学校の P T A 会長就任に始まります。当時、私の名前が各団体名簿に記載され年度初めの各団体の会議に出席したのを鮮明に思い出されます。自分の時間を割かれ何故これほど皆さんのが東谷地区に対して一生懸命になれるかが疑問でしたが、小学校事業の運営、相談と東谷地区まちづくり協議会の全面的な支援により任期を全う出来たと感謝しています。

その後、町内の青、壮年会を通じ各町内と交流する事で皆さんのが今後の町内、今後の東谷地区的発展に対し心に秘めたる熱い物を感じ、私も微力ながら貢献出来たらとの思いで一杯です。次の後継者として今後の 10 年バトンを受け継ぐべき人材となれるよう頑張りたいと思います。

最後に今後も小倉南 10 分団を温かく見守って頂ければ幸いです。



平尾高原利用組合
組合長 古田仁重

平尾高原利用組合、組合長の木下町内の古田です。東谷地区まちづくり協議会 20 周年おめでとうございます。

平尾高原利用組合は平尾台自然の郷、開園と同時に、東谷興農会より助成を受け活動を始め本年度で 19 年を迎えました。主な活動は、毎年行われる秋の東谷フェスティバルでの東谷農業祭です。農業祭では、組合員の生産した野菜の軽トラ市他、具沢山の大鍋(豚汁)、ポン菓子実演販売、餅まき大会を実施し、毎回好評を得ています。今後は、子どもたちも楽しめる新企画も検討しています。残念ながら昨年、今年とコロナ禍の為、フェスティバル等各イベントが中止になっています。今、感染者数も減っていますが、尚感染対策を徹底し、早く日常生活に戻りたいと願っています。

その他の活動は、平尾台自然の郷で行われる各イベント(新米祭、冬はなび、クロスカントリー)に参加し大鍋(豚汁)を作つて販売しています。大鍋も毎回 1000~1500 杯程作りますので組合員の皆は前日から準備で大忙しです。組合員で栽培した野菜をふんだんに持ち寄り具沢山の大鍋は毎回大好評で、当日はテレビ局、新聞社等の取材がくるようになりました。

又、年一回の体験実習を交えた視察研修を行っており、組合員の楽しみの一つになっています。今後の組合活動の参考になり、又、東谷地区的活性化に繋がるよう有意義な研修にしたいと考えています。

現在、組合員の人員減少が進んでいます。当組合の活動に賛同、ご協力して頂ける方を大募集しています。入会については、東谷興農会 (TEL 093 - 451 - 1777)まで、連絡をお願いいたします。

今後とも、当組合に御支援、御協力の程よろしくお願いいたします。



東谷地区を守る消防団員を
募集しています！



東谷郷土資料館運営委員
平野 耕作



東谷地区鳥獣委員会
猿対策部長 花野 和寛

平成 15 年、当時呼野公民館長の木村さんから小倉南区自治公民館連合会の研修旅行津和野に誘われ、石原町公民館長の延吉さんが東谷郷土資料館の展示方法の資料として、デジカメで民俗資料館の展示写真を撮ってと頼まれる。

令和元年又オープンに向けての準備作業に関わることになる。坂本写真館が旧資料館を撮った写真の中から、歴代会長の平尾の森脇さん、石原町の江上さん、幹事の下條さん、会長となった私の 4 人で 12 枚を選択し、森脇さんが写真の説明文を考え写真に挿入。完成写真を購入。写真を私が勝手に展示。後から資料館のオープン時に公開する計画と知る。資料館の少ない予算で高い買い物をしたとの思いがあり、展示写真を見た人から「いいね」の言葉を聞くと、内心ホッとする。

旧資料館の展示品を冊子にしたらとの江上さんの提案で森脇さん、江上さんと 3 人で展示品を選び写真で残す事にした。又、東谷中学校の生徒の作品で原口九右衛門ものがたりの切り絵が有り、展示スペースの関係から紙芝居で残す事にした。紙芝居を市民センターの馬場館長、職員の方に批評を聞こうと持参したところ、学童保育等に紙芝居を活用したいとの事で、一時仮置き。半年程過ぎて見ると、紙が変形、不具合が生じ、市民センターの皆さん等で思案し完成に至る。後は市民センターの皆さんに委任。

コロナ対策、北九州市で開催される世界体操選手権、諸行事等で忙しい中、紙芝居の公開日が楽しみです。



東谷地区や道原地区では、平成 17 年頃から野生猿 50 頭程の群れが出没するようになりました。農作物や果樹などの被害が各所で発生し、地域住民からの苦情が数多く寄せられました。なんとか有効な対策をと、当時、まちづくり協議会会长の前田氏を中心として、北九州市、県、学識経験者との協議を行ない、適正頭数の維持の為の活動を行なうこととなりました。

金辺峠に猿侵入防止用の有刺鉄線柵 750m を設置、手作りビニールハウスに全面金網を張った檻を小森地区に設置等、対策を行ないました。

地元住民の対策のとりくみに対して、鳥獣対策の専門部署が農林課に新設されました。日々のパトロール、メスの猿に発信機を取り付ける等で猿の移動ルートを調べました。

田川方面から呼野のワキノ煙火付近を通り、東側は母原方面へ、折り返して西側は呼野から市丸、石原町、ハゼガ峠を越して道原へという移動コースが判明しました。捕獲檻を呼野、小森、市丸、木下に設置してきました。

当時と比べて、猿の発生も激減し、農作物の被害も少なくなった、というのが実感です。只、手をゆるめると、野生動物の習性で、すぐに元の状態にもどります。今後も、捕獲追払いを続けていきますので、ご協力よろしくお願いします。





東谷中学校
校長 橋口 弘樹



市丸小学校
校長 本庄 裕子

東谷地区まちづくり協議会が、20周年を迎えられましたことに、お慶び申し上げます。

今まで、東谷地区的発展にご尽力されてきた歴代の会長様をはじめ多くの関係者の皆様に敬意を表します。

今年度、開校75周年目を迎えた東谷中学校は、1年生36名、2年生33名、3年生34名の総勢103名で、日々教育活動に邁進しております。

私は、本校に赴任してから強く感じ、感謝していることがあります。それは、保護者の方々はもちろんのこと、地域の方々が一体となって子どもたちの成長を見守ってくださること、また、中学校に期待していただいていることです。

そのため、全職員で「東谷中だからできること」「東谷中の生徒たちに身に付けてほしいこと」「現状に満足しないでほしいこと」などを中心に据え、「これでいいと思うまいや」を合言葉に、学校運営に取り組んでおります。

特に、今年度の取組の柱として、小・中・地域が連携し、校区のよさを小・中でテーマを決め、取材し、地域文化祭や学校ホームページ等で発信していく活動を行っています。

本校としては、東谷地区のシンボルである平尾台の歴史や自然環境、観光等をテーマに動画作成の準備を進めています。この活動を通して、生徒が故郷の自然や文化等をよく知り、自らが故郷で活躍していく将来像を描くことができ、

「故郷に誇りをもつ(シビックプライドの醸成)」ができるのではないかと考えています。今後も様々な場面で、東谷地区まちづくり協議会の皆様のご支援・ご協力を賜ることになるかと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

結びとなりますが、東谷地区まちづくり協議会の今後の益々の発展を心より祈念いたします。

東谷地区まちづくり協議会が二十周年を迎えられましたことに、お慶び申し上げます。

市丸小学校は、雄大に聳える平尾台、穏やかに広がる田畠、山間を通る列車と、素晴らしい大自然に囲まれた学校です。

本校は、この自然環境を生かした教育活動が受け継がれ、稲作や校内ビオトープ、そして、日本に唯一生息する「ガシャモク」を守る活動を全校で取り組んでいます。そして、これらの活動一つ一つに地域の方々の多大なご協力をいただいています。田畠や「ガシャモク」を守る地域の方々の願いや思いに触れながら学習を行っています。これらの体験を通して、子どもたちの故郷を愛し、自然を大切にする心が、育ってほしいと願っています。

学校が地域と共にあり、地域が学校を支え、見守っていただいていることに、日々感謝の思いです。子どもたちが、登下校を安全に、他を思いやりながら、のびのびと学習に励むことができるのも地域の皆様のご支援のおかげだと深く感じるところです。

今後も職員一同、子どもたちの健やかな学びのために尽力するとともに、東谷地区まちづくり協議会の益々のご発展を心より祈念いたします。





新道寺小学校
校長 高田 晋仁



東谷中学校 PTA 会長
石川 真一

東谷地区まちづくり協議会20周年、まことにおめでとうございます。祝意とともに、これまで、この東谷地区的振興のために骨身を惜しまず努力してこられた皆様に、敬意を表します。

さて、私は令和2年4月に、校長として新道寺小学校に赴任して参りました。その頃は、コロナ禍の真っただ中で、年度当初から休校になりました。自宅待機の子どもたちのために、学習プリントや教材等を一人分ずつ箱に詰め、宅急便で送りました。また、不安を少しでも和らげるため、担任からのメッセージを毎日送信しました。休校が明けて、久しぶりにお友だちと会えた子どもたちの嬉しそうな笑顔が、今でも忘れられません。

そうした困難の中、平尾台観光協会から、子どもたちに少しでも笑顔を、ということで、全員に花火をいただきました。本当に温かい地域だな、と感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そんな東谷地区的良さを子どもたちに伝承するため、「義人原口九右衛門」さんについての絵本を作成することにしました。文献を調べるため、興農会館や市立図書館を訪ねました。また、地域の方にお話を伺い、天疫神社や原口富生さん（九右衛門さんの子孫）の自宅等を案内していただきました。

令和3年3月に出来上がった絵本は、東谷市民センターや平尾台自然の郷、東谷興農会、そして市丸小学校、東谷中学校に寄贈しました。

これからも東谷地区的良さを発信するお手伝いが出来ればと考えています。

東谷地区まちづくり協議会20周年、誠におめでとうございます。

東谷中学校 P T A 会長を務めさせて頂いております石川と申します。

私事ではありますが、私自身も東谷地区（母原）で生まれ、新道寺小学校に通い東谷中学校で青春を過ごしました。幼少期からの思い出ではありますが自転車に乗って平尾台に登り、井手浦に蛍を見に行き、近所の山でクワガタを探し、夏には町内の盆踊りに行き、川でスイカ割りをし、秋は東谷運動会で走り、大野神社の子ども神輿を担ぎ…そのほかに書ききれないたくさんの思い出があります。

そして就職で東谷を一回離れ、また故郷の東谷に戻って新しい家庭も作り、今があります。東谷に戻ってきて、生活をしながら学校活動のお手伝いや地域のお手伝いをしていく中で時代に応じて変わってきてはいるけど、昔とあまり変わらないなあと思うことがあります。

それは「自然が壊れてない事、相変わらずの田舎である」「近所付き合いがあり、みんな気さくに挨拶や声掛けがある」「子供たちが素直で挨拶をする」「地域の行事にみんなが協力して楽しんでいる」ことです。

東谷にずっと住んでいれば普通で当たり前のように思うかもしれません、今の現代社会では隣に誰が住んでいるか知らないことが普通の時代です。そんな希薄な現代において、東谷地区はまだまだ温かく、素晴らしい地域だと思っています。

東谷地区まちづくり協議会の今後の更なる発展を祈願するとともに、今現在、故郷を離れている人や子どもたちの未来のためにも暖かい東谷、住みやすい東谷、帰ってきたい東谷をしっかりと守り、もっと盛り上げていけるよう地域の皆さんのご指導とご協力をお願い致します。





市丸小学校 PTA 会長
宮谷 利明



新道寺小学校 PTA 会長
松崎 秀彦

東谷地区まちづくり協議会は、平成十一年に準備会を設立、二年後の平成十三年八月二十九日に誕生し、今年で二十周年を迎えるとのこと。平成二十三年の十周年記念事業テーマでは「人にやさしい、緑豊かな住みよい東谷をめざして」を掲げ「これからの中年、東谷地区がめざす地域のすがた」として、

- ① 人にやさしいまち “東谷”
- ② 緑豊かな誇れるまち “東谷”
- ③ 住みよいまち “東谷”
- ④ 子育てのまち “東谷”
- ⑤ 暮らしたい活力あるまち “東谷”

以上の5つを「東谷まちづくり十年構想」として策定したそうです。

私ごとになりますが、出身は戸畠区ですが、就職と同時に京都郡苅田町に移住し、十年後転勤で埼玉県の秩父へ、そして平成九年にこの東谷地区に移住し現在に至っています。平尾台の麓、まさに「緑豊かな誇れるまち“東谷”」で暮らし、はや二十五年が経とうとしています。私自身、長くこの東谷地区に居座ってるということは、前述のとおり十年前に掲げた「人にやさしい、緑豊かな住みよい東谷をめざして」が現実のものとなった証だと感じています。

東谷地区は地域行事の大変多い所です。しかしこの約二年は新型コロナウイルスの影響で、あらゆる行事が中止となり活力ある東谷が影を潜めています。このコロナ禍を皆さんで乗り越え、以前と同じ様な色々な行事やイベントが復活し、活気ある東谷が早く戻ってくる日を願っております。

さらに十年後の東谷。

どうなってるのかなあ～。

東谷地区まちづくり協議会が発足して20周年を迎えられ、記念誌が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

日頃より、地域の皆様に見守られ、素晴らしい環境の中で子どもたちが学校生活を送っていることに感謝申し上げます。

東谷地区まちづくり協議会は、平成9年12月に無人駅であった石原町駅の有人化を目的とした取り組みを契機に発足したとお伺いしております。

当初からの歴史を受け継ぎ、今日も会長を始め多くの関係者の皆様のご尽力により、様々な催し物など地域を挙げての活動に取り組んでおられると存じます。また、時代のニーズに即し、きめ細やかな対応をされておられることは、今後も学ばせていただきます。

平尾台観光まつりでは、5年生、6年生の願い事などのイラストやコメントを花火玉に貼り付け、打ち上げる企画をしていただけるなど、子どもたちの心に残るイベントを開催していただき、感謝申し上げます。

我々を取り巻く状況は、日々厳しさを増してきておりますが、将来の東谷地区を担っていく子どもたちの笑顔を守り、この豊かな自然や人のつながりを大切にすることが未来へつながるものと信じております。私たちPTAといたしましても、微力ながらご協力させていただきたいと存じます。

最後になりましたが、東谷地区まちづくり協議会の活動や運営に携わられている皆様、また地域の皆様に深く御礼申し上げますとともに、設立20周年を節目として、東谷地区まちづくり協議会の益々のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。





食生活改善推進員協議会
代表 平野 美恵子

「東谷まちづくり協議会の二十周年おめでとうございます」

東谷十年構想のテーマ「人にやさしい緑豊かな住みよい東谷をめざして」共に助け合い協力して活動することで人情あふれ人のつながりや、温かさを実感できる東谷。

東谷ヘルスマイト活動を体験させて頂きました。ヘルスマイト、食生活改善推進委員は一年間の養成教室で受講を終了して各支部に入会いたします。東谷ヘルスマイトは現在十五名で活動しています。

平尾台観光まつりや東谷地区文化祭、チャリティコンサートで手作りのマフィンケーキや山菜弁当、軽食コーナーの料理を分担して作り販売しました。これはボランティア活動を続けるにあたってその資金を得るためのものです。

私たちの活動の主なものとして『高齢者ふれあい昼食会』があります。月に一度第一金曜日に、一食四百円で東谷地区の希望する方三十名に、減塩普及料理を提供し、栄養講話、歯科口腔講話などをはじめ、皆さんで童話歌唱や軽い体操でコミュニケーションを取り、心と身体が和やかになってフレイル予防や認知症予防をしています。

ヘルスマイト代表、社協会長、まちづくり協議会会长より、挨拶の中で東谷の現状を教えて頂いています。長い間この活動を続けてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大の為、今までと同じような活動が出来なくなりました。緊急事態宣言に伴い、市民センターの使用禁止もありました。解除後は昼食会を開催する為に感染予防対策の検討会をしました。マスクの着用、体温測定、会場の参加人数を今までの半分にして、パーテーションを設置し、換気の為窓を開け、消毒の徹底、今までと違うお弁当形式にも

しました。調理担当と会場づくり担当を分担し、調理室が密にならないように、大きな声で話さない等、対策をとりました。今までと同じようには出来ず参加者には色々とご心配をおかけしています。

私たちは、高齢者のこれからの健康づくり、健康寿命延伸につながりますよう活動を続けたいと思います。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



△ヘルスマイト25周年



東谷地区まちづくり協議会のあゆみ

○ まちづくり協議会の設立

平成 9 年 12 月に当時無人で青少年の非行の温床であった石原町駅を有人化しようと地域の各種団体が合同で関係機関へ要望・陳情し、有人化を実現しました。その運動の中で、地域団体が連携した「まちづくり協議会」を立ち上げようと盛り上がり、平成 11 年 7 月から組織や規約等の検討をはじめ同年 12 月に「まちづくり協議会準備会」が発足しました。これは、北九州市が方針を発表する 1 ヶ月前です。

市民福祉センターを中心に地域活動をし、市民福祉センターの運営はまちづくり協議会が行なうという市の方針をうけ、平成 13 年 8 月に自治連合会を中心とした東谷地区まちづくり協議会の発足総会が開催されました。また、平成 14 年 4 月に「東谷公民館・市民福祉センター」の二枚看板化が実施されました。今年は東谷地区まちづくり協議会が発足して 20 周年です。

○ まちづくり協議会の組織とその変遷

東谷地区まちづくり協議会は、「東谷地区の各種団体が連携し、一体となってまちづくりを推進していくこと、「地域活動の拠点である市民センター（当時は公民館）の整備・運営を行なう」ことを目的に平成 13 年 8 月に結成されました。この目的に沿い「①センター運営部会」と「②まちづくり部会」の 2 つの部会を設立総会で設置しました。

東谷郷土資料館の再生と活用のため、平成 15 年 6 月にまちづくり協議会で資料館の運営を行なうことになり「郷土資料館運営委員会」（現在の③教養文化部会）が設置され、平成 16 年 3 月には郷土資料館のリニューアルオープン記念式典を開催しております。東谷興農会の施設の建替えにより、郷土資料館の古民家は取り壊され、令和 3 年 1 月 7 日より、興農会新館で東谷郷土資料館コーナーとしての歴史の展示を再開し

ています。平成 17 年 1 月にはこれまでの 2 枚看板から「東谷市民センター」になり、4 月から職員の雇用などのセンターの運営業務をまちづくり協議会が受託することになりました。

その関係で、町内会長で構成する理事会を平成 17 年 5 月に新設しました。同時に市民センターの清掃活動や不法投棄への対応、17 年度より手がけることになった生活安全パトロールや古紙回収事業を行なう部門として「生活環境委員会」（現在の⑤環境部会、④生活安全部会）を立ち上げています。また、おでかけ交通委員会と道の駅検討委員会を諮問委員会として位置づけています。

平成 16 年度よりまちづくり協議会では、ほたるの飼育事業を行なっておりましたが、これが 3 年目に入るということで平成 18 年 5 月の総会で「ほたる部会」（途中⑥ほたる河川部会現在⑥河川部会）を設置しました。また同総会で、まちづくり協議会の活動報告や東谷地区の情報発信、各種団体の事務支援のための「⑦広報部会」も新設しており、平成 18 年 6 月から毎月 1 回、まちづくりだよりを発行し、令和 4 年 2 月で 195 号になります。健康づくり事業は、平成 18 年度より市の委託事業として健康づくり推進委員が中心となり展開しておりましたが、恒常に推進していくべき事業であることから平成 19 年 5 月の総会でそれまでの諮問委員会から「⑨健康づくり部会」に格上げしました。

▽旧東谷郷土資料館



また、生活環境委員会の活動が多岐にわたり、内容的にもボリュームがあることから「⑤環境部会」と「④生活安全部会」に分割再編成し、活動することになりました。

平成 21 年度より自治公民館や公園愛護会、防犯灯など北九州市から出ている 13 項目の補助金をまちづくり協議会が一括して受け入れ、各町内や団体に配分するという地域総括補助金制度を受け入れることになりました。これを契機に平成 21 年度の総会では、部会の新設や諮問委員会を特別委員会と改称し再編成するなど将来を見据えた大幅な組織の再構築を行いました。郷土資料館運営委員会を部会から特別委員会として、その上部部会として自治公民館の運営も担当する「③教養文化部会」を設置、また、老人クラブ活動事業、年長者いこいの家運営事業、ふれあい昼食交流会事業を展開する部会として「⑨福祉部会」を新設。東谷婦人会については、まちづくりの中で「⑩女性部会」として位置づけました。同時にほたる部会を「⑥ほたる河川部会」と改称しました。(現在の「⑥河川部会）

東谷地区には、青少年の健全育成事業を行っている団体として青少年部会と青少年健全育成協議会があり、事業も似た事業を行っており、これを統一する必要があったことから、両団体と協議し、両団体の役員委員を同一メンバーとするとともにこれをまちづくり協議会の「⑪青少年部会」と位置づけることを平成 23 年度の総会で決定しました。

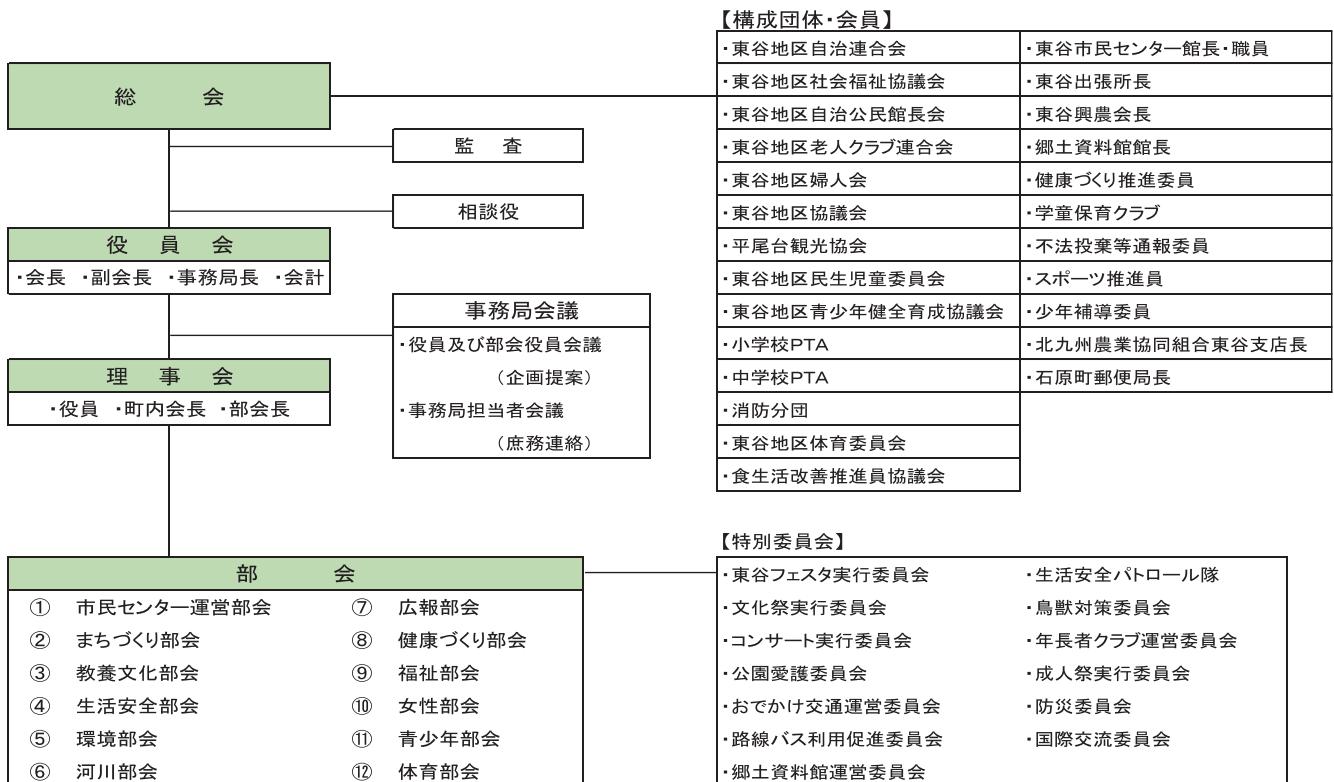
平成 17 年に、東谷地区では、猿の被害がとても深刻となり鳥獣対策委員会を立ち上げ、北九州市と連携した猿の対策に取り組んでいます。

平成 28 年に地域の足である路線バスの存続が危ぶまれ、路線バス利用促進委員会を発足し、令和元年には、石原町鉄工団地等で働く多くの外国人との交流を目的とした国際交流委員会と災害が起きたときに要支援者の安全確保をするため、防災委員会を立ち上げました。

令和 3 年には、東谷区民体育祭やスポーツ大会の重要性を鑑み部会として「⑫体育部会」を発足しております。

図－1 が現在の東谷地区まちづくり協議会の組織図です。

▽図－1 東谷地区まちづくり協議会の組織



○ まちづくり協議会の役員

まちづくり協議会の役員については、市民センターの運営を担うこと、各種団体を束ねた組織であることから、話しあいの結果、自治連合会を中心すべきということになり、平成 13 年 8 月の発足時には、自治連合会会长の下澤淳男氏を中心に強力なまちづくり協議会の執行体制が組織されました。

その後、平成 15 年 6 月の総会で、第 2 代会長に松崎滉氏が就任し、平成 23 年 5 月の総会で、第 3 代会長に島藤克彦氏が就任しました。平成 23 年の 10 周年記念事業は島藤会長が病気療養中のため前田康典氏が実行委員長を務めました。

平成 24 年 5 月の総会で前田康典氏が第 4 代会長に就任され、東谷まちづくり 10 年構想に基づいた協議会の運営を展開されてこられました。東谷地区の 3 つのお祭りを合同で行う東谷フェスティバルの開催や鳥獣対策委員会の発足や「乗って残そうバス路線」活動を行いました。

平成 30 年 5 月の総会で第 5 代会長に、内尾正憲氏が就任し、今年で 4 年目になります。災害対策や、国際交流委員会を立ち上げました。

また、新型コロナワクチン職域接種や「乗って残そう新バス路線」の運動など、いろいろな課題に取り組んでいます。

▽ 図一2 東谷地区まちづくり協議会 歴代役員 (敬称略) その 1

○ 東谷地区まちづくり協議会（平成 13 年 8 月発足）

【会長】

H13～H14 年 下澤淳男（自治連合会会长）
H15～H22 年 松崎滉（自治連合会会长）
H23 年 島藤克彦（自治連合会会长）
H24～H29 年 前田康典（自治連合会会长）
H30 年～ 内尾正憲（自治連合会会长）

【副会長】

H13 年 武中義隆（地区協会長）壱岐尾政智（社協会長）井上嘉孝（興農会長）
H14 年 武中義隆（地区協会長）井上嘉孝（興農会長）島藤克彦（社協会長、自治連副会長）
H15～H22 年 島藤克彦（社協会長、自治連副会長）
H16～H18 年 高鳩央（自治連副会長） H19～H21 年 山下昭徳（自治連副会長）
H22 年 丸田悟義（自治連副会長）
H23 年 前田康典 桂口春男 山下郁史（3 名とも自治連副会長）
H24～25 年 桂口春男 山下郁史（2 名とも自治連副会長）
H26～27 年 山下郁史 延吉和典 柳野保博
H28 年 下澤繁道 桂口春男 内尾正憲 H29 年 下澤繁道 内尾正憲 中村重喜
H30 年 下澤繁道 有吉和美 下田統 R1 年 有吉和美 下田統
R2 年 有吉和美 豊田義憲 R3 年 有吉和美 田村章憲

【事務局】

H13～14 年 寺本利治 山下郁史 栗山崇輝 H15～16 年 山下郁史 古田仁重
H17～18 年 山下郁史 田代勤 H19～20 年 山下郁史 高鳩央
H20～21 年 山下郁史 H22 年 橘木秀徳

▽ 図—2 東谷地区まちづくり協議会 歴代役員 (敬称略) その2

【センター運営部会長】

H13～14年 西村重富 H15年 有松量生
H16年 村上賢正 これ以後副会長が兼任

【まちづくり部会長】

H13～22年 前田康典 H23～25年 山下郁史
H26～27年 椰野保博 H28年～ 山下郁史

【郷土資料館運営委員会・教養文化部会長】

H15～17年 延吉照安 H18年 木村英人 H19年 下條光次
H20～22年 山下建紀 H23～24年 池田耕二 H25～26年 山下建夫
H27年 宮生方紘 H28年 江上喜孝 H29～30年 森脇巖
R1～2年 平野耕作 R3年 有松正則

【生活環境委員会・生活環境部会・環境部会】

H17年 有松量生 H18年 矢野秀樹 H19～21年 本田幸次郎
H22年 大坪祥男 H23年 山下美彦 H24～25年 延吉和典
H26年～ 島田俊春

【ほたる部会・河川部会長】

H18年 岡村勝博 H19～23年 篠原政美 H24～25年 島田俊春
H26年 延吉和典 H27年 下澤繁道 H28～29年 篠田源治
H30～R1年 下田統 R2年～ 内山勝則

【広報部会長】

H18～22年 山下郁史 H23年～ 蟹川昭代

【健康づくり部会長】

H19～H30年 稲月秀雄 R1年～ 神園まゆ美

【生活安全部会長】

H19～20年 矢野秀樹 H21年 丸田悟義 H22年 桂口春男
H23年 椰野保博 H24～25年 椰野保博 H26～28年 桂口春男
H29年～ 松井八朗

【福祉部会長】

H21～22年 島藤克彦 H23～26年 山下一則
H27年～ 延吉和典

【女性部会長】

H21年 下澤章江 H22～23年 平野美恵子 H24～27年 池田さつき
H28～29年 伊藤真由美 H30～R1年 内尾純子 R2年～ 田中弘子

【青少年部会長】

H23～28年 首藤法仁 H29年～ 蟹川新

【体育部会長】

R3～ 節原隆男

【公民館・センター館長】

H13～14年 米田保味 H15～16年 平田敏子 H17～18年 岡本早苗
H18～19年 霍田一俊 H20年 下門増美 H21～25年 魚住大介
H26～30年 切原利美 R1年～ 馬場純子

○ まちづくり協議会の年表（その1）

年月	内容
平成23年1月25日	さる対策講習会
平成23年2月27日	平尾台野焼きにて泡消化実験
平成23年3月11日	東日本大震災
平成23年3月12日	呼野消防車庫改修落成式
平成23年4月8日	東谷川改修報告会
平成23年4月24日	呼野公民館でさる対策会議
平成23年5月17日	東谷地区まちづくり協議会総会 (青少年部会発足)
平成23年9月19日	10周年記念「第44回東谷地区敬老会」
平成23年11月12日	10周年記念「第11回東谷チャリティーコンサート」
平成23年11月19日	10周年記念「式典・祝賀会」「10年のあゆみ発行」
平成23年11月20日	10周年記念「東谷地区文化祭」
平成24年3月31日	東谷まちづくり10年構想完成・発行
平成24年4月1日	東谷まちづくり協議会広報部会メール会員募集開始
平成24年5月15日	東谷地区まちづくり協議会総会
平成24年7月2日	電力不足のため、計画停電を実施
平成24年9月7日	
平成24年7月29日	平尾台観光まつりの花火の打ち上げが自然の郷外から郷内に変更(なつ花火)
平成24年8月18日	まつりみなみで新道寺学童が子ども神輿に初参加。こどもたくみ賞受賞
平成24年10月	市丸小学校が第27回教育奨励賞・努力賞を受賞
平成24年11月6日	ファミリー・バトミントンクラブを興農会体育館で活動開始
平成24年11月17日	第1回東谷フェスティバル開催
平成24年11月18日	第12回チャリティーコンサート 第50回東谷地区文化祭 第6回東谷農業祭 合同開催
平成24年11月19日	東谷市民センター空調工事のため 2月まで貸館休止
平成25年2月6日	石原町郵便局で「振り込め詐欺防止」声掛け訓練実施
平成25年2月10日	北九州市制50周年
平成25年5月15日	東谷地区まちづくり協議会総会
平成25年7月27日	観光まつりでカラオケグランプリが初開催 DrunK! も出演
平成25年10月19日	第2回東谷フェスティバル開催
平成25年10月20日	11年ぶりに興農会で花火打ち上げ(花火オーナー制)あき花火
平成25年11月20日	呼野町内会 まち美化に貢献 感謝状を授与
平成25年12月1日	市民センター 初イルミネーションで盛り上げる
平成26年1月12日	北九州市成人式 メディアドームで初開催 東谷成人祭が午後からに変更
平成26年2月10日	北九州マラソン開催
平成26年5月15日	東谷地区まちづくり協議会総会
平成26年10月25日	第3回東谷フェスティバル開催
平成26年10月26日	花火がグレードアップ(ナイアガラ)
平成27年1月9日	東谷ヘルスマイト20周年記念式典
平成27年2月15日	小倉南消防団40周年記念式典
平成27年3月14日	JR石原町駅再び無人化
平成27年5月13日	市丸公民館で市丸カフェオープン
平成27年5月18日	東谷地区まちづくり協議会総会
平成27年7月18日	呼野「ガシャモク見学会」開催
平成27年7月25日	観光まつり ドイツのボイースカウト400名来園
平成27年10月	新道寺一町内会 第20回北九州市花と緑のまちづくりコンクール 優秀賞受賞
平成27年10月24日	
平成27年10月25日	第4回東谷フェスティバル開催
平成27年12月20日	市民センターに門松作成
平成28年4月14日	熊本地震
平成28年5月18日	東谷地区まちづくり協議会総会
平成28年7月30日	観光まつりバザーで三菱の新人さん出店
平成28年10月22日	
平成28年10月23日	第5回東谷フェスティバル開催
平成28年11月12日	新道寺小学校140周年記念式典
平成28年11月15日	東谷中学校70周年記念式典
平成28年12月19日	西鉄バス路線バス存続に陳情

▽10周年記念式典祝賀会



▽10周年記念チャリティーコンサート



▽第1回東谷フェスティバル



▽平尾台野焼き



○ まちづくり協議会の年表（その2）

年月	内容
平成29年4月15日	小倉南消防団「消防団等地域活動表彰」
平成29年5月5日	センター上空に手作りこいのぼり泳ぐ
平成29年5月18日	東谷地区まちづくり協議会総会
平成30年7月	民泊「山の家 粋邑」が平尾台にオープン
平成29年10月15日	市丸小学童50周年記念
平成29年10月21日	第6回東谷フェスティバル開催
平成29年10月22日	第6回東谷フェスティバル開催
平成29年11月1日	柳野保博氏北九州市消防協会会长に就任
平成29年12月8日	センターで「陽なたカフェ」オープン
平成30年2月6日	健康づくり部会 第5回北九州市健康活動 地域団体部門 市長賞受賞
平成30年5月18日	東谷地区まちづくり協議会総会
平成30年7月	市丸小 福岡県合唱コンクール 優勝
平成30年9月29日	市丸小 九州合唱コンクール銅賞
平成30年10月7日	第70回東谷地区区民体育祭
平成30年10月20日	第7回東谷フェスティバル開催
平成30年10月21日	第7回東谷フェスティバル開催
平成31年3月31日	東谷郷土資料館 古民家取り壊し 休館
平成31年4月7日	小倉南消防団第9分団新庁舎 開所式
令和1年5月17日	東谷地区まちづくり協議会総会
令和1年8月7日	西鉄バス北九州㈱へバス路線新設の要望書の提出(1回目)
令和1年10月19日	第8回東谷フェスティバル開催
令和1年10月20日	第8回東谷フェスティバル開催
令和1年11月9日	市丸小学校 140周年記念
令和1年11月	呼野町内会 自然環境功労者環境大臣賞受賞
令和2年1月17日	東谷ヘルスマイト25周年記念式典
令和2年3月1日	北九州市でも新型コロナ感染者を確認
令和2年4月7日	福岡県に新型コロナ緊急事態宣言
令和2年4月10日	ワキノアートファクトリーがゲリラ花火で東谷を元気づける(呼野方面)
令和2年4月16日	全道府県に緊急事態宣言発令
令和2年4月17日	ワキノアートファクトリーがゲリラ花火で東谷を元気づける(市丸方面)
令和2年4月24日	ワキノアートファクトリーがゲリラ花火で東谷を元気づける(平尾台方面)
令和2年5月8日	ワキノアートファクトリーがゲリラ花火で東谷を元気づける(母原方面)
令和2年5月	東谷地区まちづくり協議会総会(書面決議)
令和2年7月4日	ワキノアートファクトリーがゲリラ花火で東谷を元気づける(興農会)
令和2年7月15日	第69回平尾台観光まつり登山者安全祈願祭のみを興農会で開催
令和2年9月21日	敬老会中止、80歳の記念写真撮影会のみ開催
令和2年10月	東谷興農会新施設建設工事開始
令和2年10月23日	西鉄バス北九州㈱へバス路線新設の要望書の提出(2回目)
令和2年12月17日	鳥獣被害防止対策研修会開催
令和3年1月10日	青少協主催で成人祭を開催
令和3年3月21日	平尾台ふゆはなび平尾台自然の郷音楽堂で開催
令和3年5月1日	平尾台自然の郷にグランピング施設オープン
令和3年6月	東谷地区まちづくり協議会総会(書面決議) (体育部発足)
令和3年6月30日	コロナワクチン職域接種 第1回目
令和3年7月18日	コロナワクチン職域接種 第2回目
令和3年7月30日	コロナワクチン職域接種 第2回目
令和3年8月22日	第70回平尾台観光まつり登山者安全祈願祭のみを興農会で開催
令和3年7月31日	新施設移転のため、興農会施設利用中止
令和3年8月1日	新施設移転のため、興農会施設利用中止
令和3年10月31日	敬老会中止、80歳の記念写真撮影会のみ開催
令和3年9月20日	西鉄バス北九州 新路線開通式開催
令和3年10月1日	西鉄バス北九州 新路線開通
令和3年11月7日	東谷興農会竣工式
令和3年11月9日	東谷郷土資料館、興農会新館で開館
令和4年1月3日	20周年記念と新年を祝う花火が呼野と興農会で打ち上げられる
令和4年1月9日	東谷地区成人祭開催
令和4年3月5日	コロナワクチン職域接種 第3回目
令和4年3月27日	コロナワクチン職域接種 第3回目

▽平尾台観光まつり



▽東谷区民体育祭



▽コロナワクチン職域接種（ピストン運転）



▽東谷興農会竣工式



○ 東谷フェスティバル

平成 24 年 11 月 17 日～18 日に「第 50 回東谷地区文化祭」「第 6 回東谷農業祭」「第 12 回東谷まちづくりチャリティーコンサート」が合同で行われ、名称を「東谷フェスティバル」として第 1 回目が開催されました。

これは、東谷地区まちづくり協議会 10 周年記念で考えられた「東谷まちづくり 10 年構想」のコミュニティ活動・組織に関する方針で「みんなが参加、みんなで創るまちづくり」をモットーに活動を展開し、地域の財産である東谷興農会をまちづくりの活動の場として今まで以上に活用するという指針から、別々の時期・場所で行われていたお祭りを合同で行おう！という東谷フェスティバル実行委員会が発足し、実現しました。

元々別々だった行事が一つになったことから、第 1 回目はチラシもこのように、4 枚作成し、東谷地区の皆に分かりやすいように、広報を行いました。



▽ 第 1 回東谷フェスティバルのチラシ



第2回東谷フェスティバルは、平成25年10月19日～20日に開催。第1回目同様「第13回東谷まちづくりチャリティーコンサート」「第51回東谷地区文化祭」「第7回東谷農業祭」の合同開催に加え、東谷中学校の体育館が耐震工事中だったことから、「東谷中学校文化発表会」と一緒に行いたいとの申し出があり、それをきっかけに、新道寺小学校の「新道児ふれあい秋まつり」も同時に開催しPTA参加のバザーも行いました。

また、東谷興農会で花火を見たいとの強い要望が高まり、個人や地元企業に花火オーナーを募集し集まったお金で花火をあげようと計画し、見事実現。11年ぶりに東谷興農会から花火が打ち上げられました。それを「秋はなび」と名付け、東谷の秋の空を輝かせました。これには、実行委員一同感動し、来場者にも「花火よかったです！すごかった！来年もまた、花火オーナー協力するね！」と言ってもらいました。

また、第3回目では、1日目の昼の部で石原幼稚園の「生活発表会」が東谷市民センターの講堂で開催されました。チャリティーコンサートのトップバッターは、東谷中学校の生徒有志によるコーラスで幕を開けました。

その後も、チャリティーコンサートには、東谷中学校の卒業生が高校のダンス部で活動していたのをきっかけに常盤高校ダンス部が出演し、地元に愛される東谷の代表的な祭りとなりました。また、花火も毎年好評です。

令和2年から令和3年にかけて新型コロナウイルス感染症の流行で残念ながら中止になりました。

△フェスティバルの来場者数



▽第2回目東谷フェスティバルのチラシ



▽チャリティーコンサートの出演者一覧

- 平成24年11月17日 第12回チャリティーコンサート
①ラムジ ②風船蔓バンド ③島津亮
④J JRバンド ⑤オン・オフコース
- 平成25年10月19日 第13回チャリティーコンサート
①DrunK! ②風船蔓バンド ③島津亮
④ウィンズ ⑤オレンジハート
- 平成26年10月25日 第14回チャリティーコンサート
①東谷中学校有志生徒 ②DrunK!
③YABUKINGU ④タカやんバンド
⑤風船蔓バンド+行田知広
- 平成27年10月24日 第15回チャリティーコンサート
①DrunK! ②ヤブキング ③ウィンズ
④くんちゃんど愉快な仲間達
⑤d r. スミス ⑥オレンジハート
⑦風船蔓バンド
- 平成28年10月22日 第16回チャリティーコンサート
①DrunK! ②Dr.スミス ③ウィンズ
④タカやん&fire all stars
⑤オレンジハート ⑥風船蔓バンド
- 平成29年10月21日 第17回チャリティーコンサート
①DrunK! ②うえほん ③YABUKINGU
④遠距離バンド ⑤Dr.スミス ⑥ウィンズ
⑦オレンジハート ⑧風船蔓バンド
- 平成30年10月20日 第18回チャリティーコンサート
①DrunK! ②YABUKINGU ③Dr.スミス
④MAMA ⑤ウィンズ ⑥オレンジハート
⑦風船蔓バンド
- 令和元年10月19日 第19回チャリティーコンサート
①DrunK! ②STAR BURST ③祇園正
④YABUKINGU ⑤Dr.スミス

○ 東谷地区の猿害対策

平成 23 年の「東谷まちづくり 10 年構想」のアンケート調査で解決が望まれる課題として猿害対策が圧倒的に多く指摘されました。それまでの猿害対策は、ロケット花火、エアガンによる追い払いが主で、また、専門家による講演会、チラシ配布、ホームページによる啓発活動、出没情報メール配信、モデル事業での被害防止電気柵の設置等も行ってきましたが、解決には程遠いものでした。

東谷地区では駆除による被害の抜本的解決を南区役所、北九州市に求めてきましたが、準絶滅危惧種である日本猿は捕獲することができませんでした。そこで、北九州市と猿の行動ルート、頭数調査を行ないました。香春岳から東谷、道原、春吉、合馬の里山を移動し、120 頭以上という結果でした。

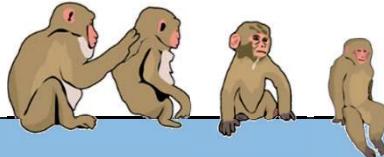


△東谷地区における猿害対策の経緯

年 月	内 容
平成24年3月	「まちづくり10年構想」のアンケート調査で猿害対策の指摘が一番多かった
平成24年6月	動物駆逐用煙火安全講習を開催、修了書を出す
平成24年8月	岩本農水省副大臣との会談が実現、猿害対策を陳情
平成25年1月	小倉南区野生サル検討会が開催(座長:小野勇一九州大学名誉教授)
平成25年2月	金辺峠に有刺鉄線による猿侵入防止柵を設置開始
平成25年3月	ワキノアートと協力、猿追払用花火を開発、呼野で試験使用
平成25年3月	猿の生態観測用監視カメラを呼野、市丸、井手浦等に設置
平成25年4月	北九州市に鳥獣被害対策担当課が設置される
平成25年4月	動物駆逐用煙火安全講習会を開催
平成25年5月	北九州収市農政部長が現地調査
平成25年6月	北九州市産業経済局長の現地視察
平成26年7月	小森に廃ビニールハウスを再利用して捕獲檻を製作設置
平成26年9月	市丸にメーカー製の捕獲専用檻を設置
平成26年度	発信機による集団移動経路確認開始
	猿の接近を知らせる警報機を呼野に設置
平成27年6月	木下にメーカー製の捕獲専用檻を設置
平成29年5月	呼野に廃ビニールハウスを再利用した檻を製作
平成30年度	呼野に小型檻設置
	大型捕獲檻用自動捕獲・監視システムを設置導入
令和2年12月	福岡県の猿対策研修会が東谷地区を現地視察
令和3年2月	金辺峠の猿侵入防止柵を撤去

平成 24 年 8 月に岩本農水省副大臣との会談が実現し、猿害対策を陳情することが出来ました。また、平成 25 年 1 月、小野勇一九州大学名誉教授を座長とする小倉南区野生ザル検討会が設置され、多くの学識経験者も参加、呼野地区の視察をしていただきました。検討会では「適正頭数維持のための対策が必要である。」との結論でした。

東谷地区では、追い払い、パトロールと並行して、猿の移動ルート制限するために金辺峠から東へ 700M、有刺鉄線 5 段張の侵入防止柵を設置しました。ここは日本セメントの社有地である為、有期、無償でご協力戴きました。平成 25 年 2 月から 4 か月かけたこの事業には呼野、小森町内の有志の方々の手弁当でのご協力がありました。



片山尹議員の後押しもあり平成25年4月、北九州市に猿の担当部署ができることとなりました。5月末には農政部長が、6月末には産業経済局長の現地視察もありました。

平成26年7月小森に、平成29年5月呼野において廃ビニールハウスを再利用した猿捕獲用檻を製作設置しました。平成26年9月市丸、平成27年6月木下にメーカー製の捕獲専用檻が設置されました。また、平成30年度呼野に小型檻が設置され、現在、5基が稼働中です。

令和2年12月には、福岡県の猿対策研修会で、猿対策において実績のある東谷地区が現地視察先に選ばれ県下一円から多くの来訪がありました。

成果があがっているとはいえ油断禁物です。猪害、鹿害もあります。皆様のご支援ご協力、よろしくお願いいたします。

令和3年2月金辺峠設置の有刺鉄線柵は目的終了につき撤去しました。

北九州市のニホンザル捕獲状況

年度	捕獲頭数
平成30年度	20
平成31年度	2
令和2年度	24

資料:北九州市鳥獣被害被害対策課



ニホンザル相談件数

(単位:件)

区別	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
門司区	15	2	23	19	9	33
小倉北区	11	3	10	5	2	13
小倉南区	94	93	36	20	15	34
若松区	2	71	22	25	1	98
八幡東区	4	9	4	2	4	8
八幡西区	9	42	8	10	6	49
戸畠区	5	1	0	0	0	8
計	140	221	103	81	37	243

資料:北九州市鳥獣被害被害対策課

【生活被害への対策】

市内各地で野生のサルが出没しています。サルを見かけた場合は、危険を避けるために以下のことに気を付けてください。

1 近づかない

不用意に近づくと襲われることがあります。特に幼児などは危険です。

2 目をあわせない

目を見つめると、サルが威嚇されたと思い襲われることがあります。

3 大きな声を出さない、驚かせない

サルの防衛本能を刺激することになるので止めましょう。

4 絶対にエサを与えない、エサを見せない

人がエサをくれるとサルがそこに居ついたり、周囲の人家に侵入するなど地域全体に被害を引き起こす原因となります。また、エサとなるものを屋外に放置しないようにしましょう。

5 戸締りを徹底し、家への侵入を防ぐ

サルは学習能力が高く、戸や窓から人家に侵入することができます。2階の窓から侵入することもあるので、十分注意しましょう。

6 飼い犬の被害にも注意

飼い犬もサルの被害に遭う事例があり、主に小型犬が多いようです。犬の性別や色、大きさなど、気に入れば、時間帯や場所を覚えて、待ち伏せ、あるいは後をつけてくる傾向があります。女性と犬、子どもと犬の散歩が狙われるようなので、注意しましょう。

※北九州市ホームページより

○「乗って残そう(新)バス路線」の活動

バス利用者の減少、バス乗務員不足を理由に平成 28 年 5 月に西鉄バス筑豊㈱が「平成 29 年 10 月 1 日をもって西鉄バス田川小倉線を廃止する。」ことを発表、翌 6 月に県に申請しました。バスは地域にとり必要不可欠な交通手段であることから、東谷地区まちづくり協議会では、北九州市や市議団と連携して西鉄バスに廃止撤回の要請を行いました。また、「乗って残そうバス路線」を合い言葉に、幟やチラシ、「まちづくりだより」による広報活動、イベントや会議における呼びかけ、企業への働きかけなどの存続運動を展開しました。

平成 29 年 3 月、田川市と香春町が合わせて毎年 1000 万円、3 年間の期限で補助金を出すことを前提に協議した結果、西鉄バス筑豊㈱は、平成 29 年 5 月に廃止の方針を変更し、平成 29 年 10 月 1 日より中谷止まりで 1 日 7 往復に減便して運行することになりました。

中谷線移行後も「乗って残そうバス路線」を展開するとともに、住民アンケート調査を踏まえ、利用者増を図るため守恒延伸の社会実験を行うことをまちづくり協議会が北九州市に提案し、これが平成 30 年 10 月～平成 31 年 3 月に実現されました。社会実験の直前、東谷地区協議会が東谷地区敬老会で 1 日フリー乗車券を約 300 枚(100 枚は東谷フェスティバルの景品)を配布しました。社会実験の結果、10 月～3 月の利用人数は、対 29 年度比が全線で 1.26 倍、頂吉越～守恒で 1.82 倍となりましたが、経費増のため収支は▲7.3 百万円から▲10.6 百万円に拡大すると試算されました。これを受けた北九州市は、田川市、香春町と協議し、本格運行は出来ないと判断しました。

まちづくり協議会では平成 28 年 5 月よりバス輸送の確保について北九州市と勉強会や協議を行っており、西鉄バス北九州㈱による既存路線の延伸や新路線運行、おでかけ交通の導入等の案が俎上にのぼっていました。田川中谷線が令和 2 年 10 月で補助期限の 3 年になること

から令和 1 年 8 月に、西鉄バス北九州㈱に要望書を提出し、既存路線の延伸もしくは新路線設置を要請しました。この時は、西鉄バス筑豊が運行しているとのことでいまいちの反応でした。

令和 2 年 7 月になり西鉄バス本社より、慢性的な乗務員不足のため、赤字補填をしても運行が難しく、令和 3 年 9 月 30 日をもって田川中谷路線を廃止する申し出があり、これをうけて北九州市と協議し、令和 2 年 10 月に西鉄バス北九州㈱へ既存路線の延伸・新路線運行の 2 回目の要望書を、市議、県議とともに提出しました。その後、西鉄バス北九州㈱が検討に入ることを内諾し、令和 3 年 3 月に西鉄バス北九州㈱から運行計画原案の報告があり、福岡県バス対策協議会ブロック別地区協議会で西鉄バス北九州㈱が「車両の小型化による路線維持の補助制度」を活用し、頂吉～中谷・徳力を 1 年間試験運行することが認められました。

この後、西鉄バス北九州の利用者アンケート調査(ニーズ調査)に協力をするととも「乗って残そう新バス路線」運動を展開、9 月 20 日に新バス路線開通記念式典と小型バスの試乗会を行い、令和 3 年 10 月 1 日に新バス路線が開通しました。

▽ 新路線バス開通 記念式典



「乗って残そう新バス路線」

▽ 「乗って残そう(新)バス路線」活動の経緯



年月日	内 容
平成28年5月	西鉄バス筑豊が西鉄バス田川線の廃止を発表
平成28年6月30日	西鉄バス筑豊が福岡県バス対策協議会に「29年10月1日をもって西鉄バス田川線の廃止」を申請
平成28年8月 ～10月	北九州市より東谷地区まちづくり協議会に報告があり、対応を協議 まちづくり協議会役員会・町内会長会議等で対応方針について協議
平成28年11月9日	北九州市と東谷地区まちづくり協議会が協議し運動方針を決定 ・利用促進運動「乗って残そうバス路線」を展開 ・チラシ、幟の制作、地域の会議や企業への呼びかけにより利用促進を図る ・西鉄本社へバス路線の存続とサービス水準の維持を要請に行く ※北九州市は西鉄バス筑豊に財政支援をしないことを確認
平成28年11月	東谷地区バス利用推進委員会(仮称)や利用促進運動について内部協議
平成28年11月25日	「乗って残そうバス路線」のチラシ全戸配布。(以後数回)
平成28年11月～12月	この頃田川市、香春町が赤字補填を前提にバスの存続を西鉄バスに申入れ、協議 西鉄が「後藤寺～中谷14便で1059万円の赤字」の試算結果を田川市・香春町に提示
平成28年12月1日	各バス停に「乗って残そうバス路線」の幟を設置開始
平成28年12月14日	町内会長会議にて利用推進運動方針及び西鉄本社への要望書を提出
平成28年12月19日	東谷地区まちづくり協議会と北九州市が西鉄本社に存続の要望書を提出・協議
平成29年3月15日	県議会の予算特別委員会で田川市400万円、香春町600万円の財政支援を前提に7往復・中谷止りで西鉄バスに存続の申し入れを行ったことが報告される(3年間支援) ※国・県では毎年約1500万円別途支援
平成29年5月	西鉄バス筑豊が廃止の方針を変更し、10月1日より中谷止まりで1日7往復に減便して運行することが発表される
平成29年5月～9月	北九州市都市交通政策課と協議(利用促進や将来の対応など3回)
平成29年6月19日	南区議員協議会が西鉄北九州に田川線の存続、志井線の東谷内延伸等の新路線開設を要請
平成29年6月23日	南区議員協議会が西鉄本社に田川線の存続、志井線の東谷内延伸等の新路線開設を要請
平成29年9月	東谷地区まちづくり協議会が住民のアンケート調査を実施
平成29年9月29日	北九州市と東谷地地区まちづくり協議会の協議 ・平成30年度西鉄バス田川線の中谷からの延伸等に関して社会実験を行うこと ・今後とも利用促進運動を継続することを確認
平成29年10月1日	西鉄バス田川線が中谷止まりで1日7往復となる
平成29年10月上旬	中谷バス停にプレハブの待合所が整備される。
平成29年10月	西鉄バス利用促進チラシを全戸配布(以後定期的に)
平成30年7月20日 ～9月	北九州市都市交通政策課と協議(7/20,9/12) ・利用状況報告、利用促進策や社会実験、今後の方針など
平成30年9月17日	東谷地区敬老会で地区協議会が1日フリー乗車券を配付(400)
平成30年10月1日～ 平成31年3月31日	西鉄バス田川中谷線の守恒延伸社会実験(～3月末) ・10～11月末までの利用者数が1.8倍になる
平成30年10月	利用促進チラシ、社会実験時の時刻表を全戸配布
平成30年10月12日 ～12月	北九州市都市交通政策課と協議(3回) 利用状況報告、アンケート調査や利用促進策、今後の方針など
平成31年1月	西鉄バス田川守恒線の利用者アンケート調査を実施
平成31年3月26日	社会実験利用者アンケート調査の報告(1152世帯、1930人)
令和1年5月13日	社会実験の利用状況・収支状況報告 10月～3月の利用人数は、対29年度比で全体で1.26倍、頂吉越～守恒で1.82倍 但し、経費増のため収支は▲7.3百万円⇒▲10.6百万円に拡大 北九州市は、田川市、香春町と協議し本格運行は出来ないと判断
令和1年7月3日	北九州市都市交通政策課と協議
令和1年8月7日	西鉄バス北九州へ第1回要望書を提出
令和1年10月17日	北九州市都市交通政策課と協議
令和1年12月25日	北九州市都市交通政策課と協議・勉強会
令和2年7月31日	西鉄バス本社より、慢性的な乗務員不足のため、赤字補填をしても運行が難しく、令和3年9月30日をもって田川中谷の路線を廃止する申し出がある
令和2年8月20日	北九州市都市交通政策課と協議 西鉄バス筑豊は令和3年9月で廃止の方針→西鉄バス北九州市に路線の新設・延伸を要請
令和2年10月23日	西鉄バス北九州へ第2回要望書を提出
令和2年11月4日	バス路線の件で西日本新聞社の取材
令和2年12月18日	西鉄バス北九州と協議 路線バスの延伸の方向で検討すること
令和3年2月12日	西鉄バス筑豊より正式に路線廃止の回答
令和3年3月3日	西鉄バス北九州との協議。10月1日から路線バスを頂吉越までの運行計画が示される。
令和3年3月22日	福岡県バス対策協議会ブロック別地区協議会(書面審議)で西鉄バス田川線の廃止が決定 また、西鉄バス北九州が「車両の小型化による路線維持の補助制度」を活用し、頂吉～中谷・徳力を1年間試行運行することを発表
令和3年5月13日	西鉄バス北九州、北九州市都市交通政策課と協議
令和3年5月～6月	利用者アンケート調査(ニーズ調査)
令和3年6月～9月	運行に向けての手続き(地域交通会議、免許申請など)
令和3年7月27日	北九州市都市交通政策課と協議
令和3年9月	各地域に「乗って残そう新バス路線」の幟を設置
令和3年9月20日	新バス路線開通 記念式典
令和3年10月1日	新バス路線開通。平尾台入口から東谷興農会前にバス停名が変更される

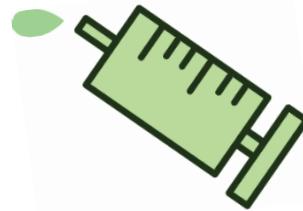
○ 東谷地区の新型コロナワクチン職域接種

令和2年1月15日に日本で初めて新型コロナウィルスが神奈川県で確認され、北九州市では令和2年3月1日に小倉南区のタクシー運転手が最初の発症例となつた。その後、感染が拡大し、令和2年4月に第1波が(全国で最大7百人/日)、令和2年8月に第2波(全国で16百人/日)が来た。この頃より東谷地区における感染が噂に上り出した。第3波(令和3年1月 全国で79百人/日)に向けて感染が拡大する中、令和2年12月7日に東谷地区にあるやまびこ学園で感染者が出て、これがいくつかの施設を含むクラスターとなつた。

令和3年5月に第4波(全国で70百人/日)が襲い、福岡県でも3回目の緊急事態宣言が出された。この4波が治まりつつあつた6月初めに平尾台病院・やまびこ学園より地域でモデルナワクチンの職域接種をしませんかとの提案があり、6月9日に緊急町内会長会議を開催し、東谷地区におけるワクチンの職域接種を決定した。これは、政府が新型コロナワクチン職域接種の申請受付を始めた次の日である。

その後、職域接種に向けた準備作業に入り、接種者の募集や確定、日程調整、予診票の配付・回収、接種の際の段取りや分担等々、何度も町内会議を行い、令和3年6月30日に1回目接種が実現、接種は5日に分けて実施した。2回目接種は、7月30日～8月22日に1回目と同様5日間で行った。ワクチン接種者は924名である。全国初の職域接種が始まったのが6月21日であり、東谷地区における職域接種はかなり早い時期に実施されている。

政府が令和4年3月から3回目職域接種を実施することを決定したことから平成3年12月13日と令和4年1月18日に東谷地区における3回目接種について平尾台病院・やまびこ学園と協議し、1月20日の緊急町内会長会議で3回目接種の実施を決定し、実施に向けての作業に入った。3回目は3月5日～27日に4日に分けて行う予定である。



▽東谷地区における新型コロナワクチン職域接種の経緯

年 月	内 容
令和2年1月15日	日本初の新型コロナウィルスが神奈川県で発症
令和2年3月1日	北九州市初の新型コロナウィルスが発症
令和2年4月7日	福岡県に緊急事態宣言(~5/14)
令和2年4月11日	コロナウィルス全国第1波ピーク(7百人/日)
令和2年4月17日	全国の累計感染者が1万人を超える
令和2年8月7日	コロナウィルス全国第2波ピーク(16百人/日)
令和2年11月1日	全国の感染者が10万人を超える
令和2年12月7日	やまびこ学園で感染者、クラスターとなる
令和2年12月16日	北九州市の累計感染者が1000人を超える
令和3年1月4日	福岡県に緊急事態宣言(~2/28)
令和3年1月8日	コロナウィルス全国第3波ピーク(79百人/日)
令和3年5月9日	コロナウィルス全国第4波ピーク(70百人/日)
令和3年5月12日	福岡県に緊急事態宣言(~6/20) 6/21よりまん延防止等重点措置に移行(~7/11)
令和3年6月8日	政府が新型コロナワクチン職域接種の申請受付を始める
令和3年6月9日	平尾台病院・やまびこ学園の提案説明を受け職域接種を決定
令和3年6月10日	職域接種にむけての町内会長会議(6/14,6/25,6/26,7/1)
令和3年6月21日	全国初の職域接種が始まる
令和3年6月30日	東谷地区ワクチン1回目接種(7/3,7/4,7/10,7/18)
令和3年7月24日	2回目職域接種にむけての町内会長会議
令和3年7月30日	東谷地区ワクチン2回目接種(7/31,8/1,8/7,8/22) 924名
令和3年8月7日	全国の累計感染者が100万人を超える
令和3年8月2日	福岡県にまん延防止等重点措置(~8/19) 8/20より緊急事態宣言(~9/20)
令和3年8月19日	コロナウィルス全国第5波ピーク(255百人)
令和3年9月5日	北九州市の感染者が1万人を超える
令和3年12月13日	3回目接種にむけて平尾台病院・やまびこ学園と打合せ
令和4年1月8日	北九州市で3回目接種が始まる
令和4年1月18日	3回目接種にむけて平尾台病院・やまびこ学園と打合せ
令和4年1月20日	町内会長会議で3回目接種を決定
令和4年1月27日	福岡県にまん延防止等重点措置(~2/20)
令和4年1月31日	累計感染者 全国:2721千人 福岡県:121千人 北九州市累計感染者:197百人
令和4年2月1日	北九州市の感染者が2万人を超える
令和4年3月5日	東谷地区ワクチン3回目接種(3/6,3/12,3/27,896人予定)

東谷地区まちづくり協議会の活動

◇ 役員会・理事会

役員会は、会長、副会長、会計、事務局長、部会長で構成し、まちづくり協議会の運営及び事業を企画し執行します。

理事会は、役員及び町内会長で構成し、総会の決定に基づき、まちづくり協議会の運営及び事業の大枠を決定します。

- 全体の企画・運営業務
- 総務・会計業務
- 東谷フェスティバルの開催
- 歓送迎会、忘年会
- 理事会・事務局会議の定期的開催
- まちづくり 20 年構想の実施
- 地域総括補助金
- センター職員の採用
- など

▽役員・理事による「東谷っっちゃ体操」



▽東谷まちづくりグラウンドゴルフ大会



▽東谷フェスティバル



役 職	氏 名	団 体 役 員 等
会 長	内 尾 正 憲	自治連合会会長
副 会 長	有 吉 和 美 田 村 章 憲	自治連合会副会長 自治連合会副会長
会 計	馬 場 純 子	東谷市民センター館長
事 務 局 長	橘 木 秀 徳	自治連合会事務局長
センター運営部会長	有 吉 和 美	自治連合会副会長
まちづくり部会長	山 下 郁 史	平尾台観光協会会长
教養文化部会長	有 松 政 則	自治公民館長会会長
生活安全部会長	松 井 八 朗	スポーツ推進委員
環境部会長	島 田 俊 春	平尾台観光協会副会長
河川部会長	内 山 勝 則	町内会長
広報部会長	蜷 川 昭 代	平尾台観光協事務長
健康づくり部会長	神 圏 ま ゆ 美	スポーツ推進委員
福祉部会長	延 吉 和 典	社会福祉協議会会长
女性部会長	田 中 弘 子	東谷婦人会会长
青少年部会長	蜷 川 新	青少年健全育成協議会会长
体育部会長	節 原 隆 男	東谷地区体育委員長
理 事 (町内会長)	河 野 秀 春 高 住 一 夫 奥 村 英 喜 内 山 勝 則 大 下 数 行 山 下 明 博 獅 峰 孝 弘 力 武 重 雄 森 山 博 美	町内会長 町内会長 町内会長 町内会長 町内会長 町内会長 町内会長 町内会長 町内会長
相 談 役	内 中 京 子 前 田 康 典 前 田 康 典 田 中 弘 實 山 下 郁 史	東谷出張所長 まちづくり協議会前会長 東谷地区協議会会长 東谷興農会会长 平尾台観光协会会长
監 査	下 條 光 次 石 川 真 一	東谷郷土資料館運営委員会顧問 東谷中学校 P T A 会長

◇ 市民センター運営部会

市民センターの運営に関する事、講座やクラブ活動の支援、まちづくり協議会が市民センターで行う文化祭などの行事を開催します。

〈活動内容〉

- 市民センターの運営
- 各種市民講座
- 家庭教育学級・成人教育・講演会など
- 人権教育
- 各種クラブ活動
- 東谷地区文化祭
- センターだより「ひがしたに」の定期発行

など

▽東谷市民センター



▽東谷地区文化祭



▽秋はなび



◇ まちづくり部会

地域のイベントの企画運営や支援、まちづくりに関する研究、計画策定、事業などを行います。

〈活動内容〉

- 東谷フェスティバルの開催（秋はなび）
- おでかけ交通の運行協力
- 路線バス利用促進
- ふゆ花火、トレイルラン
- 20周年記念誌
- 町内公園の維持事業
- まちづくりに関する勉強会など



まちづくり部会長

(平尾台観光協会会長)

山下 郁史

まちづくり部会は「地域のイベントの企画や社会資本整備に関する事を行う」と規約に書かれています。まちづくり部会には『公園愛護委員会』、『おでかけ交通運営委員会』、『路線バス利用促進委員会』の3つの委員会があり、内尾会長のもと各種事業の企画、会議、涉外等の活動をしています。

『公園愛護委員会』は各町内の公園管理活性化事業(補助金)を支援するものです。『おでかけ交通運営委員会』はおでかけ交通平尾台線(土曜祝日のみ4往復、3月中旬～12月)の運営主体として運行主体である(有)ひまわりタクシー、北九州市と契約書を締結し、三者が協力しておでかけ交通平尾台線を運営しています。『路線バス利用促進委員会』は西鉄バス筑豊が平成28年5月に小倉田川線廃止を発表して、直ぐに活動を開始しました。路線バス存続のための要望書提出や西鉄バスや北九州市、市議会議員、県議会議員との会議や折衝、東谷地区協議会にお願いしての敬老会での「1日フリー乗車券(1000円)」の配付、住民アンケート調査、利用促進のための幟設置やチラシ配布、集会や会議での利用促進のお願いなどの活動を展開してきました。

平成29年9月で廃止されるバスが4年間生き延びたこと、また、西鉄バス筑豊が令和3年9月で廃止した後、10月より西鉄バス北九州が新路線である東谷線(徳力公団駅系統、中谷系

統)を運行開始したことは、東谷地区まちづくり協議会を中心に各地域団体、住民や企業が協力して『乗って残そうバス路線』運動を展開した成果であります。現在、新バス路線開通に合わせ『乗って残そう新バス路線』運動を展開中です。

私は、東谷地区まちづくり協議会設立の平成13年度より9年間はまちづくり協議会の事務局を、平成23年～25年度、平成28年～令和3年度の9年間は「まちづくり部会長」を務め、また、兼任も含め広報部会長、市民センター運営部会長の時期もあり、20年間すべて協議会の役員の一人として活動に参加して来ました。

平成23年度の10周年では、まちづくり部会長として記念事業の企画運営や「東谷まちづくり10年構想」の策定に携わりました。また、今回の20周年では、小中学生への東谷まちづくりアンケート調査を行い、記念誌の作成にも係わせていただいており、光栄なことだと思います。

「東谷まちづくり10年構想」で東谷の顔となるような新たな祭を創出することが提言され、平成24年度にチャリティーコンサート、農業祭、文化祭が一体となった「第1回東谷フェスティバル」が開催されました。それまでは、チャリティーコンサートは、まちづくり部会の所管で町内会長が重要な役割を果たしていましたが、フェスティバル開催を契機として、若手ですべての運営をした方が良いということで、コンサートは青少年部会所管となったという経緯を紹介しておきます。

東谷地区まちづくり協議会の役員として20年間も活動してこられたことは、私の誇りであります。これも協議会の歴代会長はじめ役員・委員の皆さん、地域住民や各種団体、企業の皆様のご支援、ご協力の賜物であります。心より感謝申し上げます。



△生活安全パトロール

△生活安全パトロール

地域の防火、防犯、防災等の生活の安全に関する事を行います。

△活動内容

●生活安全パトロール隊

第2金(下校時)、第4金(夜間)

●防火防犯、防災活動

●空き家調査など



生活安全部会長

松井 八朗

東谷地区まちづくり協議会発足20周年、誠におめでとうございます。発足当時のご苦労は、察するにあまり有るもののがございます。各部会の設定や部会長の選任など、数知れない程の作業があった事と思います。

今となっては、当たり前の様に運営されている事は、当時のすべり出しが大変的確であった事と思います。私達生活安全部会は、平成14年にスタートしていますので、現在19年目になります。今年は北九州市長より、15年以上の安全パトロール活動をしている団体という事での表彰を受ける事が出来ました。

現在は、月に2回のパトロールを主に、地域の安全を守る為に活動を続けています。私自身は、前部会長の矢野秀樹さんより誘いを受け、パトロールに参加する事になり、早10年近くが過ぎ、数年前より部会長を引き受ける事となり現在に至っています。

この地域は、犯罪や事故等がとても少ない所であります。パトロールをしても、いつも「異常なし」という報告が上がってきます。

これからもこの状況を続けて行く為にも、パトロールに専念し、「安心、安全な東谷」を作れる様に努力し、まちづくり協議会と共に新しい歴史をつくる事が出来れば幸いかなと思います。

◇ 教養文化部会

地域の教養文化に関するこのほか各町内の自治公民館運営への協力を行います。

また、郷土資料館運営委員会により東谷郷土資料館の整備運営に関することも行っています。



教養文化部会長
(自治公民館館長会会長)
有松 政則

「東谷郷土資料館」

新築の興農会館内に展示コーナーを供設されました。

令和3年11月6日（土）興農会館落成式

資料館は11月9日（火）よりオープン

毎週火・木 11時～14時開館

各地区の館長さんがご案内致しますが、常駐しておりますのでご自由にご観覧ください。

展示品は、農機具・明治古文書教科書・生活用品、さらに、小倉織等、多数見ることが出来ます。東谷の歴史文化を物語る貴重な宝です。郷土の歴史を次の世代に伝える大事な場所です。

今回、小倉織（いのちのたび博物館より寄贈）の歴史を紹介します。

小倉織は、江戸時代初めから豊前小倉の名産とされた綿織物で、袴や帯として使用されました。小倉織の特徴は、2本の糸を撚って一本にまとめた「双糸」を使用し、よこ糸が見えないほどたて糸を多く使用した、密度の高い布であることです。木綿布の丈夫さと絹布のようなしなやかさを併せ持つ布で、嘉永年間（1848年～1854年）に最盛期を迎えました。

△旧資料館看板はココに



＜活動内容＞

- 郷土資料館の運営・管理
- 自治公民館の運営事業 など

△東谷興農会新館内の郷土資料館コーナー



東谷地区でも小倉織が織られており、明治時代から大正時代頃に織られた袴用の布片が残されています。この資料は、明治以降に普及した機械紡績糸と、手紡ぎの糸の二種類を使用して織られています。これは、明治時代以降の手紡ぎ糸から機械紡績糸への移行を示す、貴重な資料であるといえます。

東谷の歴史や文化に触れてみてはいかがでしょうか！多くの見学者をお待ちしております。

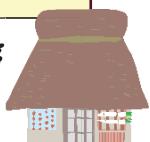
「お念佛からはじまる幸せ」

私事ですが、新型コロナ禍によってどこにも出かけられません。色々な行事も中止になってしましました。心の不安を解消する機会もなくなりました。

お念佛を唱えている間、阿弥陀様は何も言わず、静かに聞いて下さる。心が安らぎ気持ちが楽になり、今日も頑張ろうと言う気持ちになります。平穀無事で健やかに過ごさせていただければ、この時間があるからこそだと気づき、これからもこの時間を大切にしていきたいと思います。小さな幸せを見つけていきたいと思います。

東谷郷土資料館 火・木 9時～14時開館

ご来館ください！



◇ 環境部会

公共施設等の清掃活動や地域の衛生環境に関する事を行います。



環境部会長
(平尾台観光協会副会長)
島田 俊春

東谷地区まちづくり協議会、創立 20 周年おめでとうございます。

私が東谷地区まちづくり協議会に関わったのが、平成 23 年に 10 周年記念事業で記念誌『10 周年のあゆみ』を発行した年からです。あれから 10 年の時が過ぎました。

10 周年記念事業テーマに掲げました。

『人にやさしい 緑豊かな

住みよい東谷をめざして』

環境部会として、このテーマを目指して取り組んだ当時、東谷地区は猿の被害が深刻でした。動物駆逐用花火や平成 25 年には田川方面から猿の侵入を防ぐため、金辺峠、採銅所の境界に有刺鉄線によるバリケードを設置、また、猿捕獲用檻も設置しました。呼野には猿の侵入に対応する警報機も整えました。お陰で猿の出没回数も激減し被害も少なくなりました。

平成から令和に変わり、地震災害、異常気象による自然災害の増加、コロナ禍での自粛生活による環境変化様々な問題を抱えての 10 年でした。

一方、携帯電話からスマホに、インターネット社会、ガソリン車から電気自動車へ、ドローンでの配送、自動運転車へとこれまた激変の時代に突入しています。急務なのは、少子高齢化による過疎化対策、自然災害の予防ではないでしょうか。

今、呼野で取り組んでいる自然環境課題は、お糸池の 4ヶ所からの漏水です。平成 23 年から地元住民で防水工事を何度も繰り返し試みましたが、手に負えず市長に異常気象による局地的な大雨洪水災害防止の観点から、要望書を提出していました。8 月に着工の知らせを受け、

〈活動内容〉

- 古紙回収
- 環境衛生活動、不当投棄対応
- センター等の清掃活動（年 3 回草刈）
- 猿害対策支援
- ガシャモクの保全活動など

▽ガシャモクの花



今年度、工事の為に測量、ボーリング調査、土質解析、測量調査、実施計画等を行い、令和 4 年度に法手続き、国・県協議、5 年度に詳細設計、6・7 年度にようやく本工事を実施する運びです。

それに伴い、自生している絶滅危惧種の水草ガシャモクですが、いったん、種子がある湖底の表土を剥ぎ取り、別の場所に仮置きし、工事終了後に再度湖底に広げ、再生を目指す計画です。工事後のガシャモク再生の過程を継続的に観察する為、現在のお糸池に於けるガシャモクの分布状況をドローン空撮で記録しています。工事后は継続的に空撮観測で再生状況を確認、検討を重ねていく計画です。

このように、ひとつの事案に取組み、達成する為には、かなりの時間が必要です。

これからも 30 周年に向かって、力を合わせて邁進していきましょう。

▽東谷を元気づける横断幕



◇ 河川部会

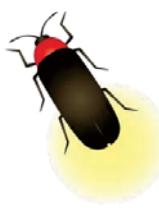
小学校と協力してほたるの生態や河川の学習を行うとともに地域団体が行う河川の維持管理や河川整備に関する事を担当しています。

〈活動内容〉

- ほたるや河川の学習支援事業
- 河川の維持管理事業
- 河川整備の要請 など



河川部会長
(井手浦町内会長)
内山 勝則



井手浦町内会長の内山勝則です。東谷まちづくり協議会組織の河川部会会長を兼務しています。東谷まちづくり協議会発足 20 周年おめでとうございます。

皆さんも周知の通り、令和 2 年 1 月 7 日新型コロナウイルス感染症が発生と、ニュース等で報道され、未曾有の感染症が地球規模に伝染しました。ちなみに今年の 9 月 30 日現在、世界の感染者数は 2 億 3327 万 2846 人、死者数 477 万 4440 人、国内の感染者数は 170 万 1400 人、死者数 1 万 7653 人です。3 密を防止すべく、東谷まちづくり協議会としまして行事計画を縮小、或は中止としました。

私の担当の河川部会も福岡県に 3 度目の緊急事態宣言（5 月 12 日～6 月 20 日）が発出され、市丸小学校 3、4 年生のホタル観察会、新道寺小学校 3、4 年生にはホタル館館長に講師依頼しての勉強会でしたが、緊急事態宣言と重なり残念ながら中止させて頂きました。9 月上旬の新道寺小学校児童による川遊びも高田校長先生の判断で中止となりました。

5 度目の緊急事態宣言（9 月 8 日～30 日）が発出されましたら感染者数 35 人と減少判断で解除になりました。今後第 6 波が到来すると感染症に精通している方が警鐘しています。東谷まちづくり協議会の一員として「解除を楽觀せず」を念頭に新型コロナウイルス感染症に、守りの安全、で努めると共に東谷まちづくり協議会の発展を祈念します。

◇ 広報部会

まちづくり協議会及び地域の広報活動、情報発進に関することを行います。

〈活動内容〉

- 広報誌「まちづくりだより」の定期発行
- まちづくり協議会ホームページの管理運営
- 地域団体事務代行支援事業

など



広報部会長
(平尾台観光協会事務長)
蜷川 昭代

東谷地区まちづくり協議会 20 周年おめでとうございます。そして、この 20 周年記念冊子の制作にあたり、多くの方に原稿をいただき誠にありがとうございました。

10 年前に「東谷まちづくり 10 周年のあゆみ」を作成し、あれから 10 年が経ったのですね。私的には、10 歳も年をとってしまったのか・・と怖い思いもありますが、子育てもほぼ完了し、今度は自分の為に時間を使ってみたいなあと思います。まだまだ元気なので、いろんな事に挑戦できるのではないか？とか考えています。

広報部会は、東谷地区まちづくり協議会発足 5 年目の平成 18 年より活動していて、ホームページの更新や「東谷まちづくり」新聞の発行（毎月 15 日）や事務処理、各種団体の印刷等の支援などを行っています。ホームページには、東谷地区の情報が満載です。その時々のまつりや行事のちらし（短信）やウォーキングコースなども掲載していますので、一度覗いてみてください。また、広報部会を応援してくださるメール会員も募集しています。これからも、広報部会は、東谷地区を元気にできるよう活発に活動していくので、ご支援・ご協力をお願いします。

最後に、広報部会の活動を支え、応援して下さっている皆様へ深く感謝を申し上げます。

◇ 健康づくり部会

地域住民の健康増進に関するこども行ないます。絵手紙部、EV体操部、ウォーキング部、グラウンドゴルフ部等があります。



健康づくり部会長
神園 まゆ美

東谷地区まちづくり協議会 20周年おめでとうございます。健康づくり部会の部会長をさせていただいております神園です。

まちづくり協議会の組織の中に参加するようになり、部会が発足して早いもので、15年が経ちました。手探り状態でここまで続けてこられたのも、東谷地区の皆様のご協力の賜物だと思っております。

健康づくり部会では、6部会に分かれそれぞれに活動しております。『絵手紙部会』『EV体操部会』『グラウンドゴルフ部会』『ウォーキング部会』『食育部会』『企画広報部会』です。各部長を先頭に各町内委員さん、館長、保健師、内科医、歯科医、薬剤師の先生方にもご協力頂き 15年間活動を進めて来ました。

年に一度、南区の各校区の方々との交流があるのですが、東谷健康づくり部会は他の校区にはない、専門家の先生方による健康講話を年に2~3回開催されている事がとても有難いと感

▽東谷地区まちづくり協議会ホームページ

The website features a banner for the "Higashitani Community ちいでっちゃん! ひがしに Conference" and a "Welcome to our HOMEPAGE 東谷地区まちづくり協議会 ホームページ". It includes sections for "チャリティコンサート" (Charity Concert), "平尾台の野焼き" (Hirata-no-yaki), and "東谷地区敬老会" (Higashitani Senior Citizen Festival). A news section "東谷まちづくりたより NEW!" is updated monthly. Other menu items include "まちづくり協議会 会員登録", "まちづくり協議会 の掲載と組織", "まちづくり協議会 のあゆみ", "東谷地区の行事", "東谷地区的現況", "東谷地区的歴史", "まちづくり10周年記念事業", "更合まちづくり 10年振り", "まちづくりアンケート結果", "東谷の文化財と郷土資料館", "市民センターと地域のあゆみ", "更合ウォーキングコース", "まちづくりメール会員の募集", "市民センター職員の募集", "ボランティア委員の募集", "「東谷校区いいとこ発見プロジェクト」", "平尾台の魅力", "制作編集 東谷中学校生徒会", and "まちづくりの部会と活動".

◇ 活動内容

- 絵手紙事業
- グラウンドゴルフ
- オリジナル体操の実践と普及
- ウォーキング事業
- 健康づくり講話
- まちづくりだより「健康リレートーク」など

じております。コロナ禍になってからは、色々な行事等が中止せざるを得ない事になり活動が出来ませんでしたが、センターが使用可能な限り定例会を行い私達に何が出来るのかを話し合い進めてきました。

まだまだ安心して行事等を開催する事は出来ませんが、部会の皆さんと話し合いを進めながら良い活動をしていきたいと思います。どうぞ皆さまのご協力をよろしくお願ひいたします。

▽ 東谷っちゃん体操（健康づくり EV 体操）



△ 井手浦でほたるの観察会



The banner features the text "東谷校区いいとこ発見プロジェクト" (East Valley Area Good Spot Discovery Project), "NEW 平尾台の魅力" (New Hirata-no-yaki Charm), and "制作編集 東谷中学校生徒会" (Production and Editing by Higashitani Junior High School Students).

◇ 女性部会

東谷地区在住の女性の融和を図るとともに地域団体と協力して地域の発展と福祉の向上に寄与することを行います。また、まちづくり協議会や地域団体、行政など開催する行事に参加、協力しています。

〈活動内容〉

- 花植え運動 ●研修会（救急法など）
- 東谷のイベント参加と支援 ●石原町駅清掃
- まちづくり協議会活動への参加と支援 など



女性部会
(東谷地区婦人会会長)
田中 弘子

東谷地区まちづくり協議会の20周年を迎え、心からお祝い申し上げます。20年の大きな節目にあたり、まちづくり協議会に関わった皆様には感慨深いものがあり、活動のご尽力に対して敬意を表します。

私は東谷まちづくり協議会の関わりは町内の女性部長として婦人会の会議に出席した頃より始まりました。現在は東谷婦人会の会長として、会長・副会長・会計の役員と各町内支部長・副支部長・会員総勢114名の組織をまとめ協調しながら楽しい集団づくりに努めています。

長引く新型コロナウイルス禍の中で、制限はあるものの出来ることを見つけて活動を続け、緊急事態宣言中は役員だけで備品整理・購入・宣言解除後の活動計画を進め、待ちに待った解除後は定例会や研修を計画しています。座学ではない活動を伴う楽しい研修にしていきます。

今、東谷地区で関わる会長としての活動は多く多忙な日々を過ごしています。しかし、これからも自分の住む地域に少しの貢献と地域の人たちとの関わりを大切にしていく心で活動を続けていこうと思っています。

東谷地区まちづくり協議会と同様に婦人会も、未来に向かって新しい歴史をきざみながら歩んでいってほしいと思います。

◇ 青少年部会

青少年の健全育成に関するを行います。

〈活動内容〉

- 夜間パトロール事業、地域巡回指導
- 教育講演会 ●東谷地区成人祭
- 設営・警備（観光まつり・フェスタ）
- 東谷チャリティーコンサート など



青少年部会長
(青少年健全育成協議会会長)
蜷川 新

東谷地区まちづくり協議会20周年おめでとうございます。青少年健全育成協議会会長の蜷川です。地域の皆様には、日頃より青少年健全育成協議会の活動にご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

20周年記念誌ということで20年前を振り返りますと、私は37歳で一番下の子も産まれ仕事まっしぐらの頃でした。この東谷に戻ってはいましたが、なかなか地域行事には参加出来ていませんでした。それから10年程して子どもの通う東谷中学校のPTA活動に参加するようになり、平成23年から3年間PTA会長をさせて頂きました。その間徐々に地域行事にも携わる様になり、平成29年より現在の青少年健全育成協議会（まちづくり協議会の組織では青少年部会）の会長に就任しております。

青少年健全育成協議会の活動としましては、年間を通しての地域パトロール、平尾台観光祭の設営・警備等、東谷フェスティバルのチャリティーコンサート及びバザーの企画運営・警備等が主なものとなります。小中学校のPTAや各地区的青少年部会員の方に協力頂き活動しています。

また、昨年度より東谷地区成人祭も社会福祉協議会から引き継ぎ、主催しております。今年は丁度まちづくり協議会20周年ということで、新成人と共に誕生した縁を感じています。この冊子にも新成人の晴れやかな写真を掲載させて頂

きました。

最後になりますが、今後も青少年健全育成協議会の活動により一層のご支援ご協力を賜りますとともに、東谷地区の更なる発展と皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

◇ 体育部会

東谷地区住民のスポーツやレクレーションに関するすることを行います。



体育部会長
(体育委員会委員長)
節原 隆男

東谷体育委員会委員長の小森町内の節原です。長い間体育委員会の役員をさせていただいています。まちづくり協議会（以下「まち協」という）ができて20年にもなるんですね。体育委員会は今年度からまち協の仲間にになりました。諸々の行事にも参加していくつもりでございます。よろしくお願ひします。

今回の原稿依頼にあたりいろいろ考えましたが、今後の東谷地区のことを考えて、現状問題点とご提案のようなものをしたいと思います。

上記のように、東谷体育委員会の役員を長くしています。今後の引き継ぎを考え、いろいろと副会長などの人材を育成してきたつもりです。

そうした中でも、副会長であった市丸のK君と石原町のM君は、仕事と家庭の都合上、東谷地区外に居所を移しました。各町内の体育委員も東谷地区外の方が出てきています。このため今年の総会で役員や各町内正副体育委員について、地区在住でなくても良い旨決定をしております。今後の引継ぎを考える場合、東谷地区在住にこだわらないことを前提に進めて行く必要があると考えます。こうしたことから、若手メンバーにも引き継ぎが可能なように、負担の少ない形での運営が必要と思っています。新型コロナによるリモートワーク



△女性部会 花植え運動

▽青少年部会 東谷地区成人祭



〈活動内容〉

- 東谷地区区民体育祭
- ソフトボール大会 など

の広がりも、こうした取り組みを後押ししてくれると思います。集まらずにできる事はどんどん進めていく、会議などはスマホやパソコンで行う。また、実際の行事はどんどん集約することができないかと思います。

1. 電子化教育を役員や年長者にこそ受けいただき、集まらないでスマホ・パソコンで会議や見守りを行う。

①電子化した会議で録画もして方針決定などをを行う。スマホ・パソコンで連携し、集まらなくてよい会議。

②一人暮らしの見守りを電子管理する

③そのため、役員や年長者などへのわかりやすいIT教育活動に力を入れる。

2. 行事の設定自体を、例えば年4回程度に集約し、その日は「東谷の日」などのようにして朝から晩まで行うようなことはできないでしょうか？ どんどん地域の人員が減っている中で、行事は減っていない印象があります。まち協の行事について、東谷体育委員会として各町内体育委員に行事参加を要請することになります。ただこの場合に、どの程度の要請をするか悩みます。メリハリをつけて年4回程度の参加要請をしたいとは思っています。逆に、まち協の行事設定自体も年4回程度に取りまとめ、朝から夕方までみっちり行事を行うようなことができないかとも思います。



△東谷区民体育祭

◇ 福祉部会

地域団体と協力して地域の社会福祉に関する
ことを行います。



福祉部会長
(社会福祉協議会会長)
延吉 和典

まちづくり協議会結成 20 周年おめでとうござります。この 10 年間で東谷もずいぶん変わりました。一番の変化は人口減だと思います。平成 23 年 3 月 31 日時点での人口は 5,427 人で、高齢化率は 32.6% でした。今年、3 月 31 日現在の人口は 4,698 人で、高齢化率は 43.6% です。729 人の人口減です。

また、75 才以上の高齢者は 1,100 人を超えていきます。高齢化が進む中で、社会福祉協議会では高齢者が安心して生活を楽しんでいける環境を整えることを最大の目標として活動してきました。その最たる活動が「ふれあいネットワーク」の拡充です。見守り・助け合い・話し合いを大きな活動目標として取り組んできました。また、高齢者に楽しんでいただくために年 5 回の高齢者サロン（グランドゴルフ・風船バレー・ディスコン）を実施しております。サロンの後の昼食会のカレーはとても好評で、これを楽しみにサロンに参加される高齢者もいらっしゃるようです。

近年の活動の中で力を入れているのが「買い物支援」です。社会福祉法人敬寿会特別養護老人ホーム「美咲ヶ丘」様のご好意により、運転手・燃料付でマイクロバスを貸していただき、井手浦地区の高齢者を対象に買い物支援を実施しておりましたが、残念ながらコロナ禍で活動が中断しています。コロナ感染が終息すれば、再開し他地区への「買い物支援」拡充も考えていきたいと考えています。

また従来、社会福祉協議会が「成人祭」を主催してきましたが、「成人祭」という行事の内容から考えれば、青少年健全育成協議会が主催するのが妥当であると考え、令和 3 年の「成人祭」から青少年健全育成協議会に主催していただくことになりました。

＜活動内容＞

- ふれあい昼食交流会
 - 高齢者サロン
 - ふれあいネットワーク事業
 - 学童保育クラブの運営管理
 - 子育て支援事業
 - ・ 乳幼児相談・ちっちゃいたまご
 - 東谷地区敬老会
 - 年長者クラブ（いこいの家）の運営
- など

社会福祉協議会の最大の行事は敬老会ですが、昨年・今年と 2 年連続でコロナ禍のために中止になりました。市では、敬老会に代わる何かを実施するのであれば高齢者（75 才以上の方）1 人につき 600 円の補助をするという連絡をいただいていたので、昨年は 1 人につき 5 枚のウレタンマスクを贈り、今年は不織布マスクを 1 箱（50 枚）贈りました。コロナ禍の中で、私たちが贈ったマスクをしている高齢者を見ると「良かった」と思ってしまいます。

現在、民生児童委員 17 名、福祉協力員 64 名で活動していますが、両組織ともに委員の高齢化が進み、若い委員や協力員を養成することが急務になっています。

ますます高齢化が進む東谷において、社会福祉協議会の果たす役割は何かを多面的に考え、住みやすく安全な地域にするために活動していくたいと考えています。

▽東谷敬老会



○東谷地区まちづくり協議会事業計画

部会等	活動内容	日程	備考
役員会・理事会	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の企画・運営業務 ●総務・会計業務 ●センター職員の採用 ●地域総括補助金 ●歓送迎会、忘年会の開催 ●理事会・事務局会議の開催 ●東谷フェスタの開催 ●まちづくり10年構想の実施 	通年	自治連合会と協力
市民センター運営部会及び市民センター	<ul style="list-style-type: none"> ●市民センターの運営 ●各種市民講座 ●家庭教育学級・成人教育・講演会等 ●市民センターホームページの管理運営 ●人権教育 ●各種クラブ活動 ●東谷地区文化祭 ●10館交流人権フェスティバル ●センターだより「ひがしたに」の定期発行 	通年 通年 通年 通年 通年 通年 2月下旬 通年	学校 青少年健全育成協議会 各種クラブ 市民センター、クラブ
まちづくり部会	<ul style="list-style-type: none"> ●クロスカントリー、トレイルラン ●町内公園の維持事業 ●おでかけ交通への運行協力・路線バス利用促進 ●まちづくり10年構想の実施 ●東谷フェスティバルの開催（コンサート・秋はなび） ●ファミリーバトミントン 	通年 通年 通年	南区 各町内 おでかけ交通委員会
教養文化部会	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土資料館の運営・管理 ●自治公民館の運営事業 	通年	各町内
生活安全部会	<ul style="list-style-type: none"> ●生活安全パトロール隊 第2金（下校時）、第4金（夜間） ●防火防犯、防災活動 ●空家調査 	通年 通年	
環境部会	<ul style="list-style-type: none"> ●古紙回収 ●環境衛生活動、不法投棄対応 ●センターの清掃活動（草刈等） ●猿被害対策支援 ●ガシャモクの保全活動 	通年 年3回 通年	市民センター
河川部会	<ul style="list-style-type: none"> ●河川の維持事業 ●環境保全事業・小学校河川学習支援 	通年	各町内
広報部会	<ul style="list-style-type: none"> ●広報誌「まちづくりだより」の定期発行 ●まちづくり協議会ホームページの管理運営 ●地域団体事務代行支援事業 ●まちづくりメール会員募集と配信 	通年 通年 通年	
健康づくり部会	<ul style="list-style-type: none"> ●絵手紙事業 ●オリジナル体操の実践と普及 ●ウォーキング事業 ●健康づくり講話 ●体育振興活動（グランドゴルフ東谷まち協カップなど） ●健康コーナーの活用 ●企画広報（まちづくりだよりへの掲載） ●食育推進事業 	通年 通年 年3回 年1回	社会福祉協議会 婦人会 民生委員
福祉部会	<ul style="list-style-type: none"> ●ふれあい昼食交流会 ●ふれあいネットワーク事業 ●学童保育クラブの運営管理（新道寺小学校） ●高齢者サロン ●東谷地区敬老会 ●東谷地区成人祭 ●年長者クラブ（いこいの家）の運営 ●子育て支援事業 ちっちゃいたまご 	毎月 通年 通年 年5回 通年	社会福祉協議会 社会福祉協議会 社会福祉協議会 社会福祉協議会 社会福祉協議会 社会福祉協議会 老人クラブ連合会
女性部会	<ul style="list-style-type: none"> ●研修会（救急法） ●花植え運動 ●まつりみなみ ●東谷のイベント参加と支援 ●まちづくり協議会活動の支援 ●石原町駅の清掃 	通年	婦人会
青少年部会	<ul style="list-style-type: none"> ●全市いっせいパトロール ●生活安全パトロール ●教育講演会 ●チャリティーコンサート ●親睦ソフトバレー ●東谷地区成人祭 ●警備（平尾台観光祭・東谷フェスティバル） 	年3回 通年 年2回	学校 社会福祉協議会
体育部会	<ul style="list-style-type: none"> ●東谷地区体育祭 ●東谷ソフトボール大会 		体育委員会 体育委員会
その他団体	<ul style="list-style-type: none"> ●平尾台観光祭 ●東谷農業まつり ●東谷地区新年祝賀会 ●平尾台野焼き 		平尾台観光協会 東谷興農会 地区協議会 野焼き実行委員会

市 民 セ ン タ 一 の 活 動

◆クラブ紹介

○コスモス卓球会

私共グループは、北九州市の高齢者研修大学校「周防学舎」の同窓生の集りで、後期高齢者ばかりです。目的は健康維持で無理をせずに楽しく和気あいあいにやっています。早くコロナ禍が収まって、他の面でも楽しみたいです。



○カトレア卓球同好会

会員は現在男性 5 名、女性 10 名です。毎回和気あいあいの雰囲気の中で楽しんでいます。また休憩時間には雑談を楽しむなど健康と生きがいづくりの交流の場として役割も大きく、会員一同大いに満足しています。
皆さんの参加をお待ちしています。



○東雲卓球クラブ

東雲(しののめ)卓球クラブです。来年度で、結成 10 年になります。会員 14 名です。
平均年齢 70 歳の老老男女です。
これから少しでも永く健康でいるために、日々練習に励んでいきたいと思っています。
※中古の卓球台をよろしくお願いします。



○えいご寺小屋

月 2 回楽しく英会話を学んでいます。



○男のストレッチ

このクラブは、平均年齢 70 才以上の男ばかりでストレッチ体操をする事で、身体の健康維持と、ボケ防止を目的としています。



○元気キッズ

小さい頃から食育を、家族ぐるみの食育を目指しています。日々の食事を大切に暮らしを大切にしていきながら、活動しています。親子料理教室、食育勉強会



○日本3B体操

毎週水曜日に(10:00~12:00)補助道具(ボール・ベル・ベルター)を使って楽しく体を動かしています。年長者でも体に合わせて動かすので、曲に合わせて踊ったりと楽しい教室です。



○野ばら卓球クラブ

クラブ活動は、準備体操後に抽選で男女ペアを決め、ダブルス試合を中心に1日2時間の練習を行っています。目標は卓球技術の向上と健康効果が期待できることです。そして何よりの楽しみがコミュニケーションタイムです。笑いあり、真剣さありで認知症予防効果には最高です。今後とも満足度の高いクラブ活動を続けていきたいと思っています。



○趣味の会

(第二、四木曜日 10:00~15:00)

只今の会員数は13名です。年齢(60代~80代)も手芸経験もバラバラ。しかし同じ趣味を持っている仲間ですので、大変まとまって楽しいクラブです。ちなみに指導して下さっている川端先生が一番若いです。年間行事、季節の小物を手作りして、作品に仕上げて部屋に飾るときは最高です。興味のある方、是非、見学にいらしてください。お待ちしております。



○ユニーク健康体操3B

人生100年と云われる今、私達は人に頼らず、自立した生活をしたいものです。年を重ねるごとに失われる機能を回復するために色々な道具を使い楽しい音楽に合わせて体操をします。体調管理にストレッチ、腹筋、脚力、週1回ですがとても役立っています。仲間とのおしゃべりや旅行等も楽しいです。



○書道クラブ 土筆・杉菜

小・中学生から大人の方まで、練習します。
大人の書道は課題に沿って半紙、小筆での細字、
手紙文、のしなどの実用書、かななど、個々の
書いてみたい分野を練習できます。



是非、一緒に書道をやってみませんか。
小・中学生を主として、毛筆と硬筆を勉強しています。
基本の筆づかいをしっかりと習います。
皆さん、お習字仲間になりましょう。待っています。



○小倉南居合道クラブ

小倉南居合道クラブでは、日本古来より
伝わる古き良き伝統文化を通して、
地域の青少年の健全な体と精神を養う事を
目的としています。



○ふみふみクラブ

クラブが発足して早や一年過ぎましたが、
コロナ禍の為に思うように活動出来ません
でしたが先生の熱心な指導にて、
ひとりひとりの痛みのツボを
押さえやわらげもらっています。
関心のある方は、第3金曜日の10時~12時まで
ですので参加してみませんか~お待ちしています。



○華みずき

自宅に眠っている着物や帯で楽しく練習しています。
帯を前で結んで楽しく練習しています。
帯を前で結んで後ろに回す、前結びなので
いろんな変わり結びをして、
ちょっとおしゃれ気分でおでかけしましょう。



○革ローケツ染め

今年も去年と同じくコロナ禍の緊急事態宣言の発令で教室がお休みになってしまい、
なかなかおけいこが出来ませんでした。
クラブ員が少なくなりましたが、
革にローケツ染めをして小物等を
製作しています。文化祭が今年も
中止になり作品を皆様に見ていただく
機会がなく非常に残念です。



○サクラクラブ

今年は何と言っても、新型コロナウイルスが話題になりました。幸いにして全国の感染者は、激変傾向で経済も回復しつつあります。しかし海外では感染者数が再拡大し、各イベント、入国制限の緩和で今から冬に向かって、第6派が懸念させます。政府は治療薬の開発も進み、三回目接種も閣議決定されました。変異株にはワクチンは効かないとも報道されています。自分の健康は自分で守るのが先決ではないでしょうか。そんな中で私達クラブはチーム一丸となってマスクなど基本的感染者対策を継続して笑顔でコミュニケーションを取り交流しながら活動しています。

健康に徒歩も良いですが冬に何か実行しづらいです。
是非、卓球で汗を流し適度の運動をしませんか。
全員一同歓迎しています。
毎度市民センターにはお世話になっています。
館長職員の皆様、コロナ禍で大変とは思いますが、
今後とも、ご指導の程よろしくお願いします。



○絵画クラブ

東谷の自然豊かな風景に親しみ四季を通じて
描くことを皆で楽しんでいます。
それぞれ個性豊かな作品を描くことを目指しています。



○カルスト句会

本クラブは昭和42年に発足し、今年55年目を迎えます。
東谷市民センターに於ける最も歴史と
伝統あるクラブの一つです。
現在会員は13名。そのうち6~8名程が
月一回の句会に参加しています。
句会は毎月第2土曜日の午後1時~3時の2時間です。
俳句は脳の活性化を促し、生涯を通じて行うことができます。
初心者大歓迎、気軽に見学に来て下さい！



○千年会

毎月2回、神園先生指導のもと活動しています。ストレッチ・リンパマッサージ・
軽い筋トレ・エアロビ等を行いながら、
自分の出来る範囲で無理なく身体を、
ほぐすことによって、血行が良くなり、
柔軟性が高まります。転倒予防、姿勢矯正、
リラクゼーション効果、ダイエット、
冷え性改善といいこと尽くめ！！
健康の為、みんなで仲良く活動中です。



○ピラティス&ストレッチ&ヨガ

土曜日、午後1:00～3:00 しっかり全身を動かしますよ。

運動すると、からだが軽くなります。

- 〃 おいしい食事が出来ます。
- 〃 ぐっすり眠れます。
- 〃 ストレスがなくなります。
- 〃 綺麗になりますヨ
- 〃 老いる事も楽しみですよ。

一緒に運動しましょう！！

※いつも利用させて頂きありがとうございます。

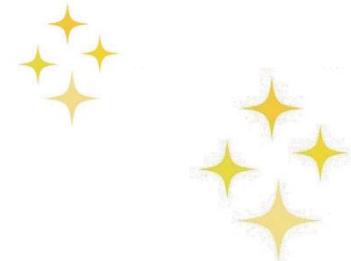
回りの景色に癒されて、気持ちよく、
レッスンできて最高です！！



○東谷市民センターでは、27のクラブが（令和4年3月現在）が活動しています。

▽ 2022年クラブ活動一覧

曜日	内 容	ク ラ ブ 名	使 用 日	時 間
月	卓 球	コスマス卓球会	毎週	10:00～12:00
	卓 球	カトレア卓球同好会	毎週	13:00～15:00
	卓 球	東雲卓球クラブ	毎週	15:00～17:00
	折り紙	四季折り紙	4	10:00～12:00
火	英会話	えいご寺小屋	2・4	13:00～14:30
	体 操	男のストレッチ	2・4	10:00～11:00
	食 育	元気キッズクラブ	4	10:00～12:00
	フラダンス	アロハフラサンシャイン	1・2・3	13:00～15:00
水	体 操	日本3B体操	毎週	10:00～12:00
	カラオケ	カラオケ愛好会	毎週	13:30～15:30
	合 唱	東谷混声合唱クラブ	毎週	19:30～21:30
木	体 操	ユニーク健康体操3B	毎週	10:00～12:00
	小物作り	趣味の会	2・4	10:00～12:00
			2・4	13:00～15:00
	卓 球	野ばら卓球クラブ	毎週	13:00～15:00
	書 道	書道クラブ 土筆	毎週	16:30～18:00
	書 道	書道クラブ 杉菜	毎週	18:00～19:30
金	革ローケツ	革ローケツ染め	2・3・4	10:00～12:00
	卓 球	サクラクラブ	毎週	13:00～15:00
	銭太鼓	ふれあい銭太鼓クラブ	1	13:30～15:30
	居合道	小倉南居合道クラブ	2・4	18:30～20:30
	足うら セルフケア	ふみふみクラブ	3	10:00～12:00
	着付け	華みずき	1・3	19:00～21:00
土	水彩画	絵画クラブ	2・4	13:00～16:00
	体 操	千 年 会	1・3	10:00～12:00
	体 操	ピラティスとストレッチと ヨーガ	毎週	13:00～15:00
	俳 句	俳句クラブ	2	13:00～15:00
	食 育	元気キッズクラブ	3	10:00～12:00
	着付け	華みずき	1・3	10:00～12:00



自然に囲まれ
キラキラと輝き
交流を深め、
和氣あいあいと
楽しいひとときを
過ごしています。
皆さまの仲間入りを
お待ちしています。



◆子ども講座「谷っ子」

▽ 案山子づくり



▽ 平尾台を望む田んぼの案山子



▽ 飾り巻きずしづくり



▽ 東谷の歴史を学ぼう



▽ マイ・フォトフレーム&まいのうー焼うどん作り



◆生涯学習市民講座(その1)

▽ 春爛漫の井手浦をお散歩



▽ グラウンドゴルフ



▽ ロコモ予防体操



▽ 「梅」を漬けよう



▽ 「らっきょう」を漬けよう



▽ 「味噌」作り体験



◆(その2)

▽ 大人の「飾り巻き寿司」



▽ 可愛く巻けました



▽ 大人の「スイーツ作り」



▽ 古布で季節の花を創ろう



▽ 幸せ運ぶクリスマス&お正月用のリース作



▽ ハッピーバレンタイン・フラワーアレンジメント



▽ 内科医による健康講話



◆人権市民講座

▽ 『思いやりの心をはぐくむ 一人ひとりが自分らしく』



▽ 「高齢者の人権と防犯」



◆家庭教育学級

▽ 開級式 山本 美也子氏の講演



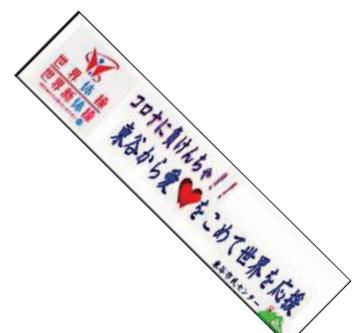
▽ 「アン・クレシーニ」氏の講演



▽ 閉級式「ハーバリウム ボールペン・ペンダント作り」



◆世界体操応援プロジェクト



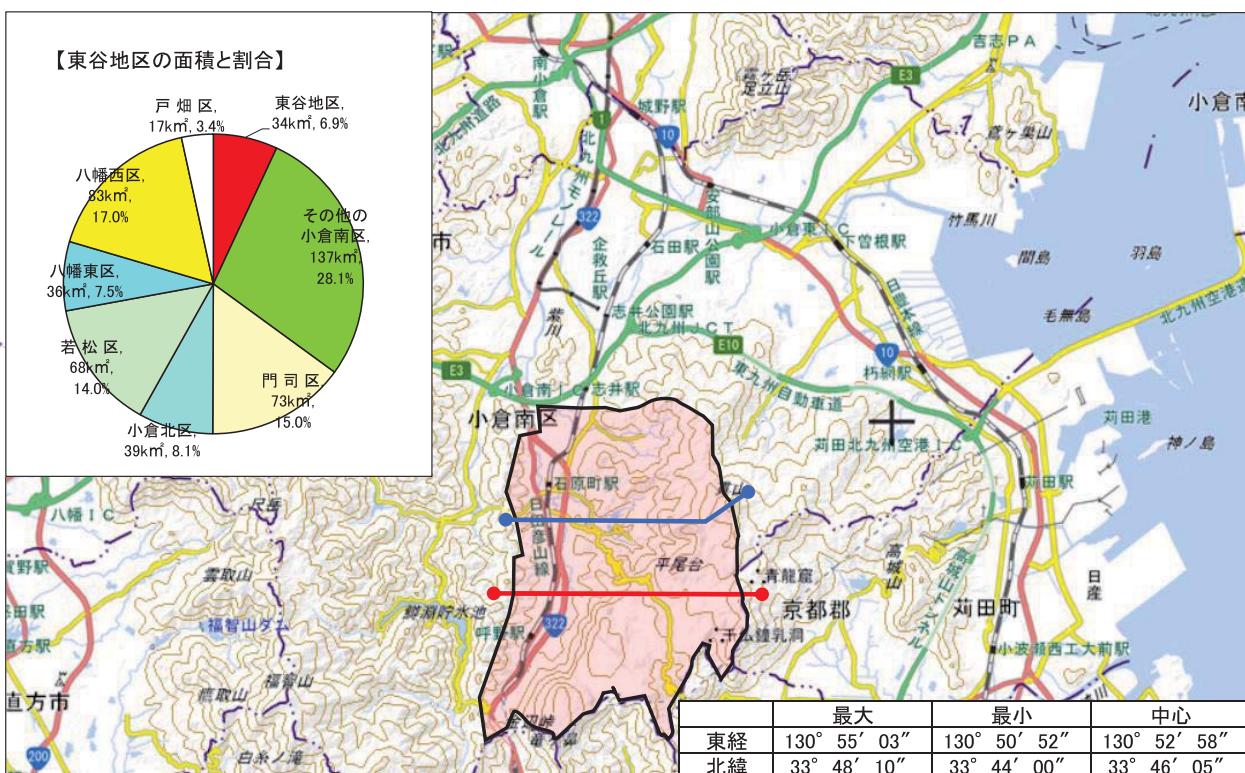
東谷地区的現況

◆ 位置・面積

東谷地区は、北九州市の南端に位置し、その名の通り小倉南区の南部の東の谷あいにある。

東西 6.5km、南北 7.7km で、面積は 34km²あり、北九州市全体の約 7% にあたる。また、これは、小倉南区の 20%、戸畠区の 2 倍の面積である。

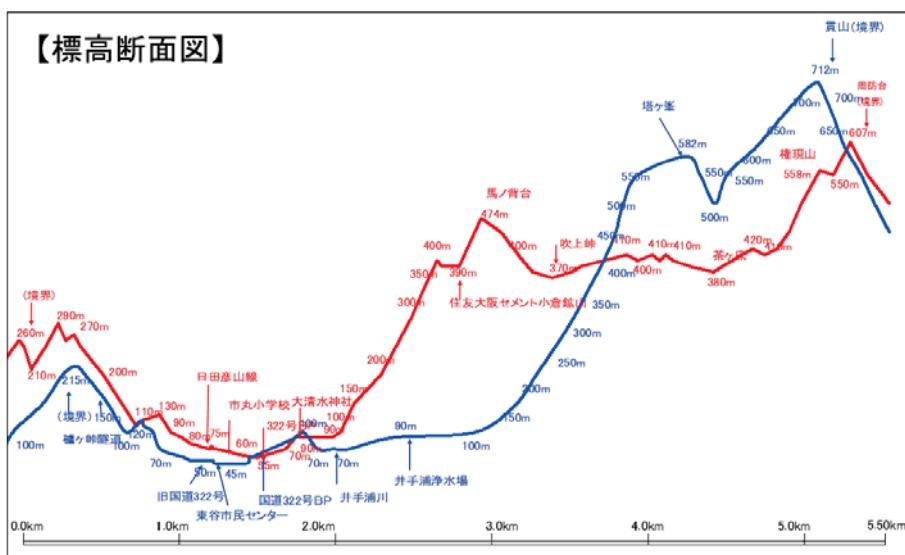
東谷地区の面的重心は、東経 130 度 53 分、北緯 33 度 46 分にあり、平尾台登山道（主要地方道直方行橋線）の 18 カーブ付近である。



◆ 地形

東は、貫山(712m)、塔ヶ峰(582m)、南は竜ヶ鼻(681m)を中心とする山々がそびえ、西は、福智山に連なる山系で囲まれている。塔ヶ峰から竜ヶ鼻に至る約7kmの台状地形は、平尾台と呼ばれ、九州最大のカルスト台地として国定公園にも指定されおり、北九州市の有数な観光地である。

平地部の海拔は 50m ~ 70m であり、住宅は、国道 322 号、JR 日田彦山線沿いに展開している。



△ 東谷地区的地形

◆ 東谷地区の歴史

○行政区の変遷

明治 22 年に呼野、小森、市丸、木下、井手浦、新道寺、母原、石原町、平尾の 9ヶ村が集まり東谷村が発足した。昭和 10 年以降、セメント城下町として栄えており、村の財政事情が比較的裕福であったこともあり、東谷村は企救郡で最後まで一郡一村を維持していたが、昭和 23 年に小倉市に編入された。昭和 38 年北九州市の誕生とともに小倉区となり、昭和 49 年区再編に伴い小倉南区となる。

昭和 45 年都市計画法が改正され、東谷地区全体が市街化調整区域に指定された。これに伴い東谷地区では住居や施設を建てることが難しくなった。

○古代の東谷地区

東谷地区が歴史書に始めて登場するのは、日本書紀景行天皇の巻に禰疑野、紫生野〔現在の平尾台・貫山周辺〕に土蜘蛛八田を討つとあり、現在の平尾台の青竜窟に土蜘蛛が住んでいたといわれている。これが 2 世紀前半とされている。

また、同じ日本書紀に雄略天皇十二年(五世紀後半)聞物部大斧手(「企救の武人大野の人」との説あり)が伊勢の朝日郎を討つとある。大野とは桜橋以南の紫川上流の地域であり、東谷地区は大野郷の一部である。大野郷とは、おおむね現在の三谷地区にある。

○呼野の銅と金鉱山

和銅年間(710 年頃)鉱山守護神として呼野の大山祇神社が奉祀されたとされており、呼野の鉱山の歴史は古い。和銅年間に鋳造された日本最古のお金「和同開珎」(708 年)、「東大寺の盧舍那仏(奈良の大仏)」(752 年)には金辺峠の向こう採銅所の銅が用いられたとの記録があり、この頃、呼野においても銅の採掘が行われていたと考えられる。

江戸初期には、呼野で金山が開山し、細川小倉藩の隠し金庫であったとの記録や呼野に 5 千人住んでいたとの記録もある。この金鉱山も 1863 年に閉山している。



△ 東谷地区の行政区の変遷



△『土蜘蛛草紙絵巻』(東京国立博物館所蔵、重要文化財)

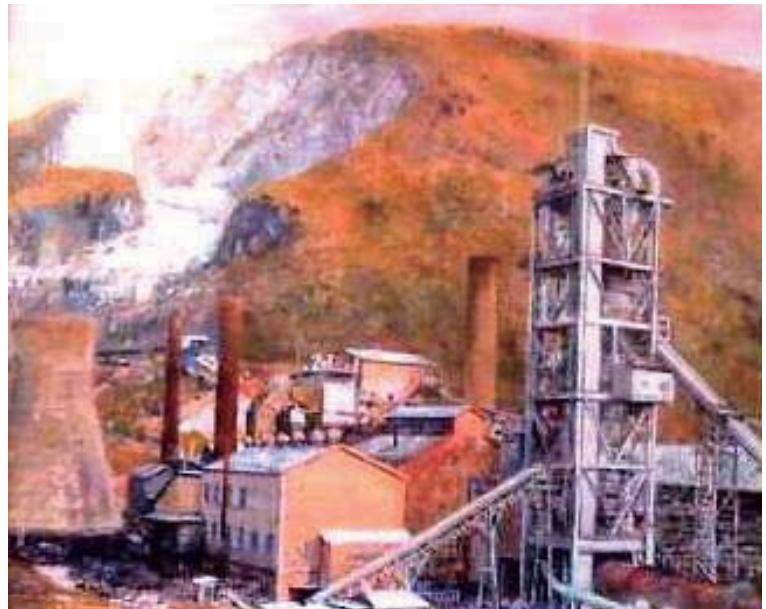
○石灰石鉱山とセメント工場

大正時代に小森白谷に珪石採石所開山、市丸に中外大理石採石所開山、浅野セメントの呼野石灰石採石所が操業している。昭和 10 年に東洋セメント（現住友大阪セメント）の工場が市丸に建設された。昭和 30 年筑豊石灰工業株（現三菱マテリアル）が鉱山開発に着手し、昭和 38 年にセメント工場が操業を開始している。2つのセメント会社の全盛時は、東谷も活力ある賑やかな地区であった。

しかし、昭和 40 年代半ばより、全国的に輸送条件の悪い内陸部のセメント工場は整理された。東谷地区の 2 つのセメント会社も例外ではなく、昭和 59 年に住友大阪セメントの工場が閉鎖、平成 15 年には三菱マテリアル株の東谷工場が閉鎖されている。これに伴い、セメント会社の社宅もなくなり、東谷地区の人口は急激に減少した。また、西日本一の貨物取扱量を誇った J R 石原町駅の貨物部門も平成 8 年に廃止された。

現在は、両社とも鉱山部門のみの操業となっており、平成 18 年に三菱マテリアルと住友大阪セメントは、両鉱山の中間部の石灰石を採掘する平尾台の共同開発を発表し、平成 23 年に着手、現在に至る。共同開発に伴う雇用拡大により、両社に採用された住民もかなり見られる。

東谷地区協議会と両事業所は双務協定に基づき、年 2 回、共同開発操業に伴う環境影響評価の検討会を開催しており、水環境、煤塵、騒音、振動などの環境項目の報告をしていただき、環境問題に対応している。また、両社には、まちづくり協議会はじめ地域団体のコミュニティ活動にご協力、ご支援をいただいている。



△ 市丸にあったセメント工場の絵画



△ 石原町駅の貨物列車



△ 東谷地区協議会の共同開発区視察(年 1 回)

○平尾台

平尾台は、新道寺町内が所有する入会地であったが、明治 45 年に陸軍省に売却し、陸軍の演習場となった。二次大戦後、昭和 24 年に平尾台確保委員会が組織され、平尾台を東谷地区に払い下げてもらうべく、運動を展開、昭和 26 年に設立間もない東谷農協に一部を払い下げる 것을 국가가 결정하고, 그 해에 평대가 국립 기념물로 지정되었다. 第 1 回 平尾台観光まつりが開催されている。払い下された東谷地区の財産は、昭和 43 年に設立された社団法人東谷興農会に引き継がれている。昭和 42 年に平尾台丸和ランドが開業、翌年に平尾台観光センターが開設、昭和 47 年には平尾台が国定公園となっている。

昭和 52 年 3 月 25 日、平尾台の野焼きの最中に区域外の貫山で林野火災が発生し、消防車両 83 台、ヘリコプター 2 機、消防職員・団員 562 人が出動しましたが、山林、原野 207 ヘクタールを焼損、消火作業中の消防職員 5 人が殉職しました。これ以後、大規模な野焼きは休止されました。

平成 2 年に県道直方行橋線が開通。平成 5 年には平尾台の野焼きを再開するとともに北九州市が「自然と人と産業の共生」をコンセプトとした「平尾台整備構想」を策定した。その翌年に「第 1 回高原ピクニックコンサート」開催されている。平成 12 年県が「平尾台自然観察センター」を開館。また、平成 15 年 4 月「平尾台自然の郷」がオープンしている。同年、平尾台観光まつりが平尾台自然の郷で開催された。平尾台の地名の一部が新道寺から平尾台 1 ~ 3 丁目に改称されたのもこの年である。

平成 21 年「第 1 回ふゆはなび」を開催、平成 22 年には、「第 1 回平尾台トレイルラン」が開催されている。「ふゆはなび」、「トレイルラン」ともまちづくり協議会の役員が実行委員会を構成している。また、平成 29 年に市街化調整区域において全国初の特区民泊施設「山の家 粕邑 HIRAO dai」が開業した。



△平尾台自然の郷オープニングセレモニー



△平尾台トレイルラン



△第 14 回 ふゆはなび

▽東谷地区の歴史[略年表] 1/2

西暦	年号	内 容
2世紀前半	景行天皇15年	日本書紀景行天皇の巻に禰疑野、紫生野[現在の平尾台・貫山周辺]に土蜘蛛八田を討つとあり、今の青竜窟に土蜘蛛が住んでいたといわれている
5世紀後半	雄略天皇12年	日本書紀に聞物部大斧手(「企救の武人大野の人」との説あり)が伊勢の朝日郎を討つとある。大野とは東谷を含む紫川上流の地域
536年	宣化天皇元年	この頃 大宰府が出来る
572年	繼体天皇21年	国造磐井の反乱(東谷も戦火にさらされた)
666年	天智天皇5年	高津尾に大野神社が建立される
708年	和銅元年	この頃 鉱山守護神として呼野の大山祇神社が奉祀
740年	天平12年	藤原広嗣の乱(一軍が東谷を通り板櫃川の戦へ)
743年	天平15年	東大寺大仏建立の詔(採銅所や呼野の銅が使われた)
804年	延暦23年	最澄が東谷を通り香春の神宮院で唐に渡るため安全祈願をする
938年	天慶元年	平尾台の千仏寺開山(千仏の由来)
940年	天慶3年	天慶の乱(藤原純友の残党が東谷を敗走)
1185年	文治元年	文治年間に大清水神社への国守の下向が止んだ
1381年	永徳元年	法円寺の梵鐘築造(明治10年京都郡より新道寺が購入)
1385年	至徳2年	祖西が井手浦西光寺に梵鐘を奉納
1399年	応永6年	筑前を鎮めた大内盛見が呼野茶臼山城に入る
1466年	文正元年	雪舟が村上邸の庭園を築造
1522年	大永2年	木下城を詰城(亀甲を居館)とする小野田種尚が豊後に出陣
1561年	永禄4年	大友宗麟豊前を制覇(母原の岩応寺に陣をはる・千仏寺焼かれる)
1585年	天正13年	因幡国山野大学介源種康が大清水神社を再興(神社の創立は不詳)
1587年	天正15年	豊臣秀吉が九州征伐のため東谷を進軍
1597年	慶長2年	呼野で金が発見される
1602年	慶長7年	細川忠興が中津より小倉に来封(東谷が小森手永の村になる) この頃より呼野と石原町が宿場町として整備される
1623年	元名9年	呼野餅ヶ谷に金山開山(人口五千人に)・1863年閉山
1667年	寛文7年	大野郷九力村の崇敬により東大野八幡神社が建立
1781年	天明元年	石原町に大火、本宿から半宿に格下げ(德力が本宿に)
1813年	文化10年	伊能忠敬が東谷を測量
1856年	安政3年	平尾台の秣刈りで争い(新道寺の権利が再確認される)
1858年	安政5年	小笠原忠嘉 平尾台で具足調練(訓練)を行う
1863年	文久3年	呼野金山閉山
1866年	慶応2年	島村志津摩が東谷で長州と戦う
1869年	明治2年	義人原口九右衛門による企救一揆
1877年	明治10年	新道寺小学校開校
1880年	明治13年	呼野育英小学校(現市丸小学校)開校
1882年	明治14年	平狭小学校(現平尾分校)開校
1889年	明治22年	企救郡東谷村が発足・吉原鉱山(呼野)開発
1895年	明治28年	石原町郵便局開設(三谷地区を管轄)
1899年	明治32年	矢山地区を京都郡諫山村に移管
1907年	明治40年	東谷第一尋常小学校(現新道寺小学校)に高等科を併置
1908年	明治41年	東谷村が最初の地域振興総合計画を策定
1912年	明治45年	新道寺が陸軍省に平尾台を売却
1915年	大正4年	小倉鉄道(東小倉~添田)開業・村内に呼野駅、石原町駅を設置 浅野セメントの呼野石灰石採石所が操業・1956年閉鎖 この頃 市丸に中外大理石採石所開山
1922年	大正11年	小森白谷に珪石採石所開山
1928年	昭和3年	第三尋常小学校(平尾台)文教場になる
1931年	昭和6年	道原と連絡する櫛ヶ峠トンネル開通
1933年	昭和8年	呼野の旅館城井屋に俳人山頭火が宿泊
1935年	昭和10年	最初の金辺トンネル開通 東洋セメント(後に磐城→住友)の工場が市丸で建設される
1941年	昭和16年	東谷国民学校高等科が創設(現在の東谷中学校の位置)
1942年	昭和17年	現在の志井駅が開業
1942年	昭和17年	企救郡東谷村が一郡一村となる(曾根町が小倉市に編入)
1944年	昭和19年	東谷村農業会設立(信用購買販売利用組合解散…大正年間設立)
1946年	昭和21年	平尾吹上峠の登山道工事
1947年	昭和22年	学制改革により東谷中学校が開校 平尾台の旧陸軍用地への入植始まる
1948年	昭和23年	三笠宮様が平尾台に来訪 東谷農業協同組合設立・東谷村が小倉市に編入
1950年	昭和25年	東谷地区協議会が発足 日本観光百選の高原の部で平尾台が第3位になる
1951年	昭和26年	平尾台が福岡県自然公園に指定される
1952年	昭和27年	国から東谷農協に平尾台を払い下げられることが決定 平尾台が国の天然記念物に指定される
1954年	昭和29年	第1回平尾台観光祭開催
1955年	昭和30年	小倉市立東谷公民館が開館 筑豊石灰工業株(現三菱マテリアル)が鉱山開発(石灰石採掘)

▽東谷地区の歴史[略年表] 2/2

西暦	年号	内 容
1961年	昭和36年	小倉鉄工団地協同組合(石原町)発足 青龍窟が国の天然記念物に指定される
1963年	昭和38年	北九州市誕生(五市合併、小倉区に) 三菱セメント(現三菱マテリアル)東谷工場操業開始
1967年	昭和42年	平尾台丸和ランド開業
1968年	昭和43年	社団法人 東谷興農会が設立・平尾台観光センター開館
1970年	昭和45年	線引きにより東谷全域が市街化調整区域となる
1971年	昭和46年	呼野、志井駅が無人化
1972年	昭和47年	平尾台が北九州国定公園に指定される 鱗淵ダム完成
1973年	昭和48年	東谷農協が解散し、北九東部農協発足
1974年	昭和49年	小倉南区が発足 小倉南区保存樹第一号として山家邸のタブノ木が指定される
1977年	昭和52年	平尾台の野焼きで消防署員5名が死亡。大規模な野焼きは休止
1980年	昭和55年	東谷郷土資料館が建設される
1983年	昭和58年	東谷公民館・東谷出張所新庁舎が竣工
1984年	昭和59年	住友セメント閉鎖
1988年	昭和63年	国道322号バイパス開通(石原町～市丸) 九州自動車道小倉南IC供用開始
1989年	平成元年	第二金刃トンネル開通
1990年	平成2年	直方行橋線(平尾台～行橋)開通
1993年	平成5年	平尾台の野焼きを再開
1994年	平成6年	第1回 高原ピクニックコンサート開催
1996年	平成8年	石原町駅での貨物列車の廃止(貨物線廃止)
1998年	平成10年	国道322号呼野バイパス開通(石原町～呼野全通)
1999年	平成11年	石原町駅の有人化なる
2000年	平成12年	平尾台自然観察センターオープン
2001年	平成13年	第1回東谷チャリティーコンサート開催 東谷地区まちづくり協議会発足
2002年	平成14年	東谷市民福祉センター開設
2003年	平成15年	三菱マテリアルがセメント工場の閉鎖を発表 平尾台の地名の一部が新道寺から平尾台1～3丁目に改称 西鉄平尾台線廃止・おでかけ交通運行開始
2004年	平成16年	平尾台自然の郷オープン 平尾台観光まつりを初めて自然の郷で開催
2005年	平成17年	東谷郷土資料館開館記念行事
2006年	平成18年	新道寺学童保育クラブ開設 消防第10分団新庁舎竣工
2007年	平成19年	この頃より猿害が出始める
2008年	平成20年	まちづくりだより定期発行開始
2009年	平成21年	三菱・住友大阪セメント平尾台の共同開発を発表 第1回東谷農業祭開催
		東谷駐在署改築落成
		第1回平尾台ふゆはなび開催
		市丸学童保育クラブ小学校に移転
		地域総括補助金の導入に伴いまちづくり協議会の組織を全面改組
		東谷地区大雨災害
		北九州農業協同組合が発足
2010年	平成22年	第1回平尾台トレイルラン開催
		東谷地区2年連続の大雨災害
2011年	平成23年	東日本大震災。東谷より宮城県女川町に支援物資と義援金をおくる 東谷地区まちづくり協議会10周年記念行事
		三菱・住友大阪セメントが平尾台の共同開発に着手
2012年	平成24年	東谷市民センターの敷地にアメダスが設置される 東谷興農会が一般社団法人東谷興農会となる
		第1回東谷フェスティバル開催
2013年	平成25年	第2回東谷フェスティバル。興農会で11年ぶりに花火大会
2014年	平成26年	猿捕獲用の大型檻を初めて設置
		東谷区民体育祭が改修された興農会グランドで初めて開催される
2015年	平成27年	JR石原町駅再び無人化
2016年	平成28年	西鉄バスが田川線廃止を発表。「乗って残そうバス路線」運動を開始
2017年	平成29年	西鉄バス田川線が中谷止まり1日7往復となる
		市街化調整区域における全国初の特区民泊「山の家 精邑 HIRAO DAI」が開業
2018年	平成30年	西鉄バス守恒延伸の社会実験を実施(六ヶ月)
2019年	平成31年 (令和元年)	消防第9分団新庁舎竣工
2020年	令和2年	東谷郷土資料館の古民家が取り壊わされる 日本で新型コロナウィルスが初めて発症
	令和3年	東谷地区で新型コロナウィルスのクラスターが発生 東谷地区で新型コロナワクチンの地域住民への職域接種を実施
		西鉄バス田川中谷線が廃止、西鉄北九州バスが東谷線を運行開始
		東谷興農会新館・体育館の落成式。郷土資料館コーナー開設
		東谷地区まちづくり協議会20周年記念事業

◆ 東谷地区の人口

○人口推移

東谷地区の人口は令和3年9月末現在4681人で減少傾向にある。平成12年(2000年)に比べて▲22%となっている。

年令階層別の人団の推移をみると一部ではあるが40歳代と10歳前後で微増が確認され、親の高齢化などによるUターン、東谷の緑などに魅かれたIターンなどがあると考えられる。

東谷地区の人口減少を食い止めるためには、Uターン、Iターン流れを促進する必要があり、居住の場や就業の場を確保するとともに地域の魅力を高めることが課題となる。

平成23年 5歳未満	平成28年 5~9歳	令和3年 10~14歳
145	167	194

平成28年 35~39歳	令和3年 40~44歳
221	226

平成28年 40~44歳	令和3年 45~49歳
293	309

△ 増加が見られる年令層
(住民基本台帳)

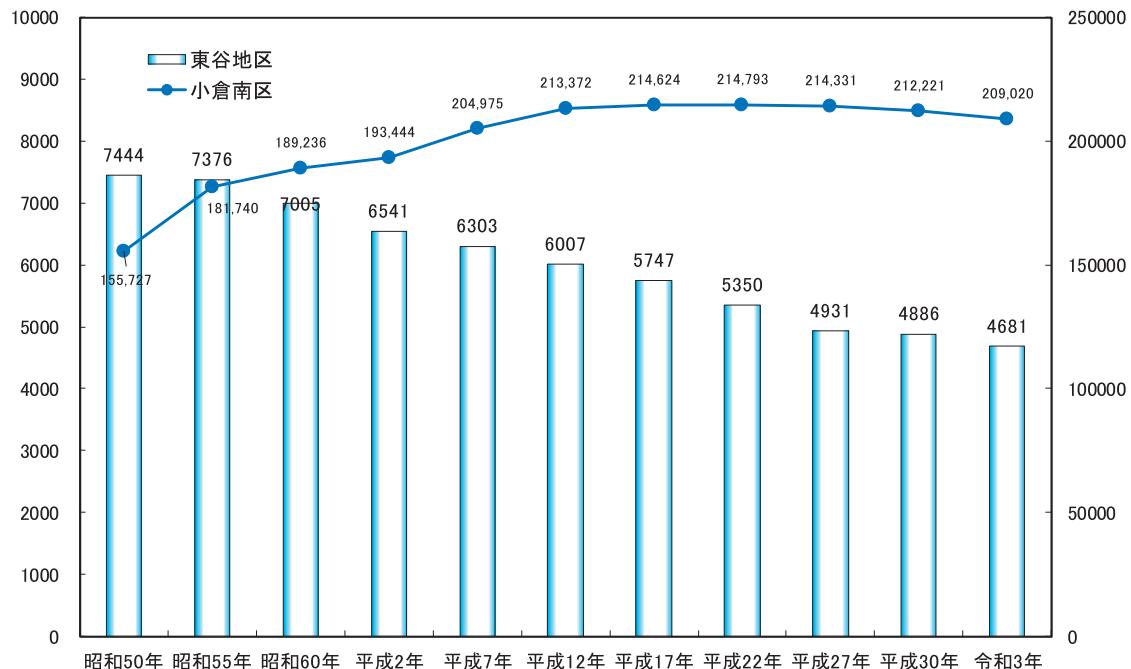
人口推移

地 域	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年	令和3年
東谷地区	7,444	7,376	7,005	6,541	6,303	6,007	5,747	5,350	4,931	4,886	4,681
小倉南区	155,727	181,740	189,236	193,444	204,975	213,372	214,624	214,793	214,331	212,221	209,020
北九州市	1,058,058	1,065,078	1,056,402	1,026,455	1,019,598	1,011,471	993,525	976,846	961,286	956,501	937,975

平成27年までは国勢調査、以降は住民基本台帳

比率(H2=1.00)

地 域	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年	令和3年
東谷地区	1.24	1.23	1.17	1.09	1.05	1.00	0.96	0.89	0.82	0.81	0.78
小倉南区	0.73	0.85	0.89	0.91	0.96	1.00	1.01	1.01	1.00	0.99	0.98
北九州市	1.05	1.05	1.04	1.01	1.01	1.00	0.98	0.97	0.95	0.95	0.93



△ 東谷地区の人口推移 (国勢調査、住民基本台帳)

○人口構造

東谷地区では、この10年で65歳以上の人口は33%から44%に増加した。

15歳未満は、494人→422人に減少したが、比率は殆ど変化していない。

この20年間で東谷地区の15歳未満の人口は、実数で235人減少、比率では0.64倍である。

75歳以上の人団は430人増、1.64倍となっている。

小倉南区と比べて少子化は顕著であるが、高齢化の進行速度は遅い。

平成23年

		15歳未満	15~64歳	65歳以上	計
実数	東谷地区	494	3,164	1,770	5,428
	小倉南区	31,859	135,974	47,147	214,980
	北九州市	128,337	604,323	242,700	975,360
構成比	東谷地区	9.1%	58.3%	32.6%	100.0%
	小倉南区	14.8%	63.2%	21.9%	100.0%
	北九州市	13.2%	62.0%	24.9%	100.0%

北九州市住民基本台帳

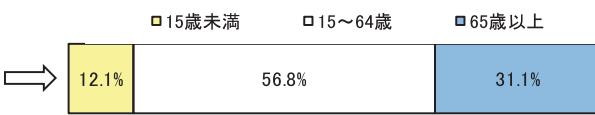
【平成23年3月31日現在】



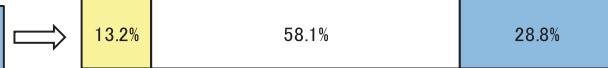
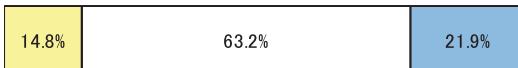
令和3年

		15歳未満	15~64歳	65歳以上	計
実数	東谷地区	422	2,192	2,067	4,681
	小倉南区	27,489	121,409	60,122	209,020
	北九州市	113,665	532,567	291,743	937,975
構成比	東谷地区	9.0%	46.8%	44.2%	100.0%
	小倉南区	13.2%	58.1%	28.8%	100.0%
	北九州市	12.1%	56.8%	31.1%	100.0%

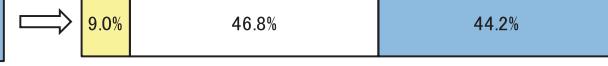
【令和3年9月30日現在】



小倉南



東谷



△ 東谷地区の年令階層別人口 (住民基本台帳)

15歳未満人口 の推移

	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年	令和3年
東谷地区	657	573	494	461	422
小倉南区	33,504	32,808	31,859	30,032	27,489

比率(H13=1.00)

	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年	令和3年
東谷地区	1.00	0.87	0.75	0.70	0.64
小倉南区	1.00	0.98	0.95	0.90	0.82

15未満人口 の割合

	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年	令和3年
東谷地区	11%	10%	9%	9%	9%
小倉南区	16%	15%	15%	14%	13%

75歳以上人口 の推移

	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年	令和3年
東谷地区	677	810	918	1,025	1,107
小倉南区	13,488	17,323	22,320	27,422	30,965

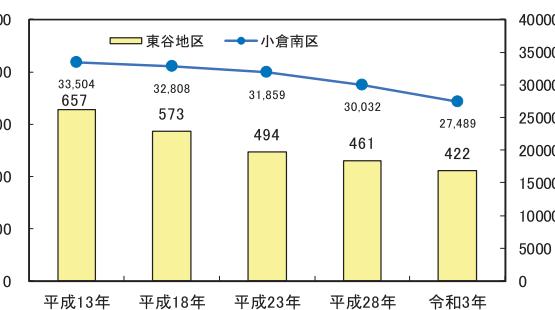
比率(H13=1.00)

	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年	令和3年
東谷地区	1.00	1.20	1.36	1.51	1.64
小倉南区	1.00	1.28	1.65	2.03	2.30

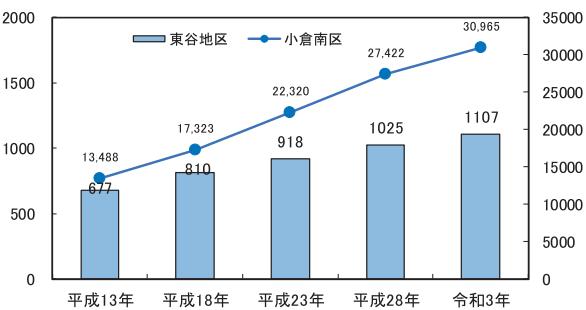
75歳以上人口 の割合

	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年	令和3年
東谷地区	11%	14%	17%	20%	24%
小倉南区	6%	8%	10%	13%	15%

1000



40000



△ 東谷地区の少子高齢化 (住民基本台帳)

○東谷の将来人口

簡易コーホート法を用いて将来人口を推計した。

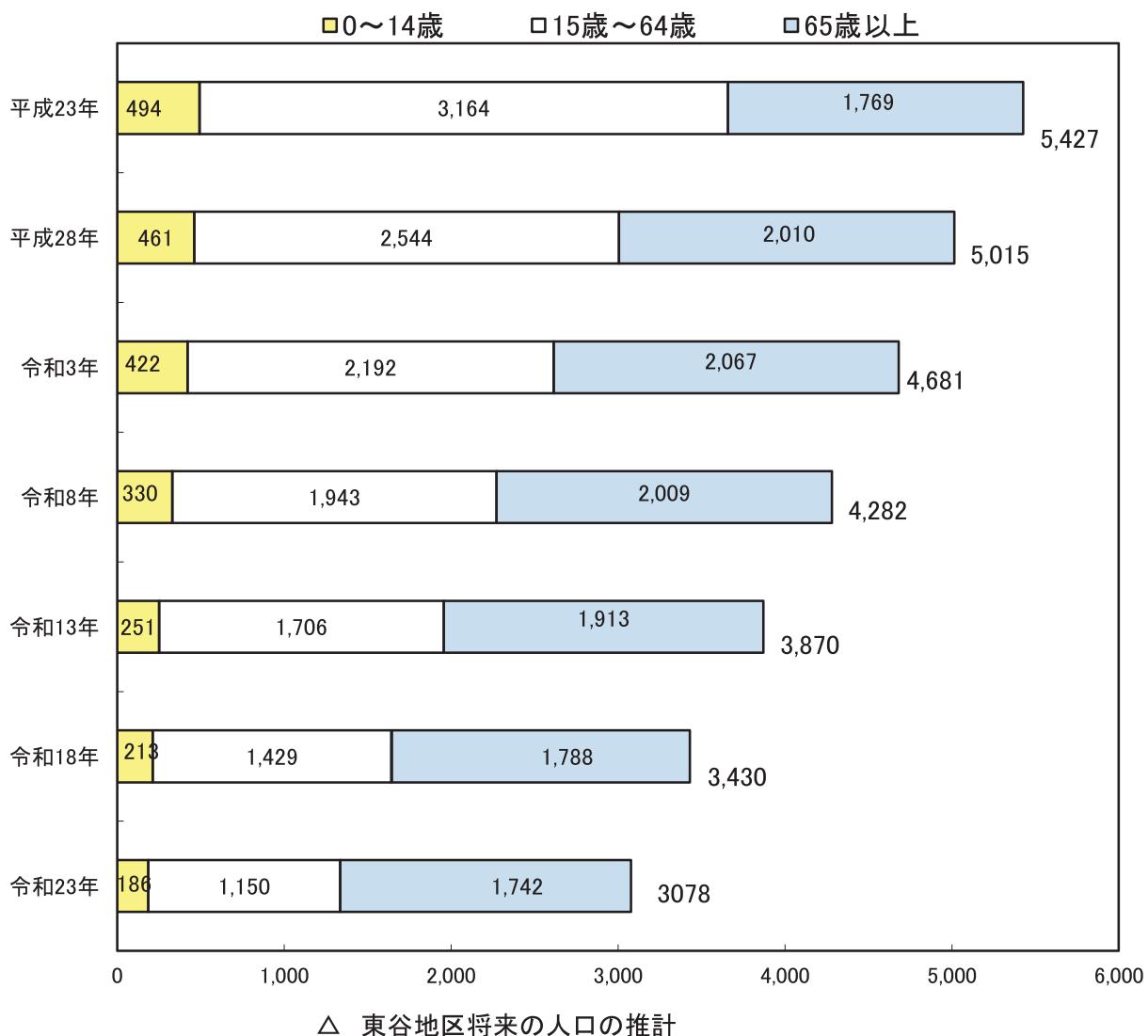
10年後は、約800人減少、20年後は約1600人減少し、令和23年で約3100人、令和3年比0.66となる。

子ども（15歳未満）は、420人が190人と半減する。65歳以上の人口は、今後は減少に転じるが、比率は増加し続け、20年後は、57%になる。東谷地区においては、20年後は6割が65歳以上の高齢者、子どもは10世帯に1人という超少子化、超高齢化社会が到来することになる。

高齢者福祉、公共交通問題、空き家や耕作放棄地問題、コミュニティの後継者問題、地域文化の継承問題など多くの課題が予見される。

<将来人口の推計>

	平成23年	平成28年	令和3年	令和8年	令和13年	令和18年	令和23年
人口	5427	5015	4681	4282	3870	3430	3078
差（対令和3年）	746	334	0	▲399	▲811	▲1251	▲1603
比率（対令和3年）	1.16	1.07	1.00	0.91	0.83	0.73	0.66

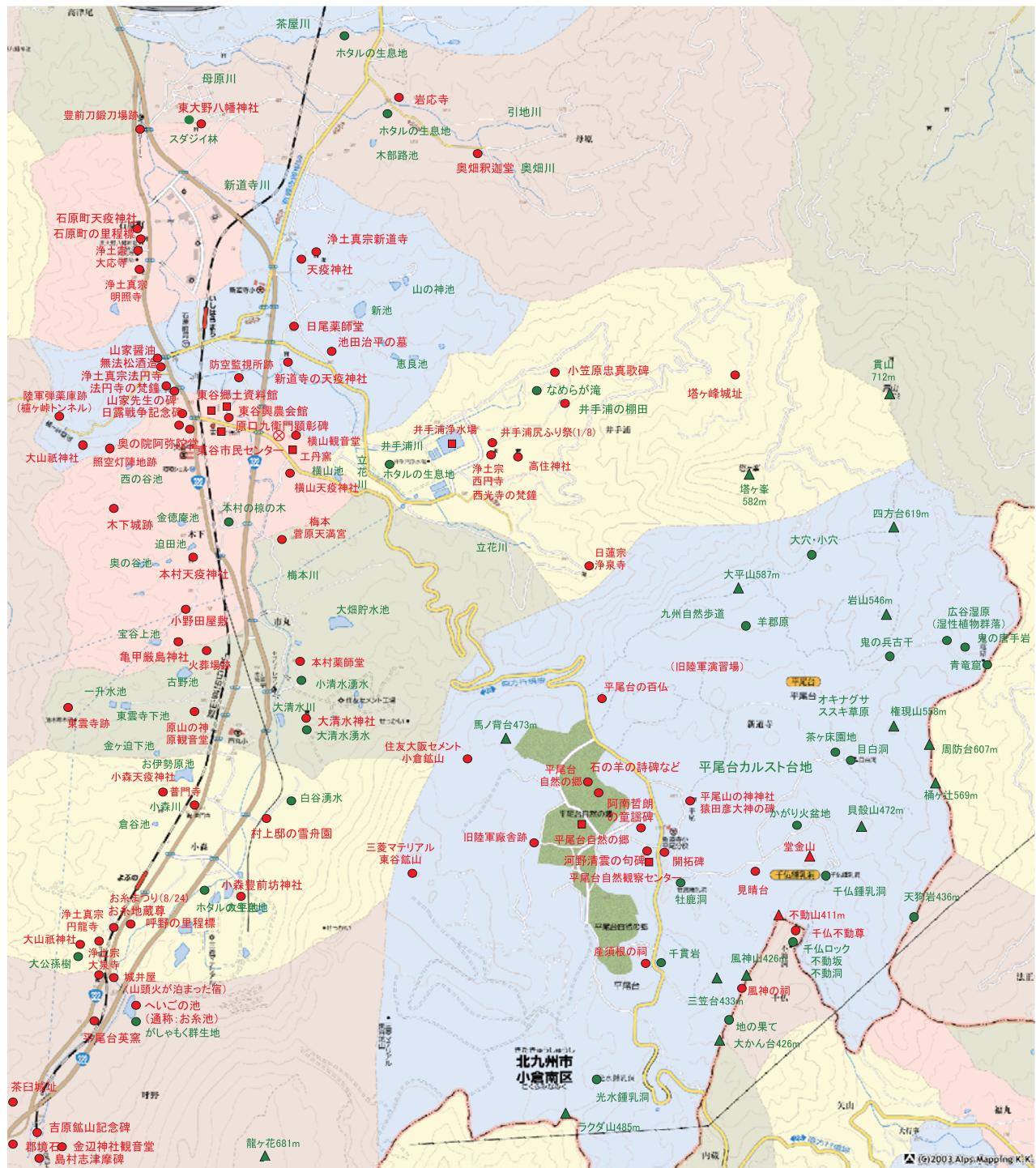


◆ 豊かな自然と文化財

○自然と文化財

東谷地区には自然が満喫できる平尾台がある。また、西には福知山系の山々、谷あいには田園風景が展開する。東谷川は、平尾台や福地山系の水と地区内にいくつもある湧水を集め、この地区を貫流している。この豊かな水と緑の中に多様な動植物や生物が生息しており、東谷地区は、自然に恵まれた地域である。

また、東谷地区には、豊かな自然に育まれ、ここに住む人々により支えられ、守られてきた文化や史跡などが数多くある。東谷地区まちづくり協議会では、教養文化部会がリニューアルした東谷興農会館のロビーで郷土資料館を運営している。



△ 東谷地区の豊かな自然と文化財



△大山祇神社のご神木 大公孫樹（呼野）

昭和37年7月26日福岡県指定天然記念物となる。胸高幹周8m50cm、一時期、樹勢が衰えていたので樹木医により回復手術を実施、現在は生き返り、銀杏もなっている。



△村上邸雪舟園（小森）

文正元年（1466年）、画僧雪舟は、英彦山に赴く途中に懇意であった小森の村上家に立ち寄った時、この庭園の樹木や地形に感激して、自ら池を掘り、石を据え、庭園を築造したといわれている。



△大清水神社（市丸）

神社の境内より靈水が湧き出ており、風水の神様が祀られている。往古は官社で毎年6月のみそかに大宰府より幣が奉られたという。大江匡房が、当神社に立ち寄り読んだ歌が「夫木集」に載せられている。



△原口九右衛門顕彰碑（木下）
企救一揆（明治2年）の責任者として日田にて処刑された原口九右衛門の顕彰碑。当時、役人や庄屋の不正が横行していた。これをただすべく東谷に端を発した一揆は次第に拡大し、企救郡一帯におよんだ。



△東大野八幡神社（石原町）

寛文7年（1667年）大野郷九ヶ村により東大野八幡神社が建立された。明治五年郷社となり、以来、東谷地区の氏神様として崇敬を集めている。



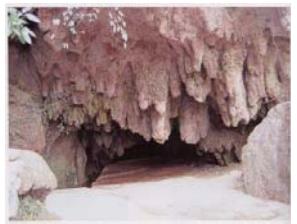
△山家先生之碑（新道寺）
法円寺にあり、「山家先生之碑」の文字は森鷗外の書である。中谷高等小学校が必要と訴え、31年逝去。享年28歳。



△里程標（石原町）
大応寺入口にあり、高さ1.5m程で30cm四方の石柱の3面「從是小倉迄武里武拾五町」「從是呼野迄是壹里十四町」と彫つてある。

○東谷地区の指定文化財

▽ 東谷地区的指定文化財

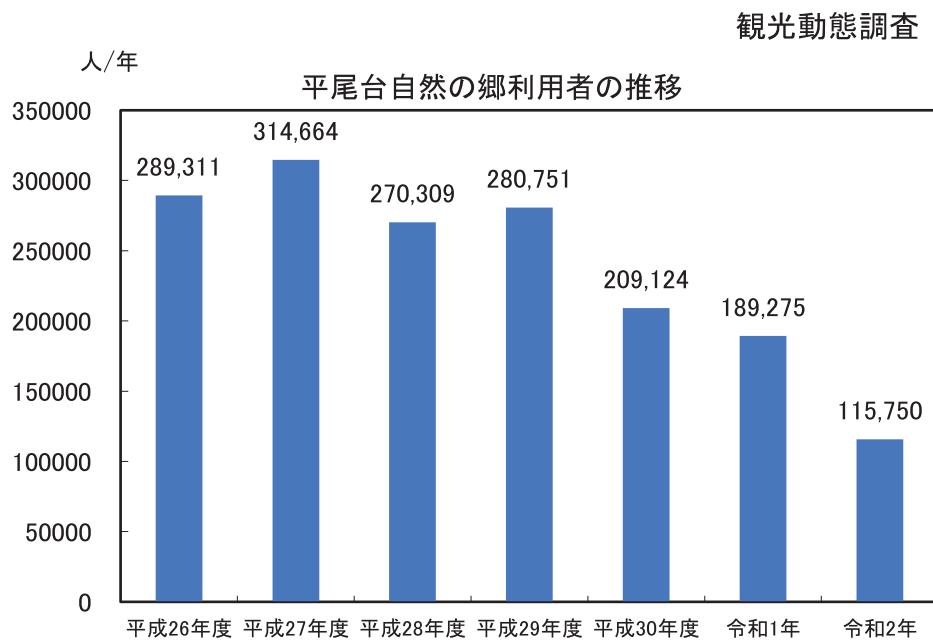
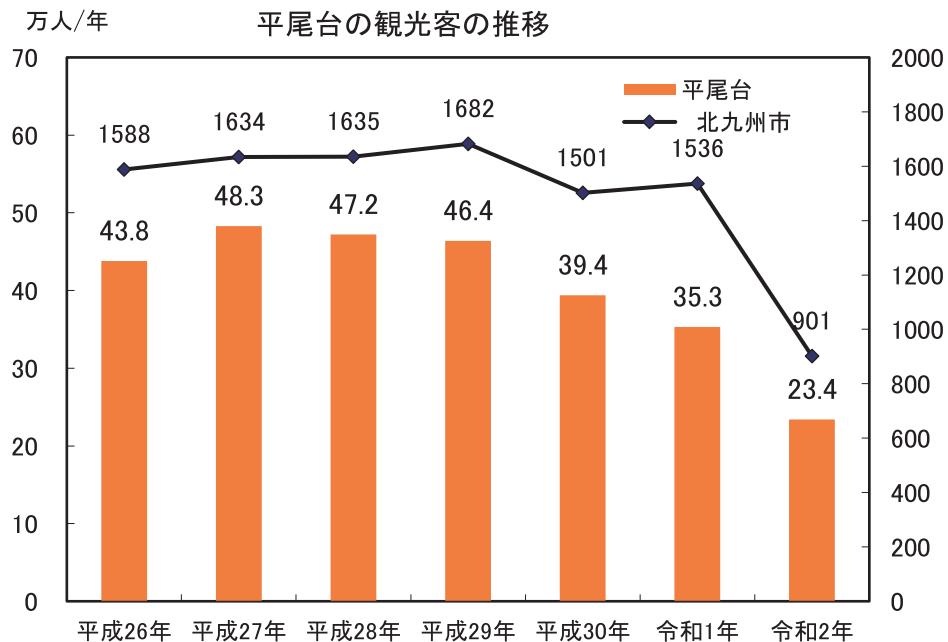
文化財名	指定区分	指定年月日	
平尾台	国指定 天然記念物	昭和27年11月22日	
千仏鍾乳洞	国指定 天然記念物	昭和10年12月24日	
大山祇神社の公孫樹	県指定 天然記念物	昭和37年7月26日	
西光寺の梵鐘	県指定 有形文化財	昭和34年3月31日	
法円寺の梵鐘	県指定 有形文化財	昭和34年3月31日	
大清水神社の銅製鰐口	市指定有形文化財	平成29年3月31日	

資料:北九州市のホームページより

○平尾台の観光客数

平尾台では、平成 15 年に平尾台自然の郷がオープンした。この年に平尾台の観光客は、年間 55 万人を記録している。最近の観光客の推移をみると減少傾向にある。令和 2 年については、5 年前の半分以下であるが、これは、新型コロナウィルスの影響である。

平尾台の観光客を増加するには、平尾台の施設、みやげものやサービスを充実して観光ポテンシャルの高度化を図るとともに、地元東谷地区の文化財や伝統芸能等との連携、周辺観光地との周遊ネットワークの形成やこれを支える道路やバス等の交通基盤整備が課題となる。



△ 平尾台と自然の郷の観光客数の推移

◆ 交通現況

○ 鉄道

東谷地区の平地の中央をJR日田彦山線が通っており、石原町、呼野、志井（母原地区の多くの人が利用）の3駅がある。平成27年に石原町駅が無人駅され、3駅とも無人駅となった。



△ JR日田彦山線「A列車で行こう」が東谷を走る。(平成29年12月21日)

日田彦山線は平成29年7月の九州北部豪雨により添田～夜明間が不通

○ バス交通

利用者減を背景としてバスは平成29年10月より中谷止まりで7往復となった。令和3年10月より田川線が廃止され、東谷線が呼野(頂吉越↔中谷・徳力公団)までの6往復で1年間の試験運行が行われている。

また、平尾台と石原町駅を連絡するおでかけ交通平尾台線が運行している。同路線は、東谷地区まちづくり協議会が運営主体、(有)ひまわりタクシーが運行主体となっている。

▽ 東谷地区の公共交通機関の運行本数

路線等		運行本数（往復合計）						備考
		平成13年7月	平成21年8月	平成23年9月	平成29年9月	平成29年10月	令和3年10月	
西鉄バス	田川線・東谷線	70本/日	44本/日	38本/日	32本/日	14本/日	12本/日	田川線は令和2年9月廃止
	志井線	26本/日	31本/日	31本/日	32本/日	30本/日	20本/日	東谷線は令和3年10月より
おでかけ交通	平尾台線	8本/日 (全日)	4本/日 8本/日	平日:水曜のみ運行 休日	平日:休止、予約のみ 8本/日 休日	※12~3月は運休	※12~3月は運休	H13は西鉄バスが運行 H15年4月1日から運行
JR	石原町駅	52本/日	53本/日	50本/日	50本/日	50本/日	47本/日	

交通事業者の時刻表より

鉄道やバスの運行本数は年々減少して来ている。高齢者の自動車免許返納を促す動きがある中、東谷地区においては、鉄道やバス、おでかけ交通といった公共交通の存続は大きな課題であり、運行主体と協力して公共交通機関の利用増を図る必要がある。



△ 令和3年10月 東谷線に就便した小型バス

○道路網

北九州と筑豊地域、筑後地域を連絡する国道322号の旧道とバイパスが南北に並行して通り、東西方向には主要地方道直方行橋線が道原地区と国道322号沿いの平野部、平尾台を結んでいる。直方行橋線の西側は1車線道路で、東側は平尾台登山道として機能している。この平尾台登山道区間は、大雨のため崩落して通行止めや通行規制になることが多い、樹木による通行障害があるなどの問題がある。

南北方向には、志井を経由し、徳力と連絡する県道井手浦徳力線（2車線）、県道新道寺曾根線（1車線区間あり、母原～曾根は不通区間）がある。その他、駅と国道322号旧道を連絡する県道石原町停車場線、鱒淵ダムと連絡する県道呼野道原徳力線（一部1車線）と下表に示す市道が幹線道路網を形成している。

国道322号旧道、主要地方道、県道、幹線市道の整備水準は決して高いとは言えず、1車線区間の2車線化や歩道の整備などの課題がある。現在、新道寺小北交差点では、交通混雑、変則交差点で交通事故が多発していることから交差点改良が行われている。



△ 東谷地区の幹線道路網

◆ 東谷地区のコミュニティ活動

○行事と催物

東谷地区では井手浦の「尻振り祭(八日座まつり)」や呼野の「お糸まつり」、昔ながらの神社の祭などの伝統行事が地域文化として受け継がれています。また、地域の融和と活性化を図るために「東谷地区成人祭」や「平尾台観光祭」、「東谷フェスティバル(チャリティコンサート、東谷地区文化祭、東谷農業まつり)」、など地区独自の催物もあります。その他、「東谷地区敬老会」、「東谷地区体育祭」、「東谷地区新年祝賀会」、平尾台の「野焼き」や「ふゆはなび」、「クロスカントリー」、「トレイルラン」などの多くの催物が開催されています。

▽ 東谷地区の行事と催物

月	行事	時期	主催等
4月	入学式	上旬	各学校
	春季大祭	上旬	各神社
	東谷地区戦没者慰靈祭	中旬	東大野八幡神社
	平尾台トレイルランニングレース	中旬	トレイルラン実行委員会
	東谷地区ソフトボール大会	中旬	体育委員会
	市民センターのこいのぼり設置	中旬	まちづくり協議会
	まちづくりカップグラウンドゴルフ大会	下旬	まちづくり協議会
	東谷地区役員歓送迎会	下旬	自治連合会
5月	各種団体の総会	上旬～6月上旬	各団体
	祈年祭	中旬	東大野八幡神社
	市民センター、石原町駅の草刈り、清掃	中旬	まちづくり協議会
6月	役員の役所及び事業所の挨拶まわり	中旬	まちづくり協議会
	東創杯親睦ソフトバレー大会	中旬	まちづくり協議会
	東谷グラウンドゴルフ大会	中旬	体育委員会
7月	皆作ごもり	中旬～下旬	各神社
	東谷老連グラウンドゴルフ大会	中旬	東谷老連
	市民センター、石原町駅の草刈り、清掃	中旬	まちづくり協議会
	ガシャモク見学会	中旬～下旬	呼野町内
	平尾台観光祭	下旬	平尾台観光協会
8月	夏越祭・土用ごもり	下旬	各神社
	各町内初盆会・慰靈祭	上旬～中旬	各町内
	まつりみみなみ	中旬～下旬	役員・婦人会・町内青年会
	お糸まつり	下旬	呼野町内
9月	平尾台共同開発地視察	下旬	東谷地区協議会
	平尾台防火帯設置事業開始	中旬	野焼き委員会
	東谷中学校体育大会	中旬	中学校
	東谷地区敬老会	敬老の日	社会福祉協議会
	小森豊前坊まつり	中旬	小森町内会
10月	敷地払い	下旬	神社・各地域
	市民センター、石原町駅の草刈り、清掃	中旬	まちづくり協議会
	東谷地区体育祭	上旬	体育委員会
	新道児ぶれあい秋まつり	中旬	新道寺小
	小学校運動会	下旬	市丸小、新道寺小
11月	東谷フェスティバル コンサート、文化祭、東谷農業まつり	10月下旬 ～11月中旬	まちづくり協議会、東谷市民センター 平尾高原利用組合、東谷興農会
	東谷中学校文化発表会	上旬	中学校
	秋季例大祭	上旬	各神社
	市丸小学校収穫祭	上旬	市丸小学校
	平尾台共同開発環境アセスメント報告会	下旬	東谷地区協議会
12月	新道寺一町内文化祭	上旬	新道寺一町内
	市民センターのイルミネーション設置	上旬	まちづくり協議会
	各種団体忘年会	下旬	各団体
	門松づくり	下旬	まちづくり協議会
1月	歳旦祭	1/1	各神社
	井手浦尻振り祭（八日座祭）	1/8	井手浦町内
	東谷地区成人祭	上旬	まちづくり・社協
	東谷地区新年祝賀会	上旬	地区協議会
	どんど焼き	上旬～中旬	各神社
2月	節分祭	2/3	東大野八幡神社
	ふゆはなび	中旬	ふゆはなび実行委員会
	平尾台の野焼き	下旬	平尾台野焼き委員会
3月	卒業式	中旬～下旬	各学校
	平尾台クロスカントリー	下旬	クロスカントリー実行委員会

〈4月〉



△ 31年度東谷地区歓送迎会

〈6月〉



△ 東創杯ソフトバレー大会

〈8月〉



△ お糸まつり(呼野町内会)

〈9月〉



△ 東谷地区区民体育祭

〈5月〉



△ 市民センターこいのぼり

〈7月〉



△ 平尾台観光まつり(登山者安全祈願祭)

〈9月〉



△ 敬老会

〈10月〉



△ 市民センター草刈り

〈11月〉



△ 文化祭(市丸小学校合唱)

〈11月〉



〈12月〉



〈1月〉



〈2月〉



〈1月〉



〈1月〉



〈2月〉



○町内自治会

町内自治会はコミュニティ組織の基本である。東谷地区まちづくり協議会では、会長は自治連合会の会長であり、総ての町内会長を協議会の役員に位置づけており、まちづくり活動の根幹を町内自治会と町内会長が支えている。

東谷地区は12の町内自治会で構成され、町内自治会への加入は合計で1,442所帯である。

近年、町内会の加入所帯数は減少し続けている。加入者を増加させることが町内自治会の課題の1つである。

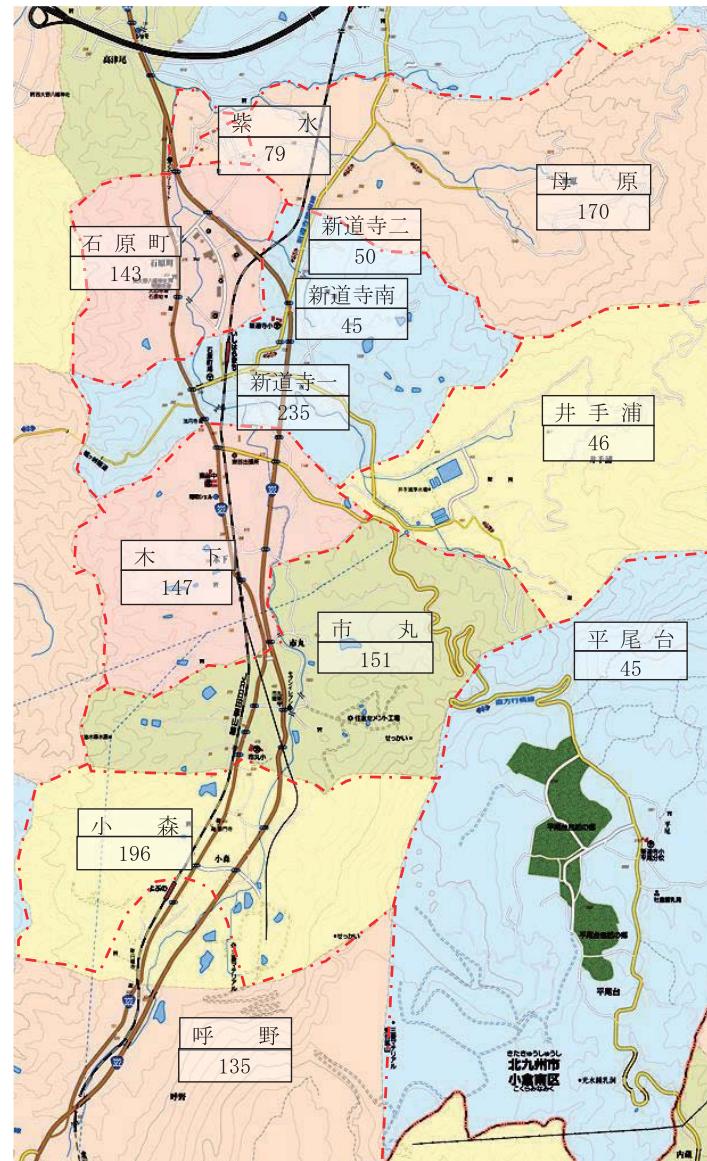
▽ 東谷地区自治連合会の組織

【東谷地区自治連合会役員】

役職	会長名	町内自治会
連合会長	内尾 正憲	新道寺一
副会長	有吉 和美	市丸
副会長 (会計)	田村 章憲	石原町
事務局長	橘木 秀徳	

【町内別の加入所帯数】 令和3年4月現在

町内 自治会	町内会長名	組数	加入 所帯数
呼野	河野 秀春	18	135
小森	高住 一夫	13	196
市丸	有吉 和美	19	151
木下	奥村 英喜	15	147
井手浦	内山 勝則	4	46
新道寺一	内尾 正憲	14	235
新道寺二	大下 数行	6	50
新道寺南	山下 明博	3	45
母原	獅峯 孝弘	14	170
紫水	力武 重雄	6	79
石原町	田村 章憲	10	143
平尾台	森山 博美	6	45
合計		128	1,442



東 谷 の 将 来 像

30年後の東谷” ——東谷まちづくりアンケート調査概要——

「東谷地区の将来像」を探るべく、新道寺小・市丸小6年生と東谷中1、2年生に約30年後の2050年を想定したアンケート調査を実施しました。

1. 回答者の属性

全体で回答者は103人です。内訳は、男子が62人、女子が41人で、学校別では市丸小学校が14人、新道寺小学校が23人、東谷中学校が66人であった。

学年別では、小学6年生が37人、中学1年生35人、中学2年生31人といずれも30人以上で均衡のとれた回答数を得ることができた。

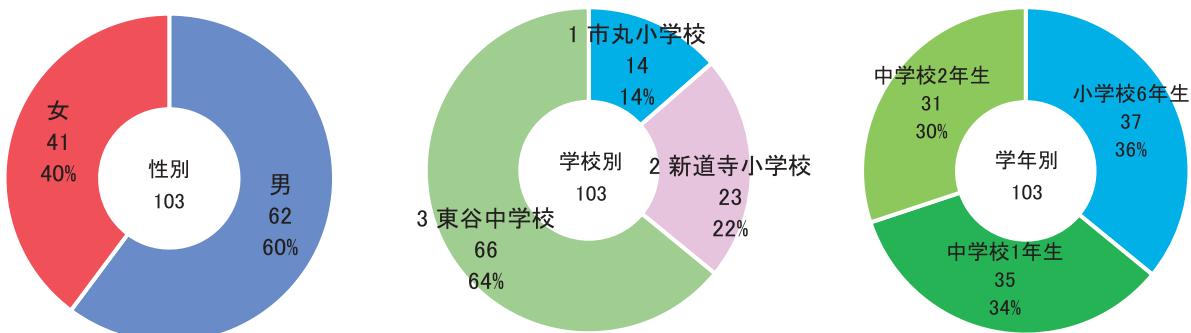


図 1-1 回答者の属性

2. 自分の将来像

(1) 「好きな仕事」、「安定した仕事と生活」、「マナーある」大人になる。

『将来、どのような大人になりたいか』の質問に対しては、「好きな仕事をしている」が50人と一番多く、49%が選択している。次いで「安定した仕事に就き、安定した生活をする」が29人(28%)、「マナーがしっかりしている大人」が26人(25%)、「好きな趣味にうちこんでいる」が25人(24%)となっている。

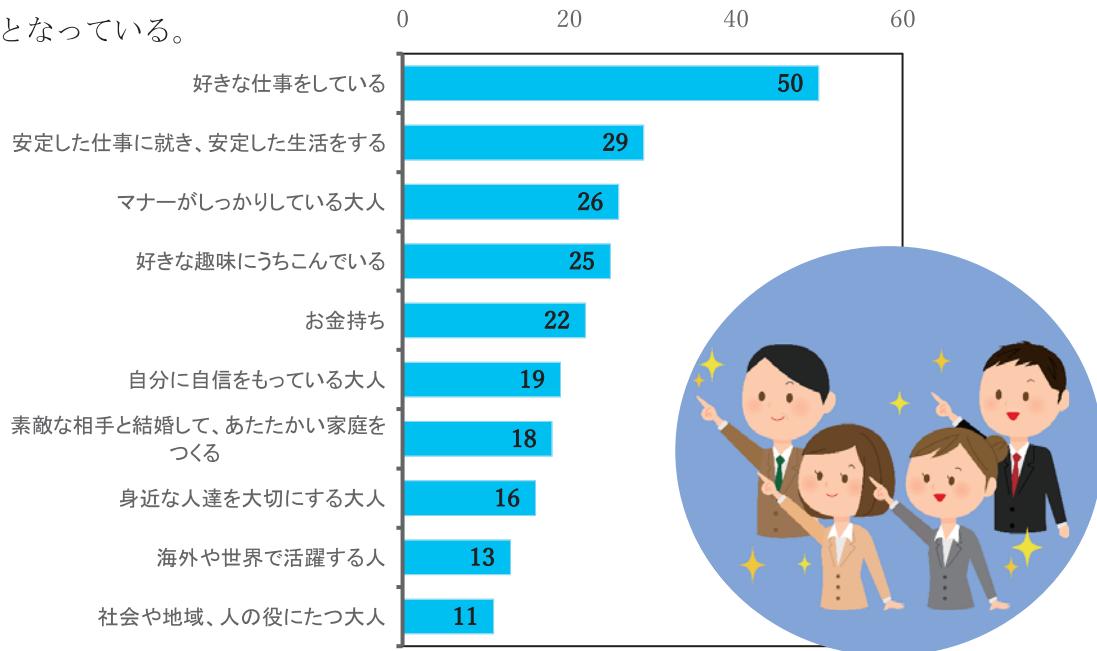


図 2-1 どのような大人になりたいか(上位10位)

(2) 将来の職業は「会社員」、「プロスポーツ選手」、「ショップ経営・店員」

『将来の職業』は、「会社員」が 16 人(16%)と一番多く、次いで「プロスポーツ選手」が 14 人(14%)、「ショップ経営・店員」13 人(13%)となっている。

学年別では、小学 6 年生は「ショップ経営・店員」、中学 1 年生は「プロスポーツ選手」、中学 2 年生は「会社員」を選択する人が一番多かった。

尚、「政治家」、「介護士、介護支援専門員など介護関係」を選択する者は居なかった。

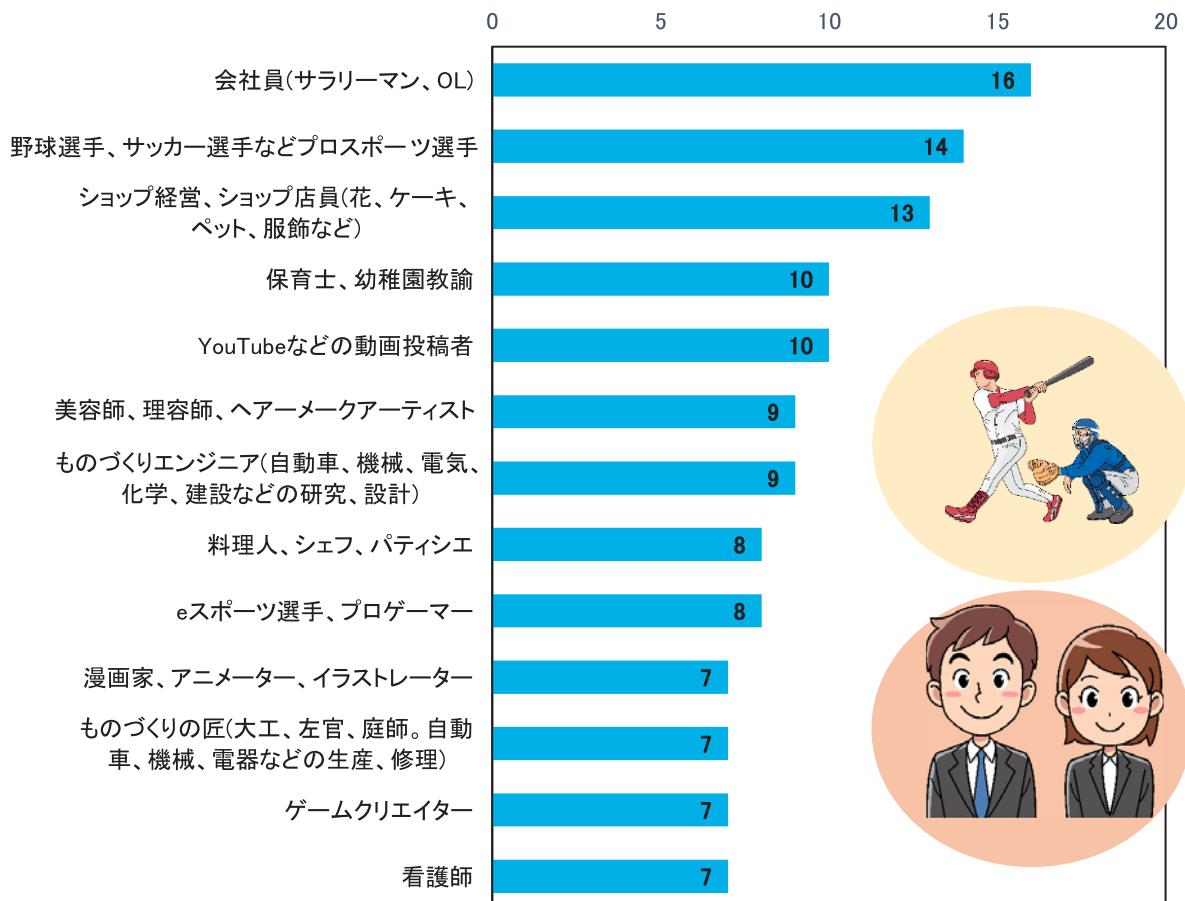


図 2-2 将來の職業(上位 10 位)

(3) 東谷地区への愛着度は約 9 割

東谷地区に愛着を「感じている」、「どちらか」というと感じている」が 87%と愛着度は高い。「愛着を感じていない」とする者はいなかった。

愛着を「感じている」、「どちらか」というと感じている」を学年別にみると小学 6 年生は 87%、中学 1 年生は 97%と高く、中学 2 年生は 77%と低かった。

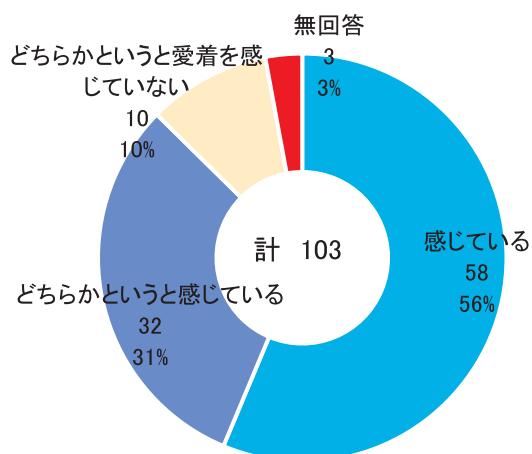


図 2-3 東谷地区への愛着

(4) 将来の居住希望は約6割

将来、東谷地区に「住みたい」、「どちらかというと住みたい」とする人が61%、「どちらかというと住みたくない」、「住みたくない」が39%である。

「住みたい」、「どちらかというと住みたい」の割合は、小学6年生は65%、中学1年生は77%と高く、中学2年生は39%と低い。

住みたくない理由としては、「都会に行く」、「他の地域に行く」(夢をかなえるためなど)、店がない、買物や生活に不便などの理由が多かった。

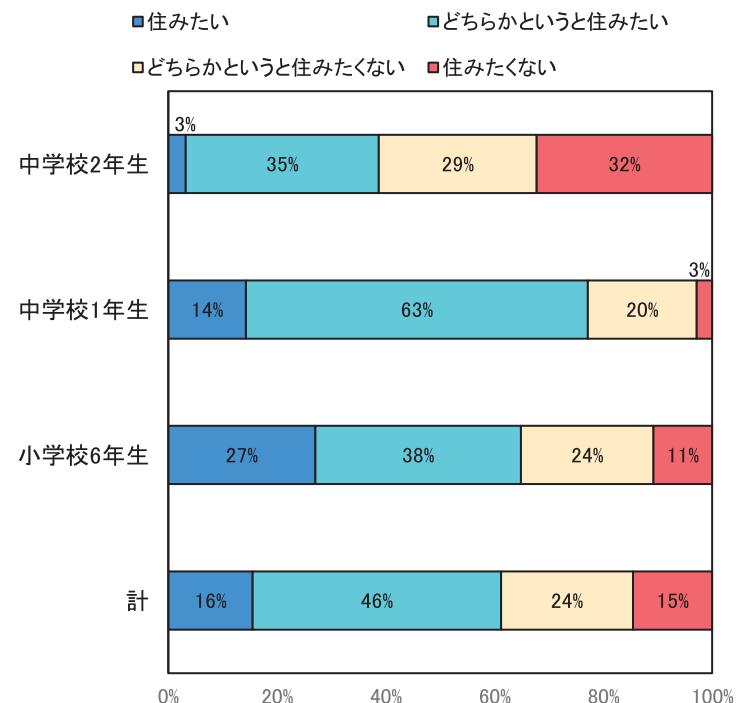


図 2-4 将來の居住

3. 東谷地区の課題と将来像

(1) 東谷地区の長所と短所

【東谷地区の長所】	【東谷地区の短所】
1位 「自然環境に恵まれている」 95人 (92%)	1位 「買い物など日常生活が不便」 54人 (52%)
2位 「良い友達が多い」 65人 (63%)	2位 「鉄道やバスが不便」 42人 (41%)
3位 「近所づきあいがしやすい」 45人 (44%)	3位 「余暇や娯楽を楽しむ機会が少ない」 21人 (20%)
4位 「農林業が盛ん」 11人 (11%)	4位 「働く場が少ない」 15人 (15%)である。

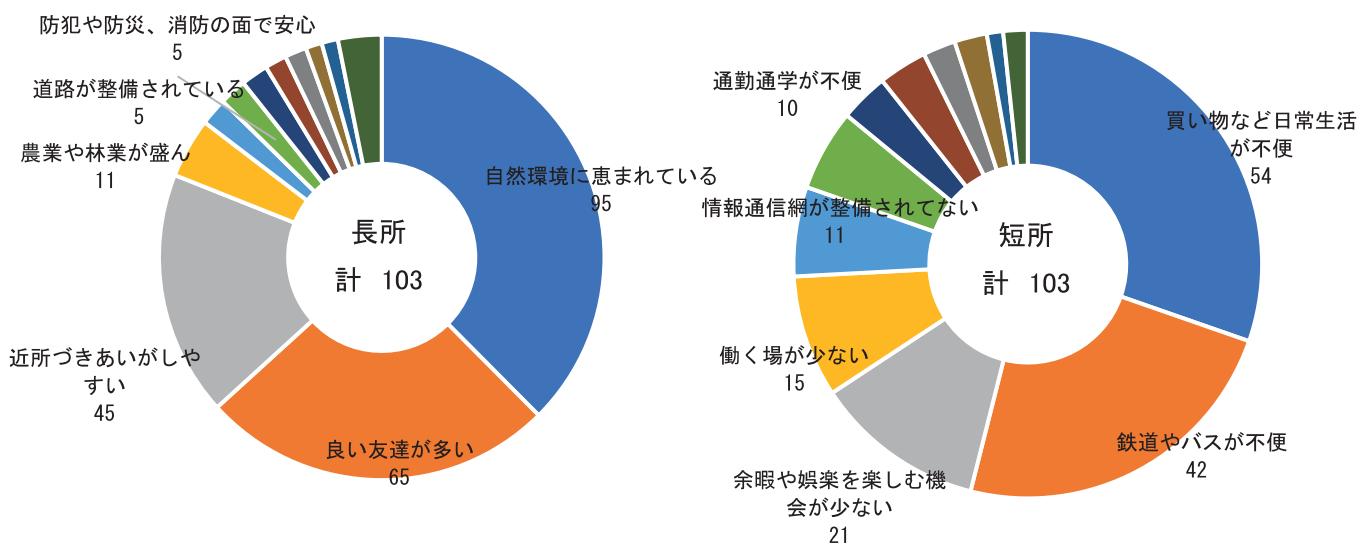


図 3-1 東谷地区の長所と短所

(2) 東谷地区の将来像

- | | | |
|----|-------------------------|----------|
| 1位 | 「緑豊かな自然環境にめぐまれたまち」 | 44人(43%) |
| 2位 | 「人権を守り、さまざまな人にやさしいまち」 | 31人(30%) |
| 3位 | 「災害に強く、犯罪や事故のない安心安全なまち」 | 25人(24%) |
| 4位 | 「高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉のまち」 | 23人(22%) |
| 5位 | 「道路や公共交通サービスが充実した便利なまち」 | 20人(19%) |

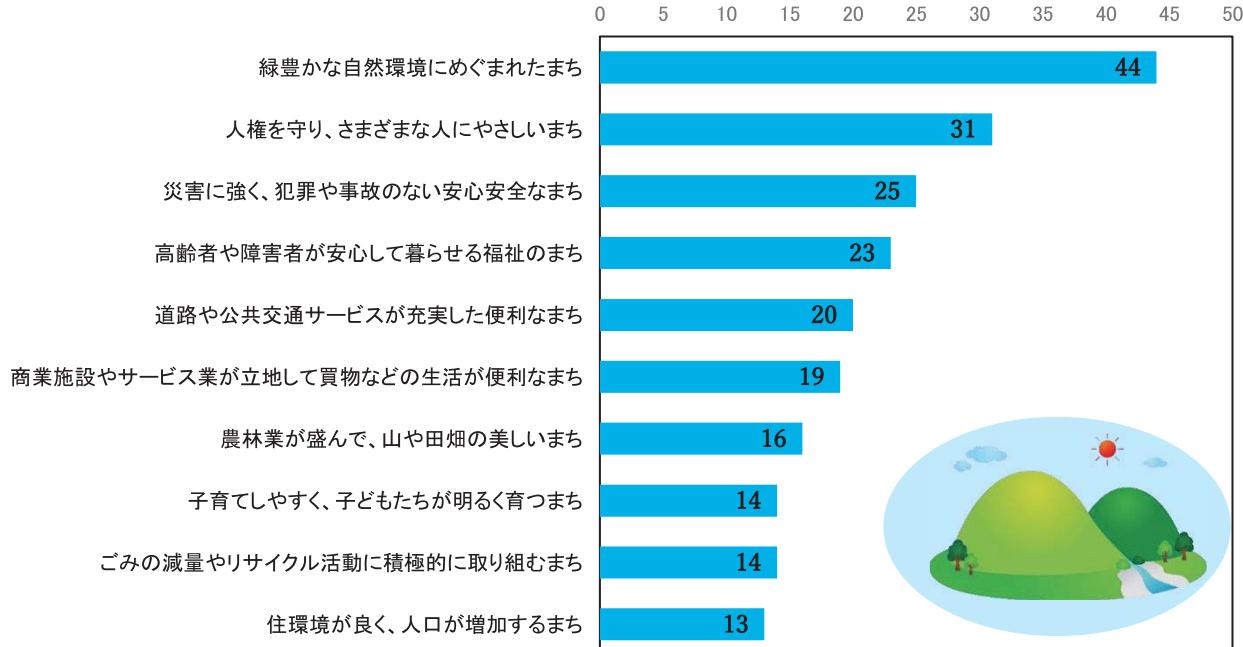


図 3-2 東谷地区の将来像(上位 10 位)

(3) 30 年後のあるべき姿

30 年後のあるべき姿を示すキャッチフレーズを投稿していただいた。このキーワード出現状況を表に示す。また、下記は、投稿されたキャチフレーズの例を示したものである。

【キャチフレーズの例】			
・緑豊かな笑顔あふれる東谷			
・自然豊かな東谷			
・緑豊かな住みよい東谷			
・人にやさしい緑豊かな東谷			
・みんなで支えるみんなの東谷			
・誰もが安心安全に過ごせる東谷			
・自然豊かな人あたたかい夜空がきれいな東谷			
・自然豊かな明るい東谷			
・緑豊かな美しいまち			
・誰もが住みやすく楽しい東谷			

「東谷地区のあるべき姿」のキーワード集計

キーワード	人数	選択率	備考
東谷	63	64%	
豊か	36	37%	「ゆたか」含む
自然	35	36%	
緑	25	26%	
緑豊か	15	15%	
住みよい	14	14%	「住みやすい」等含む
自然豊か	13	13%	
やさしい	13	13%	「優しい」含む
みんな	12	12%	「誰も」含む
安心安全	7	7%	「安心」含む
きれい	7	7%	
明るい	6	6%	
美しい	5	5%	
楽しい	5	5%	
記入者	98		

編 集 後 記

皆さんありがとうございました。

東谷地区まちづくり協議会広報部会一同

東谷地区まちづくり協議会が 20 周年を迎えるにあたり「20 年のあゆみ」を発行することができました。

皆様にはこれまでの「まちづくり」を振り返った原稿を、地域の学校（小6・中1、2）にはアンケートの形でこれからのが「まちづくり」に関する意見を頂きました。

郷土愛のたくさん詰まった記念誌を完成する事が出来ました事を心より感謝申し上げます。

結びに世界中で猛威を振るうコロナ感染症ですが、1 日も早い収束を祈念致します。



◇ 記念誌の担当

担 当	氏 名
表紙・裏表紙絵	内山勝則
挿 絵	健康づくり部会 絵手紙部の皆さん
20周年ロゴ	村上志織
写 真	本田幸次郎ほか
制 校 編 作 正 集	山下郁史 蟹川昭代 馬場純子 村上裕美 高住美智代 高尾美佳子 原田優二 浦塚文子 内田啓子

(敬称略)

20周年記念誌 「東谷まちづくり 20 年のあゆみ」

令和 4 年 3 月 20 日 発 行

発行者 東谷地区まちづくり協議会

編 集 東谷地区まちづくり協議会広報部会

住 所 北九州市小倉南区木下 704-1 TEL 093-451-0217

印 刷 (株)ARIZONA (小倉南区長尾 5 丁目 3-5-201 ☎093-647-5170)

20周年記念事業趣意書・寄付広告一覧

【まちづくり協議会 20周年記念事業趣意書】

東谷地区まちづくり協議会は、平成13年8月29日に発足し、今年で二十年を迎えました。まちづくり協議会の20年の足跡をたどり、地域をあげてこれを祝い、さらなる東谷地区の発展をめざすために「東谷地区まちづくり協議会 20周年記念事業」を企画しました。

「20周年記念式典」をはじめ、「20周年記念東谷フェスティバル」やその他イベントを計画しておりましたが、新型コロナウィルス感染症のため残念ながら開催を断念することになりました。

但し、地域の発展を図るためまちづくり協議会のあゆみを辿り、記録することは大切と考え、「東谷地区まちづくり協議会 20周年記念誌」につきましては、地域の皆様や企業、団体のご協力、ご支援を賜り作成することにいたしました。

東谷地区まちづくり協議会 20周年記念事業

1. 東谷地区まちづくり協議会20周年記念誌の作成

- (1) 挨拶
- (2) 祝辞
- (3) まちづくり協議会 20周年によせて
- (4) 東谷地区まちづくり協議会のあゆみ
- (5) まちづくりと市民センターの活動
- (6) わがふるさと東谷
- (7) 東谷の将来像

新道寺小・市丸小6年生と東谷中1、2年生に約30年後の
2050年を想定したアンケート調査を実施し東谷のめざす
方向を探ります。

- (8) 協賛広告一覧
- ご協賛いただきました企業・団体を寄付・広告欄に
掲載させていただきます。

2. 20周年記念事業

- (1) 市民センター備品整備事業
- プロジェクター、ポータブルアンプ、IT機器の更新
- (2) その他

【まちづくり協議会20周年記念誌寄付広告一覧】



三菱マテリアル(株) 東谷鉱山



(一社) 東 谷 興 農 会

東 谷 地 区 協 議 会

住友大阪セメント(株)小倉事業所

平 尾 台 觀 光 協 会

東 谷 地 区 自 治 連 合 会

東谷地区社会福祉協議会

東谷地区青少年健全育成協議会

小 倉 鉱 業 (株)

ハートランド平尾台 (株)

東 谷 地 区 婦 人 会

(医)杏和会 平尾台病院・(福)杏和会 やまびこ学園

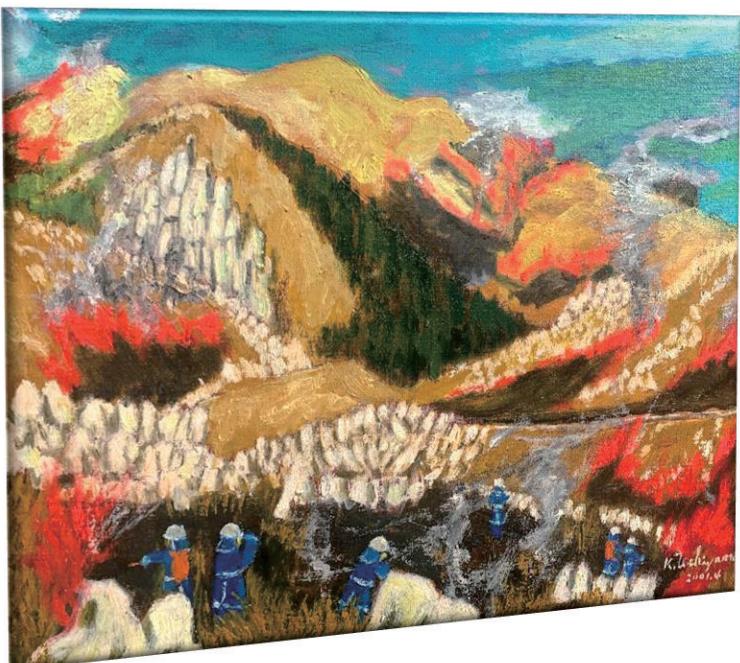
平 尾 高 原 利 用 組 合・東谷地区老人クラブ連合会

東 谷 地 区 体 育 委 員 会

東谷地区まちづくり協議会の20周年記念事業に、ご支援いただきまして、誠にありがとうございます。

皆様からのご净財により20周年記念事業が出来ることは、東谷地区の発展の上で少なからず意義あるものになると信じております。

まちづくり協議会関係者は、20周年記念事業を契機に、さらなる東谷地区の飛躍を目指して、努力いたす所存でございますので、より一層のご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



Anniversary



Higashitani Community Conference

